
龍大和
presented by Ryu Yamato
young magazine KC
俺の指先
濡れる世界
3

cover design :
Tadashi Hisamochi + Nagomi Hashimoto (hive&co.,Ltd.)

俺の指先で濡れる世界 3

A world wet with my fingertips

龍大和

CONTENTS

A world wet with my fingertips VOL.3
Presented by Ryu Yamato

第⑯話　女しかいない街　003

第⑰話　男の憧れ　021

第⑱話　あなたは愛を知らない　039

第⑲話　愛を教えてあげる♡　057

第⑳話　キャミィの秘密　077

第㉑話　聖なる存在　095

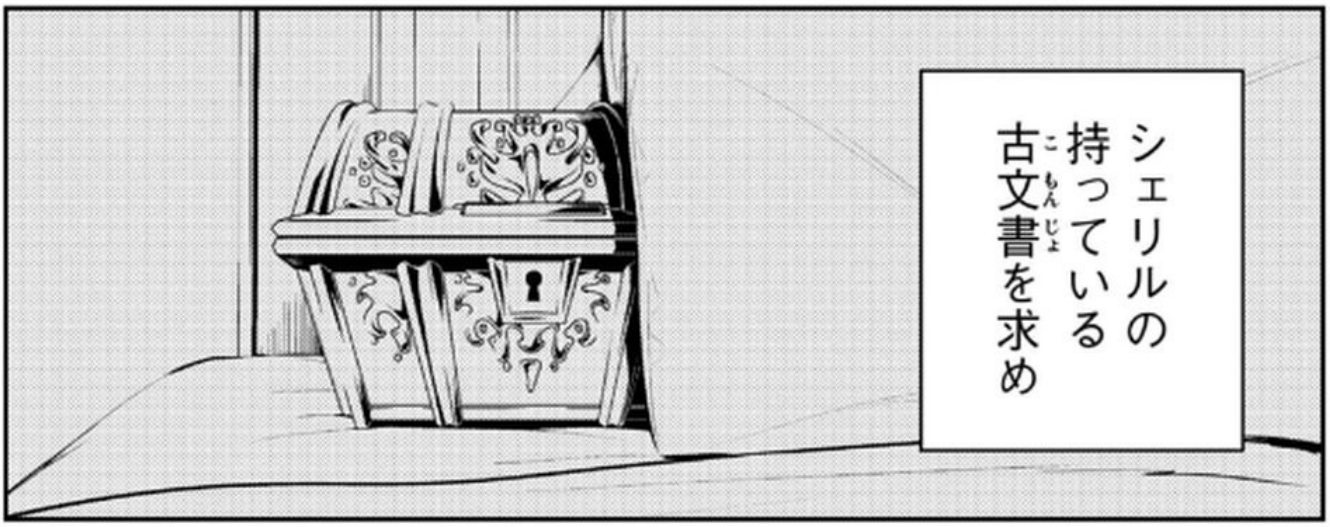
第㉒話　出会ってしまった♡　115

第㉓話　聖天主のホンネ　133

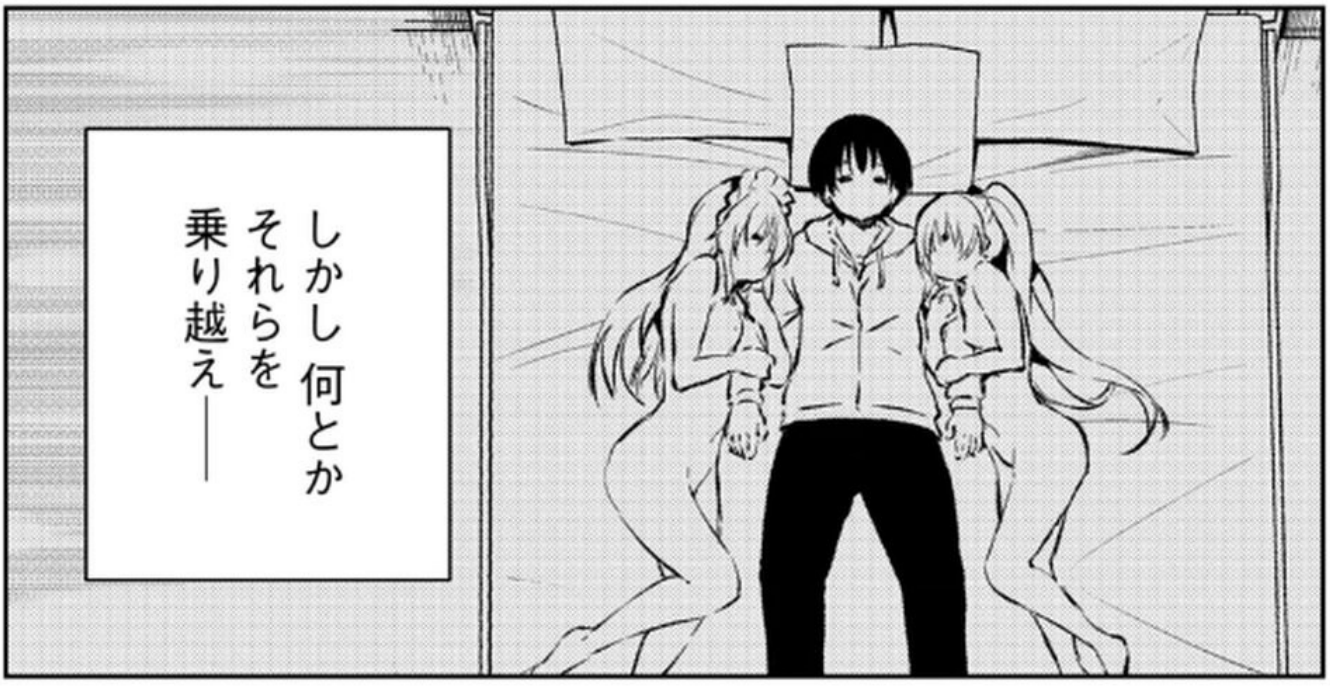
第㉔話　教団の祭り　151

おまけ　異世界には行かずタイムリープしてしまった件（指の力もあるよ！）　170

第⑯話 女しかいない街








俺は
やっとの事で
古文書を
手に入れた

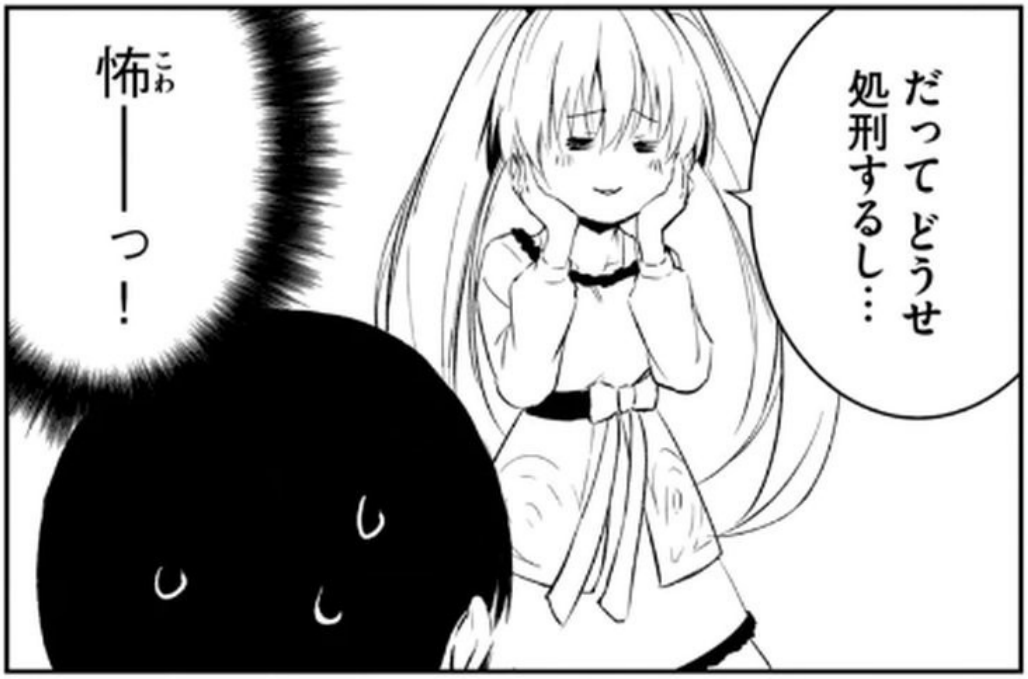

ぱら
だが
読めん…!!

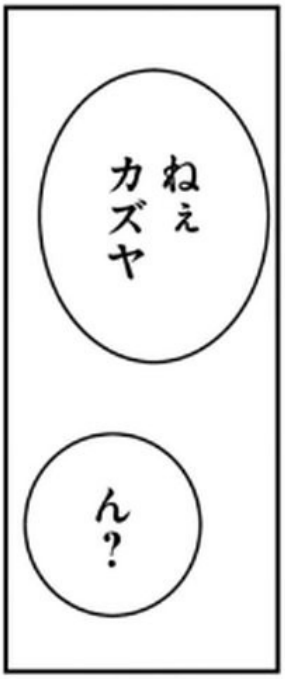

あーっ!

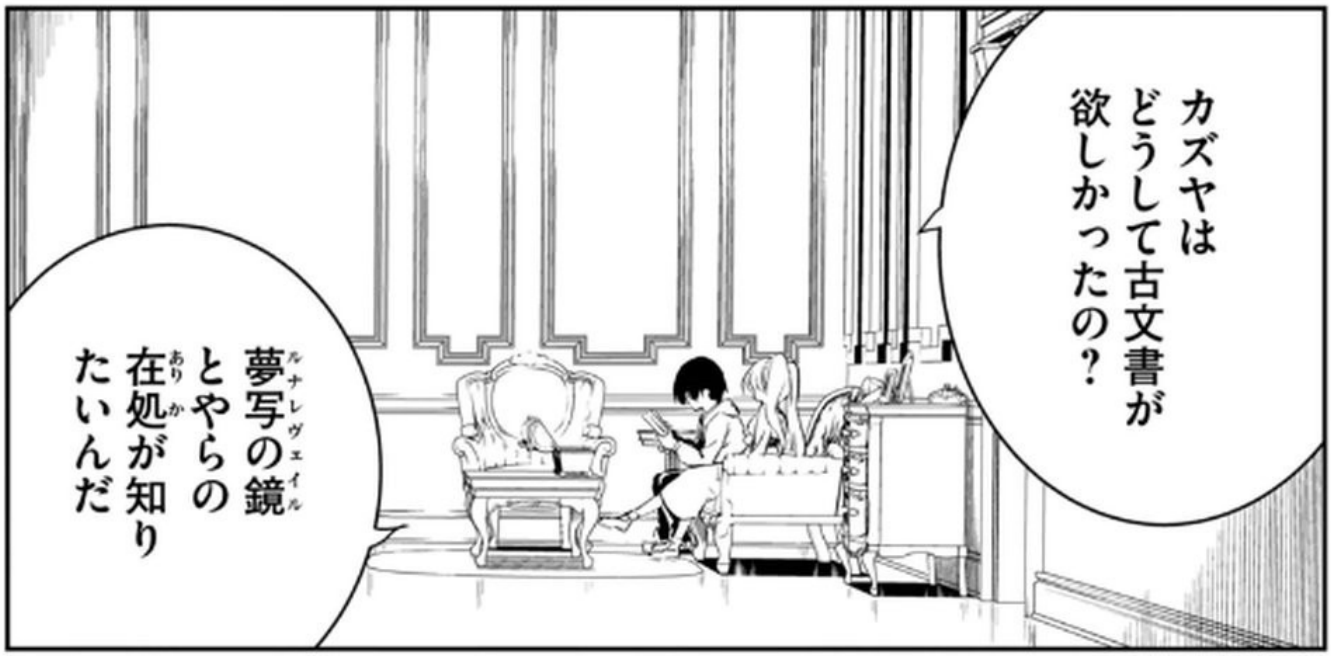

やっぱり
鍵を取ったのは
カズヤだった
のね！


やっぱり
って…
気づいてた
のか？
そりゃ
もちろん


だったら
どうして追及
しなかった
んだ？


だってどうせ
処刑するし…
怖――っ！

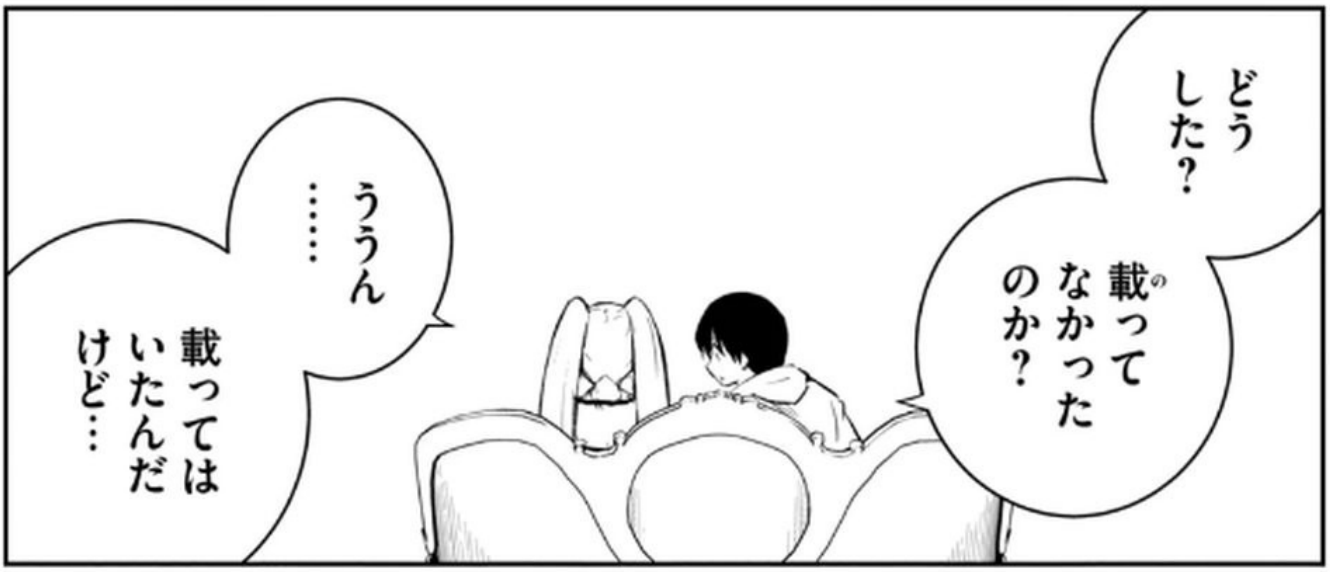

ねぇ
カズヤ
ん？


カズヤは
どうして古文書が
欲しかったの？
夢写の鏡（ルナレヴェイル）
とやらの
在処（ありか）が知り
たいんだ


それが古文書に
書いてあるの？
マリーさんは
そう言ってた
けど…
読めん


貸して
読んであげる
から
ああ
ありがとう


えーと
……
いっ


どうした？
載ってなかったのか？
ううん……
載ってはいたんだけど…


どこにあるって？
それが…


ルーズリエ領の教会が保管してるらしいの
ルーズリエって…
なんか聞いた覚えが…？



じゃあシェリルが頼んだら貰えるなんてことは…

絶対ないわね

よりによってルーズリエ領とは…

困ったことになりましたね

マリー！

おはよ！

困ったことって？

ルーズリエ領の
教会のある街…

そこは 男は
入(はい)ることすら
できません

入れも
しない？

ってことは
街には女しか
いないのか？

なんで？

その教会が
信仰している

〝聖(せい)ダンシャリー教〟
の教えです

教えって…
どんな内容
なんだ？

それは
当然…


『世界に男は不要』です
過激すぎぃ!!


あれ？でもこの街（アルジャーヌ）にもたしか教会は…
はいここもダンシャリー教です
ひぇっ


でも困ったな…どうやって教会に忍（し）び込めば…
いやいやカズヤさん


ルーズリエでは
男は教会どころか街にすら入れませんよ


なんだよ
それ…


そんなに
夢写の鏡(ルナレヴェイル)が
ほしいの？
ああ…


う～ん…


街へ入る
方法…


なんでも
いい…
なにか…


あ！


はっ
それです！


え？

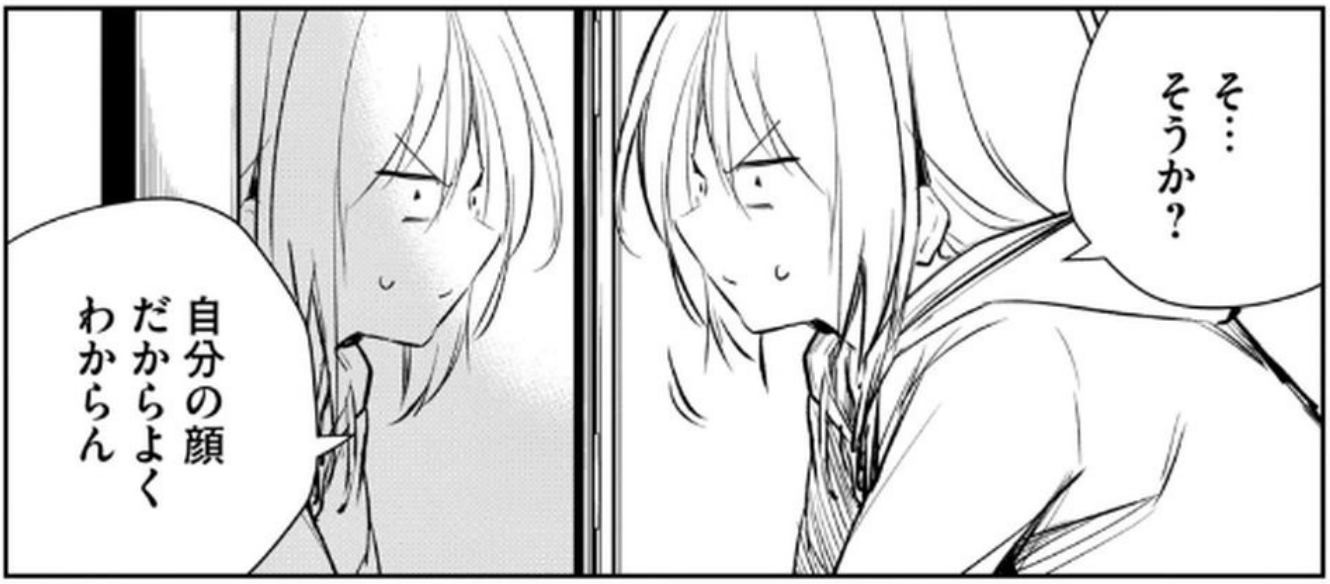

女装すればいいんじゃない？


いやいやいやむりむりむり
カズヤなら似合うって
いやいやいやいや
ルナレヴェイルが欲しいんですよね？


ダメだって…
すぐバレるって…
ぽん
ぽん
動かないで下さい
さすがに体格とか…
あっ ホラ髪の色とかでさ――
ぽ
はいウィッグ
おや？
これは意外と…


え？


おふざけのつもりだったのに…
おい
カワイイじゃない…


そ…
そうか？
自分の顔
だからよく
わからん


なんでしょう
この気持ち…
ドキドキ
わかるわよ
マリー…






じゃあ 次は
服を着替え
ましょう
ホラこの
服なんて
どう？
人を
着せ替え
人形に
するな！

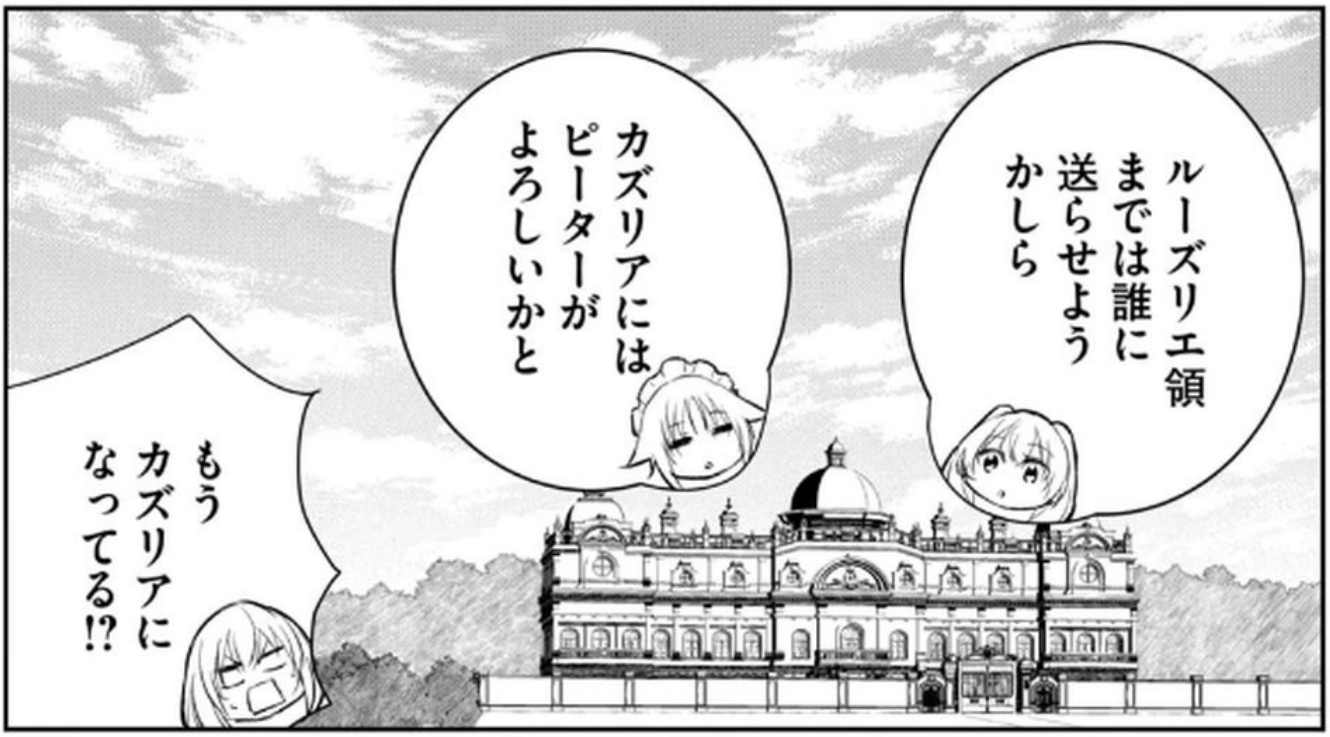


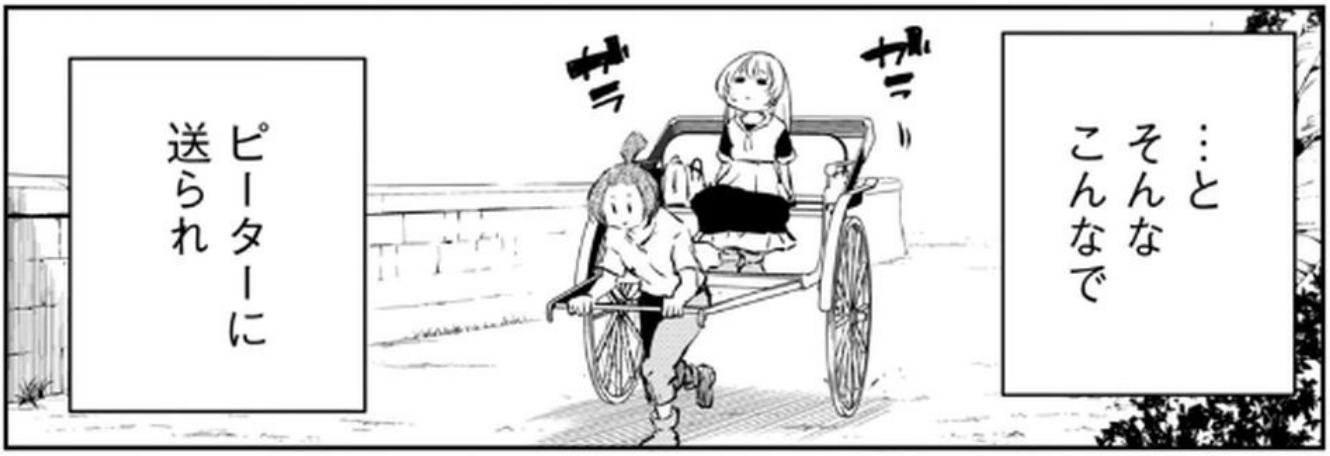

こ…これは
想像以上…
絶対に
バレないわ…


おいおい
ホントかよ…
カズヤ…

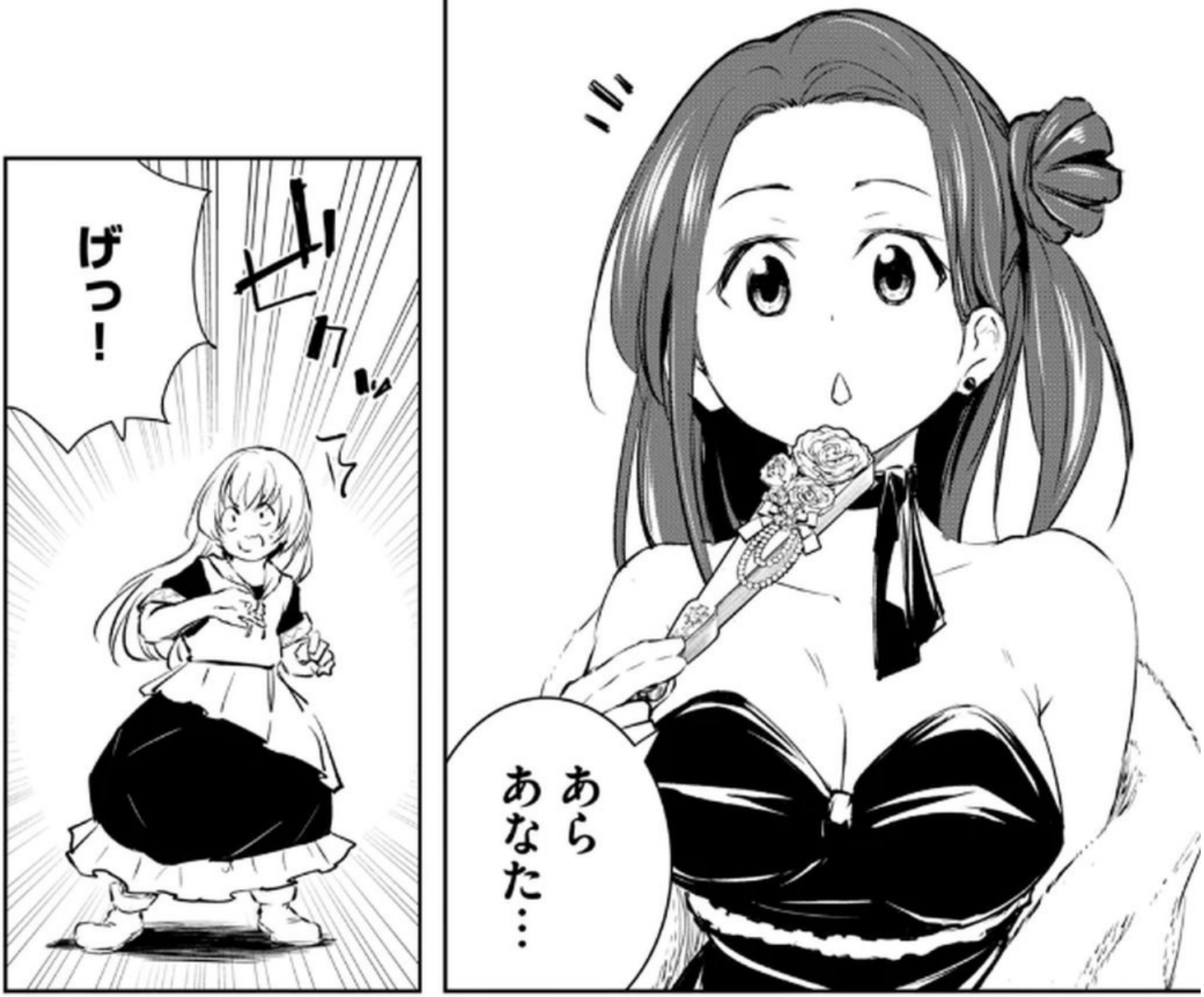

いいえ
違うわね
あなたの
名前は
今日から
フル
フル


ばー
『カズリア』よ!!
ヒュー
カズリア……？

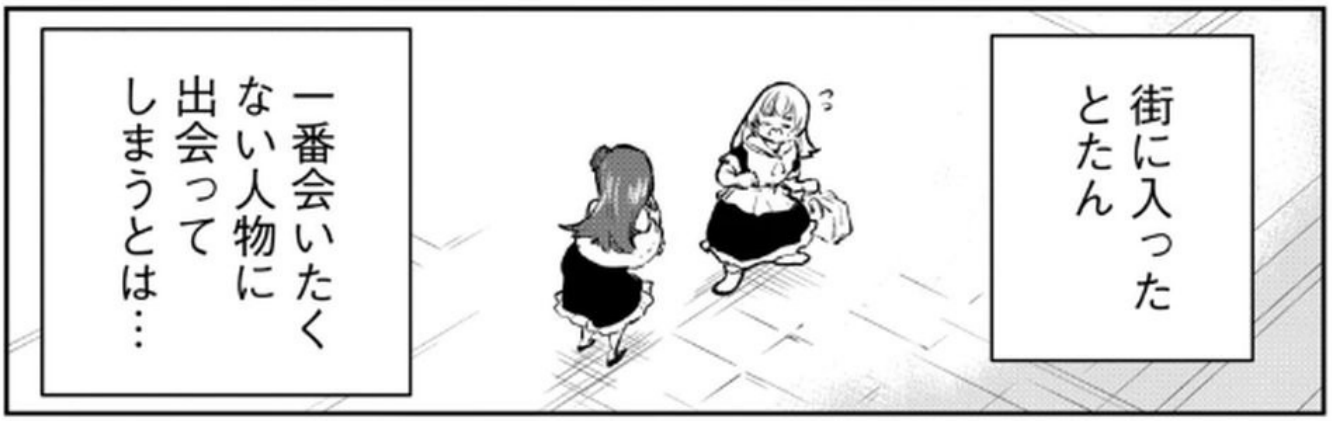

ルーズリエ領までは誰に送らせようかしら
カズリアにはピーターがよろしいかと
もうカズリアになってる!?


…とそんなこんなで
ピーターに送られ


ルーズリエ領へ向かったのだが
ルーズリエ領 首都
イリゼル







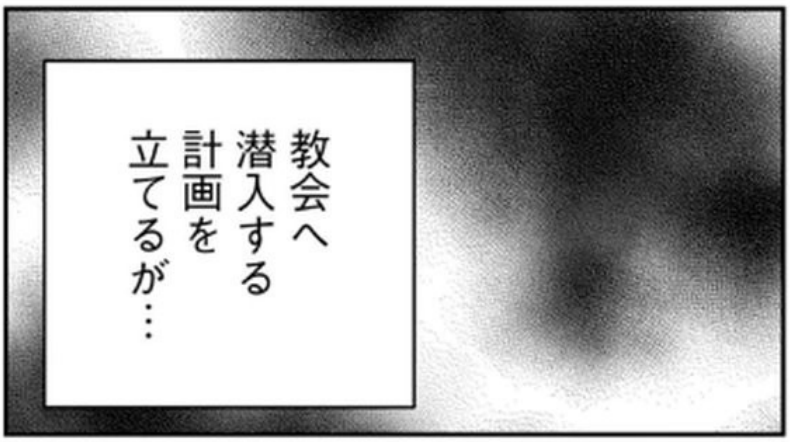
第⑯話　おわり

第⑰話 男の憧れ


ルナレヴェイルがあるらしいルーズリエ領
そこには男が立ち入れないとのことで…


俺は仕方なく女装することとなり


あなたの名前は今日から
『カズリア』よ!!


教会へ潜入する計画を立てるが…


無理無理無理
無理無理無理
無理無理無理

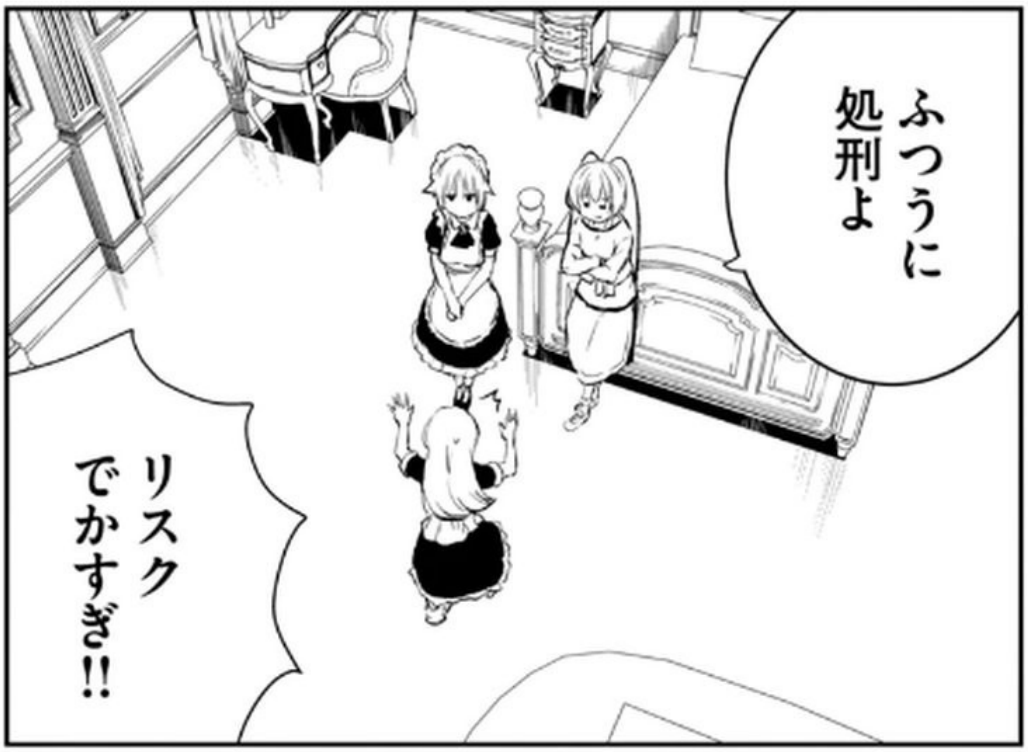

さすがに
バレるって
こんなん！
カズヤなら
大丈夫よ！


ねえ
マリー？
いいえ
お嬢様…

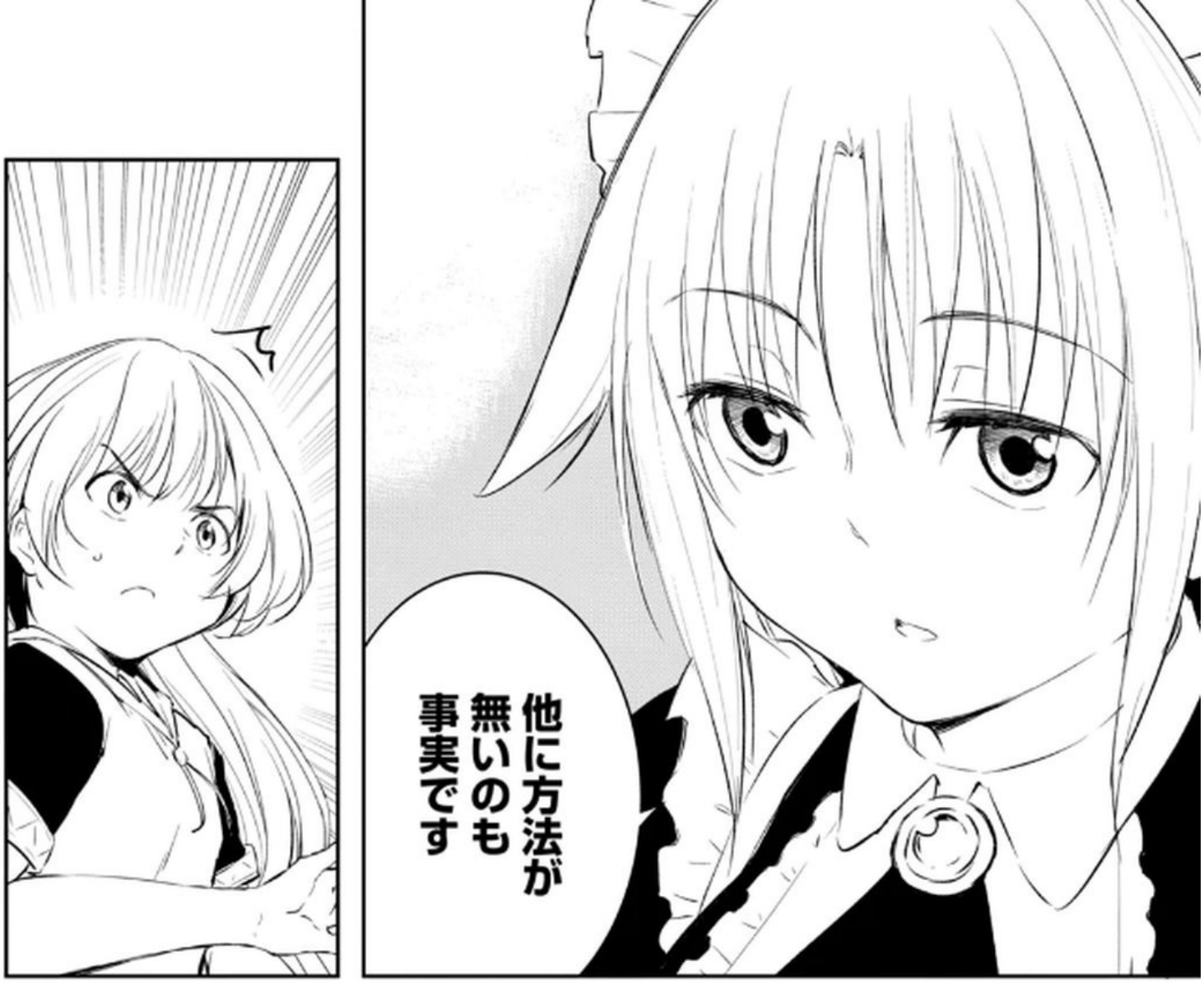

この子は
カズリアです
ど――ん
なんでカズリア
気に入ったの!?

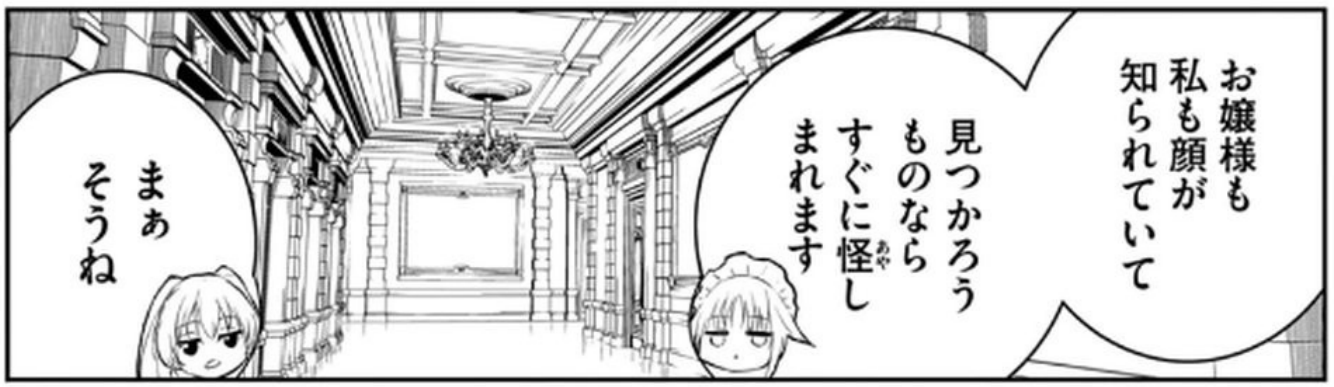

あのさ…
質問なん
だけど

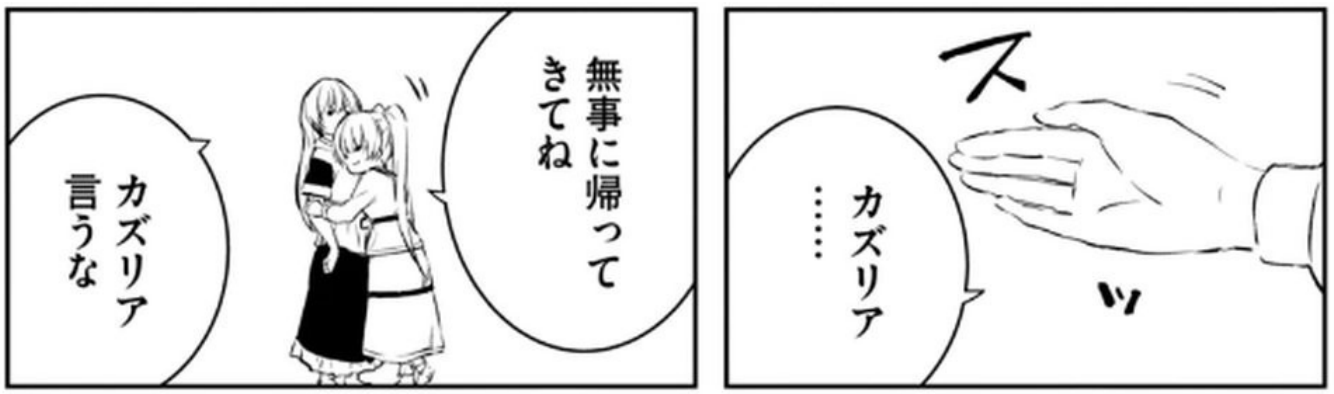

もし女装が
バレたり
したら…?


ふつうに
処刑よ
リスク
でかすぎ!!


ですが…


他に方法が
無いのも
事実です

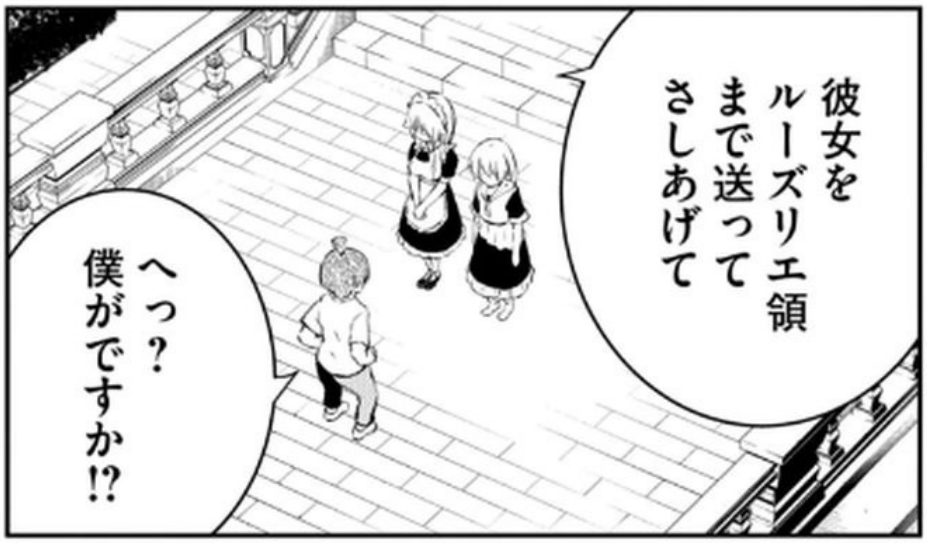

お嬢様も
私も顔が
知られていて
見つかろう
ものなら
すぐに怪(あや)し
まれます
まぁ
そうね


カズリア
……
無事に帰って
きてね
カズリア
言うな


ピーター
ピーター!!
はい!
なんでしょう
ドーレンス様

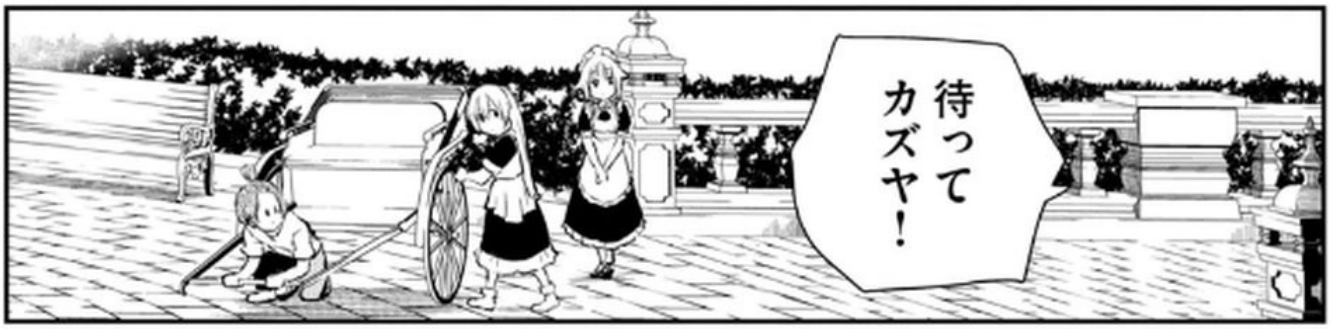

ドキ
ドキ

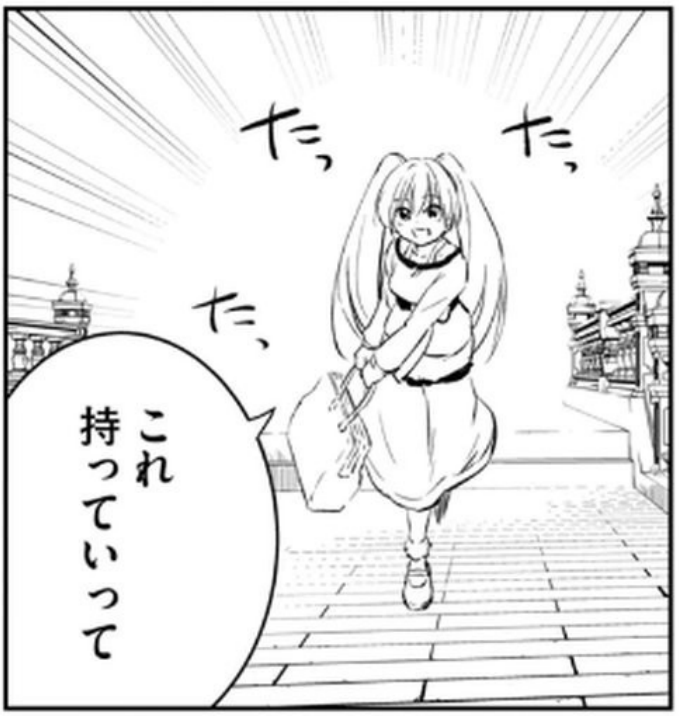

こちらの
方は…?
この子は
カズリア


彼女を
ルーズリエ領
まで送って
さしあげて
へっ?
僕がですか!?


…あれ?

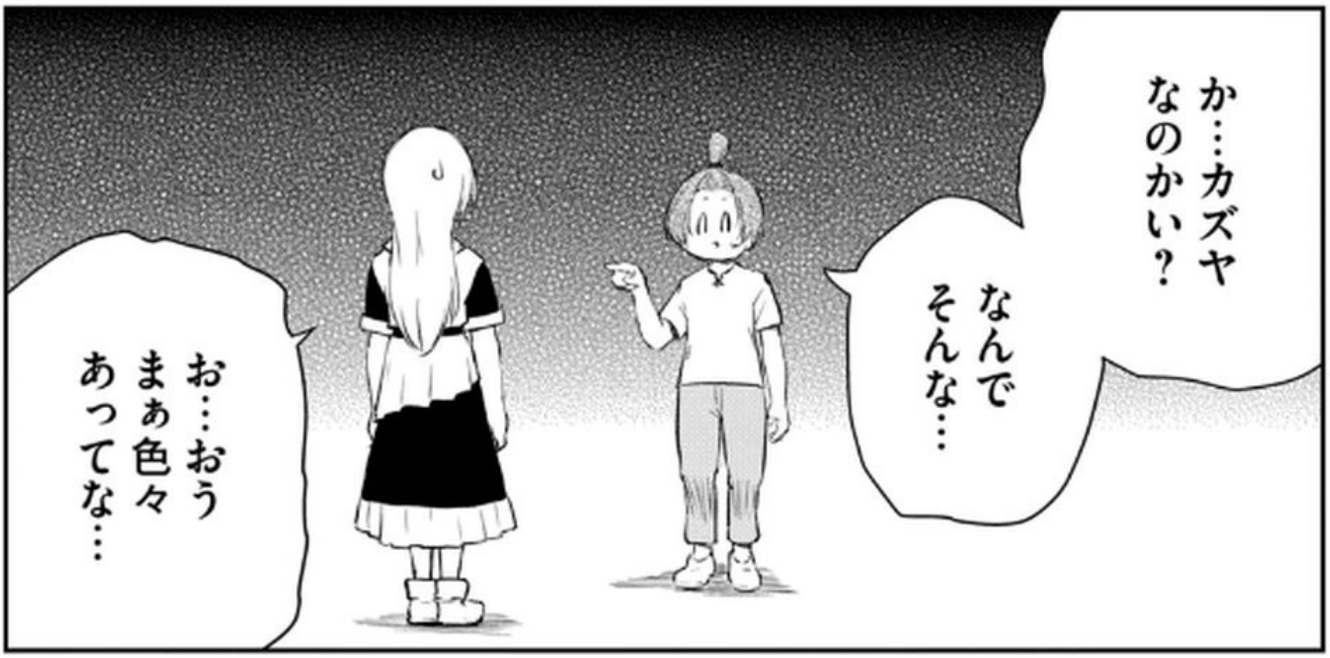

俺が
カズヤだって
バレてない…？
ではこちらへどうぞ


待ってカズヤ！


たっ
たっ
たっ
これ持っていって

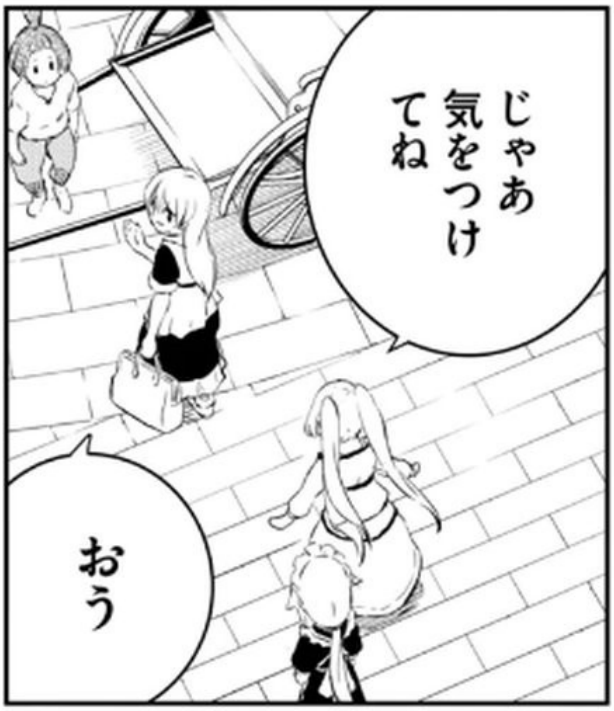

なんだこれ？
着替えとか色々
ど
さ


…


か…カズヤなのかい？
なんでそんな…
お…おうまぁ色々あってな…


お嬢様…カズリアですよ
あ
いやピーターに隠す必要はないだろ


スッ
行ってらっしゃい


じゃあ気をつけてね
おう


ピーター？準備はできましたか？
はいっ

ちゅっ





うわ～！
これが本物の
汽車か～!!

お前
こういうの
好きなのか？

えっ!?
あっ…
うん…！

どうしたん
だよ そんな
キョロキョロ
して…？

そ…そりゃ
だって…

まさか汽車に乗れる日が来るなんて思わなかったから…

そうか…

いつもは男力車にも乗れない立場だ…

きっと俺にはわからない想いがあるんだろうな

男力車っていうか自動で走る車が出ればいいのになそしたら男の負担も減るし！

きょとん

…カズヤは面白いことを考えるね


ところで…
カズヤはどうしてそんな格好を？
そりゃルーズリエ領の街へ入るためだよ

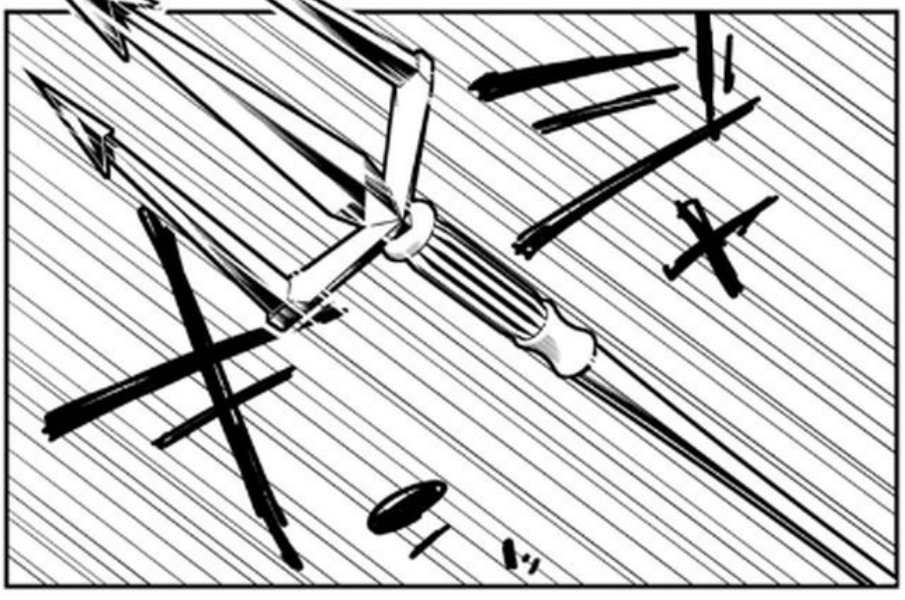

ええっ危険だよ
見つかったら酷い目に…!!
わかってるよ…


今更引き返せるかよ…

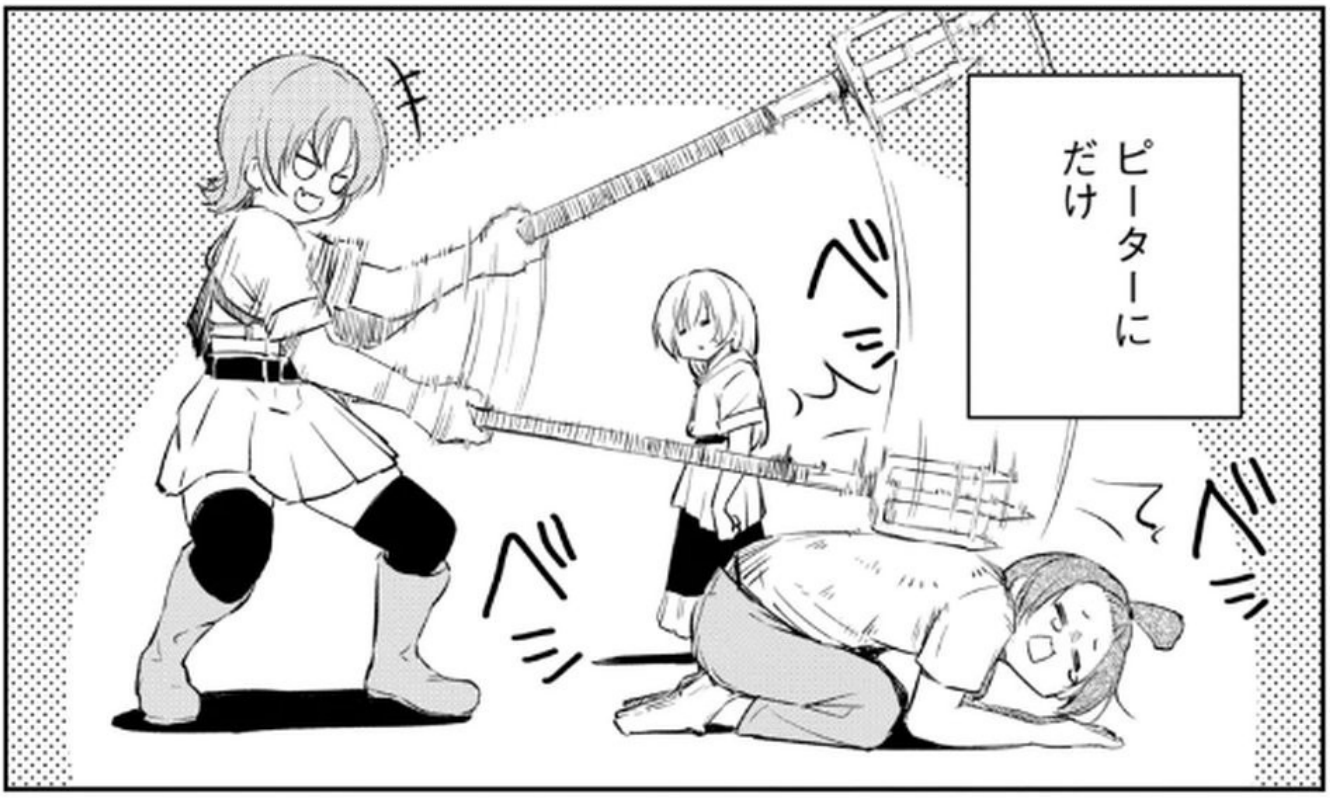

…でも言われてみれば…
？


案外
バレない
かも…
だと
いいけど

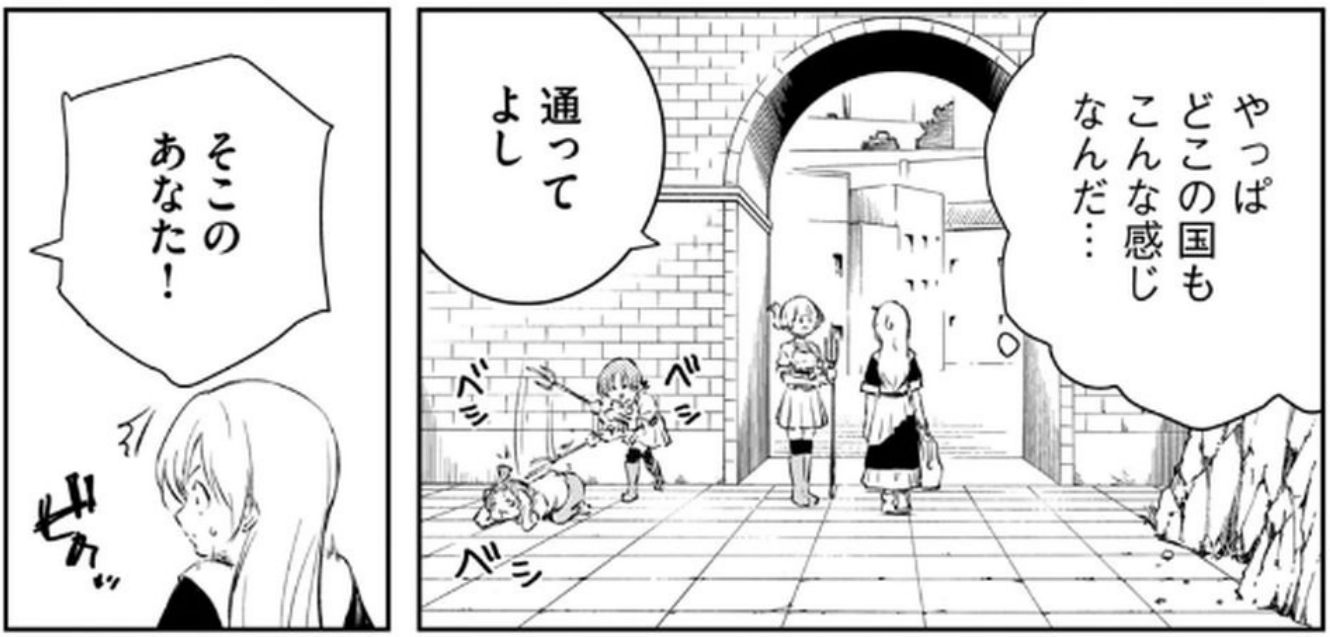

そんな
こんなで
俺たちは
ルーズリエ領の
街へ到着し




さっそく
トラブルが
起こった…


ピーターに
だけ
ベシ
ベシ
ベシ


たとえ国が
違っても
男とは
弱く醜い
ものだな！


やっぱ
どこの国も
こんな感じ
なんだ…
通って
よし
ベシ
ベシ
ベシ
そこの
あなた！


ルーズリエ領
イリゼルの街へ
ようこそ！
ぱぁ
あ…あぁ
しぃ
男女差
エグっ…


こら！
送迎が
終わったなら
男はさっさと
立ち去れ!!
はぃー
しぃ


送ってくれて
ありがとな
ピーター
ひそ
ひそ
うん…
気をつけて
ね…


なんて
こった…


場所は違えど
やはり男の
扱いは犬…
いや…
この街に
おいては
それ以下
だろう


ぼ
ん




…

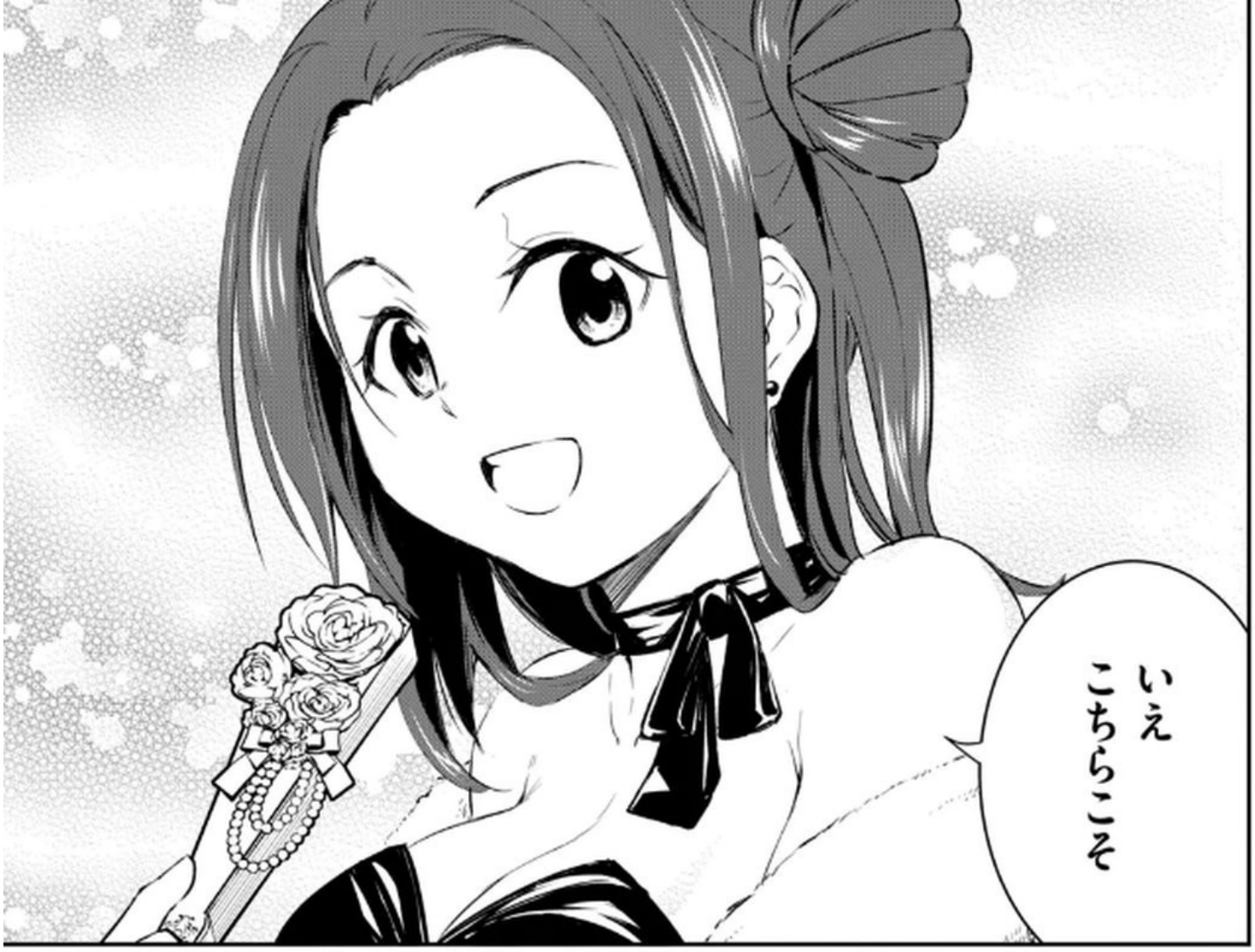

ぼ
ん


それにしても
ほんと男が
全然いないな
こりゃ
何かあれば
すぐ袋叩きに
あうぞ…

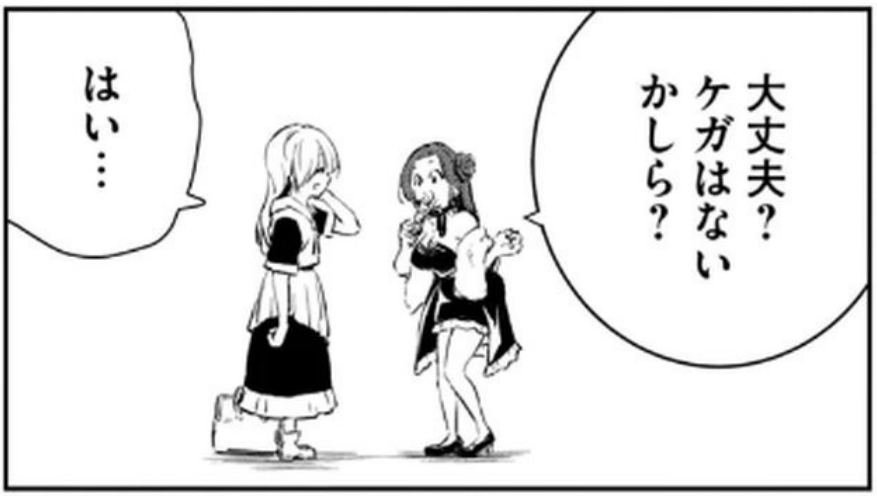

むしろ
それだけで
済めばマシ
だろう
処刑って言ってた…
絶対に
バレないように
しないと…


あ…
ごめんな
さ――


!!


いえ
こちらこそ


あれ？
この人って…


大丈夫？
ケガはない
かしら？
はい…


まさか
…？



いきなり
出くわし
ちまった!!

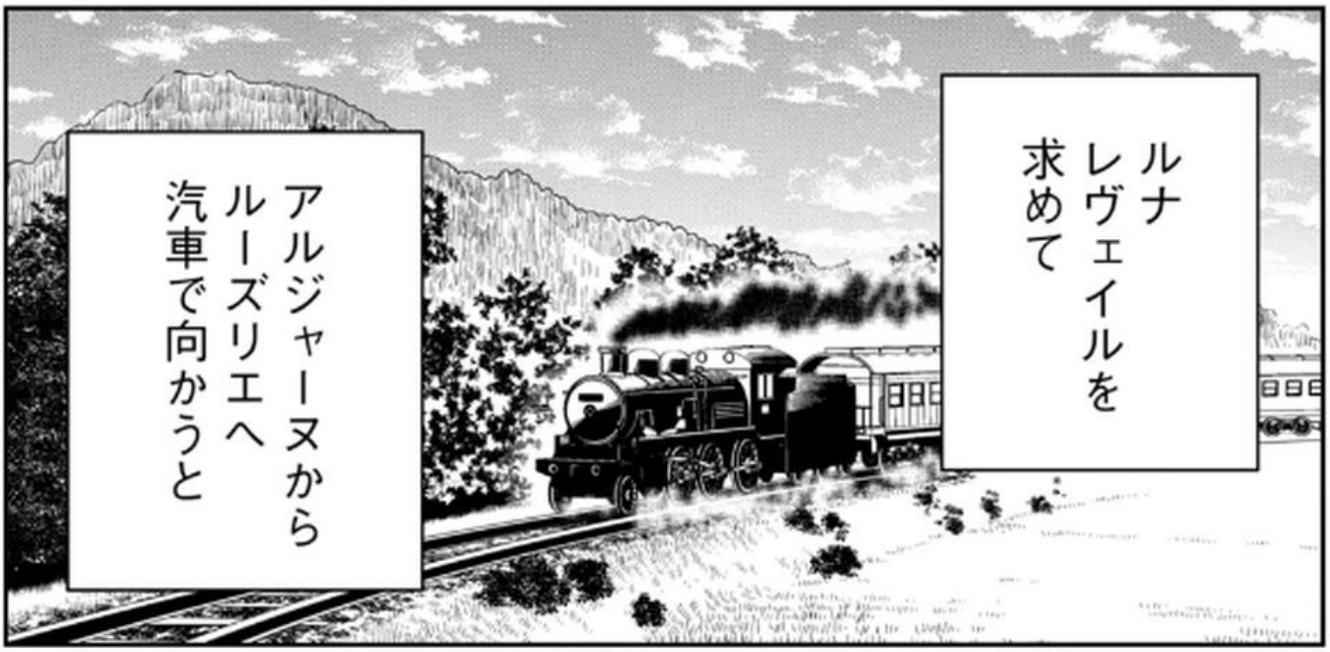
カズヤ
大丈夫
かなぁ…

とぼ
とぼ

帰りは徒歩♪

第17話 おわり

第⑱話 あなたは愛を知らない

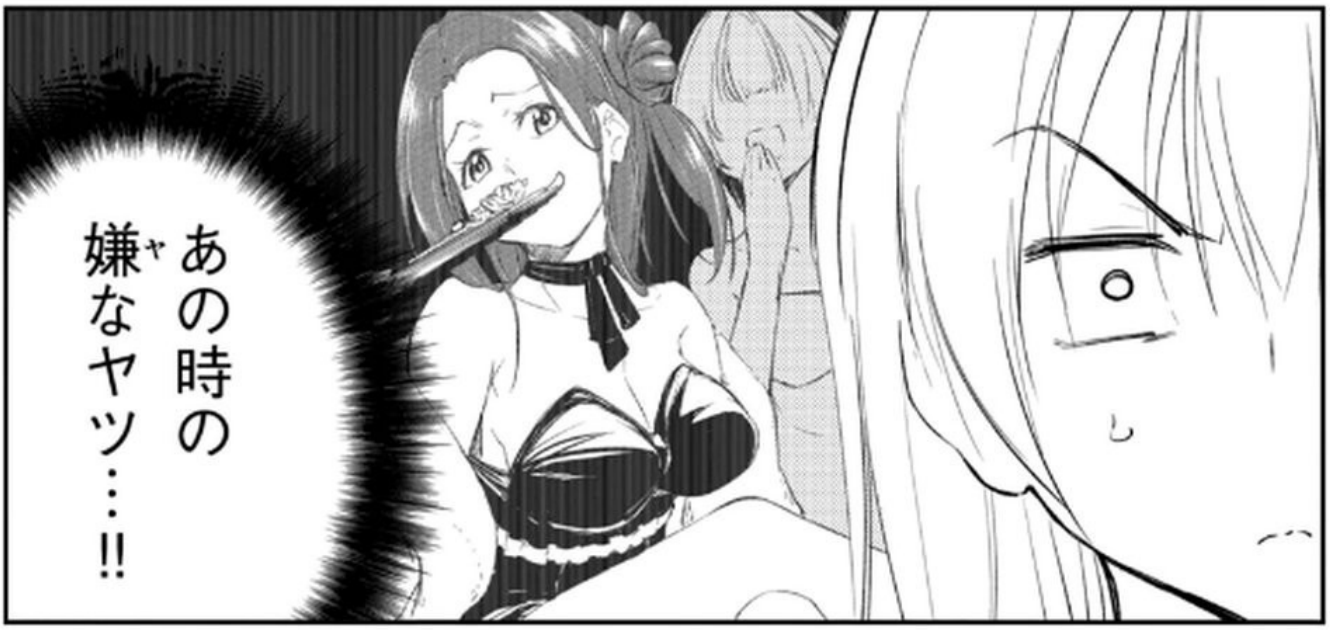




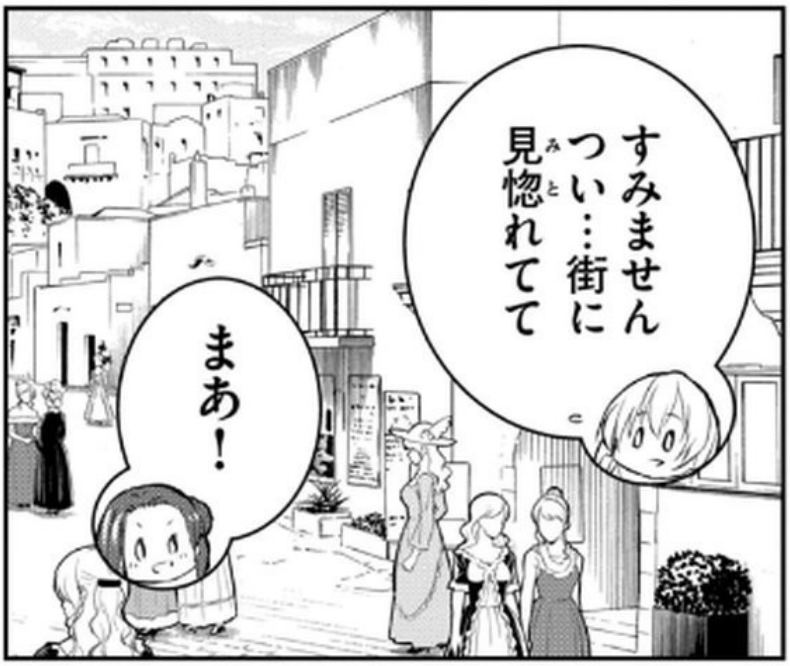


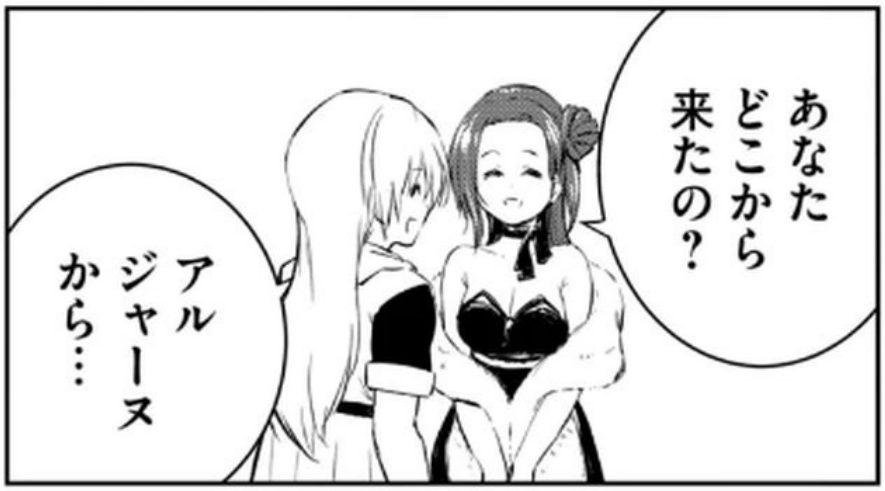



いえ
こちらこそ
ルーズリエ領　領主
ララ・ルーズリエ

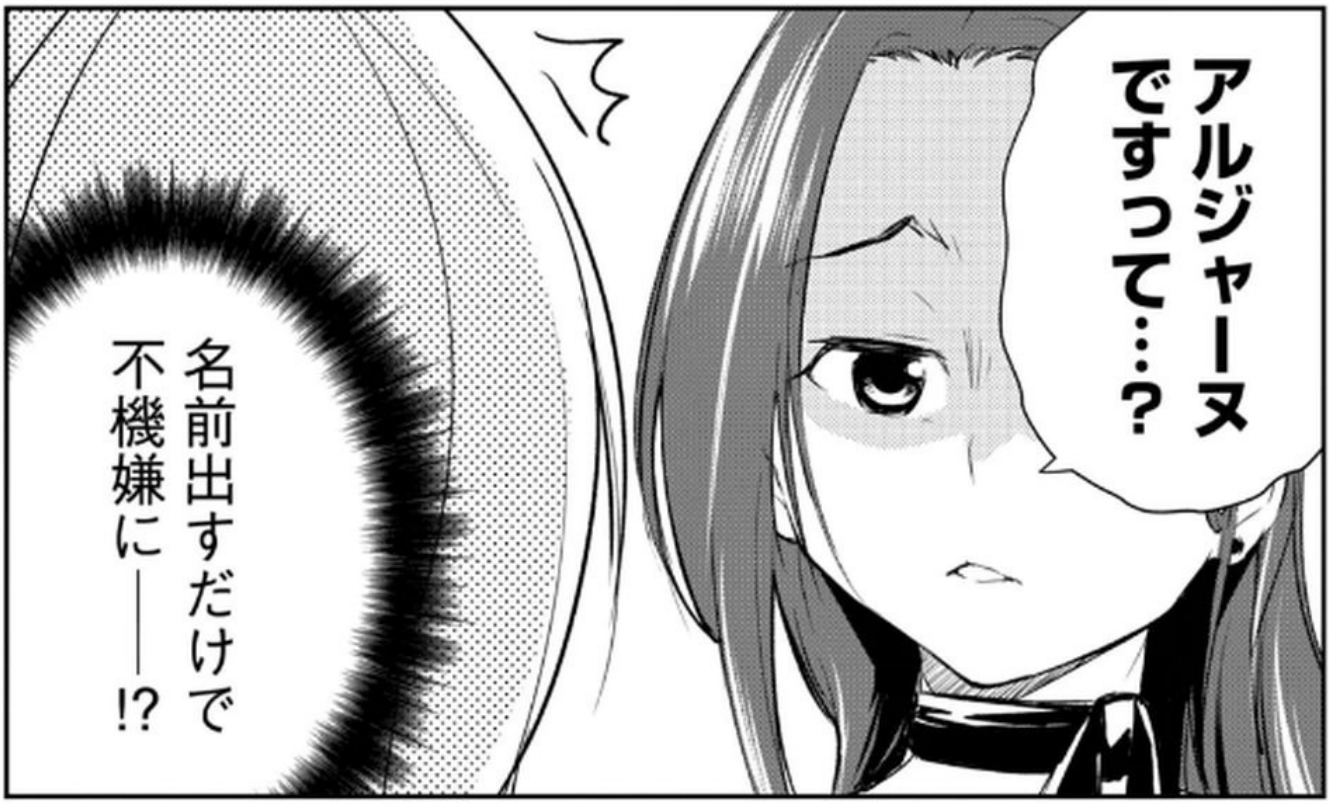

あの時の
嫌(ヤ)なヤツ…!!


大丈夫？
ケガはない
かしら？
はい…

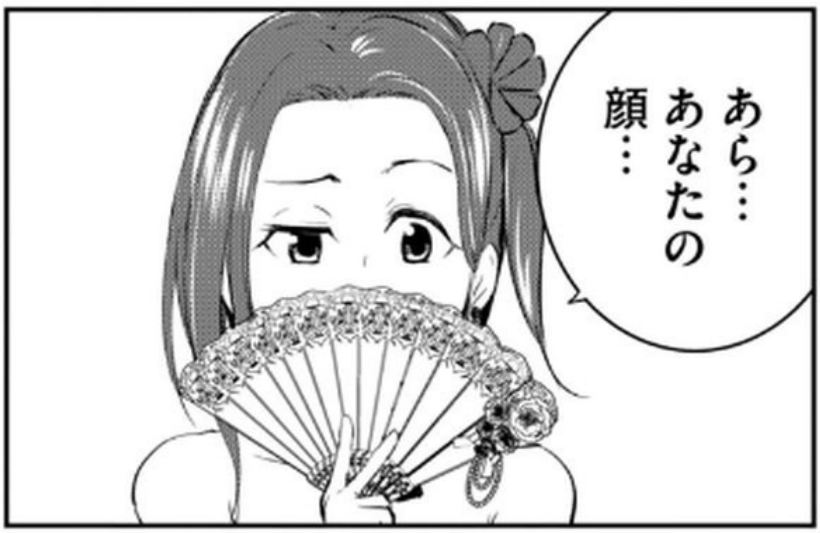

すみません
つい…街に
見惚(みと)れてて
まあ！


あなた
どこから
来たの？
アル
ジャーヌ
から…

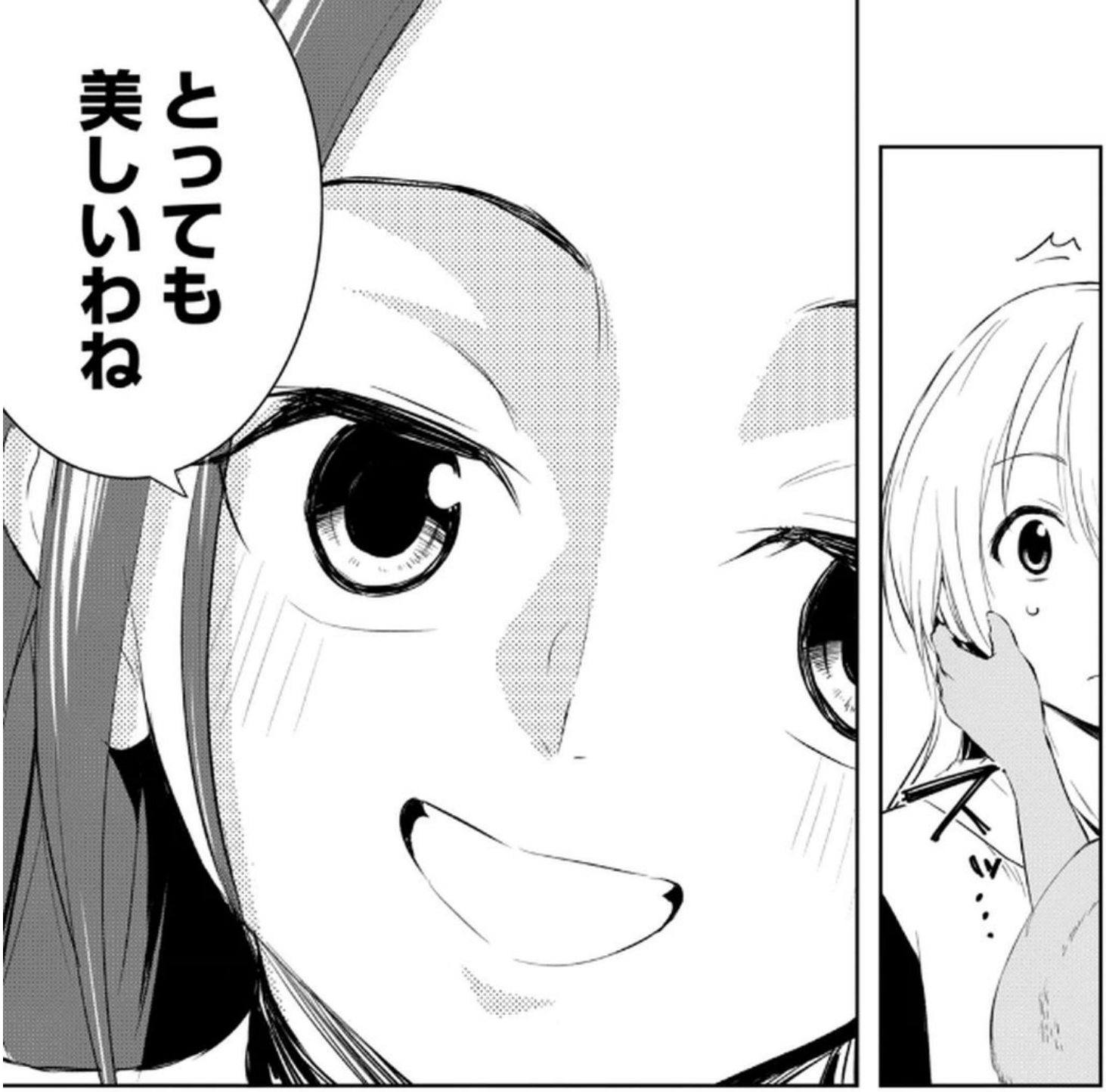

はっ
！


アルジャーヌですって…？
名前出すだけで不機嫌に――!?


そういやシェリルとバチバチだったもんな…


あら…あなたの顔…


ヤバイ…
ピアノの男だってバレたか…!?
ドキドキ


とっても
美しいわね


気に入った
わ
私が街を
案内して
あげる！
へ!?


きっと
アナタは
こう思う
はずよ…


アルジャーヌより
素敵(すてき)～ってね…!!
すごい
対抗意識
だな…

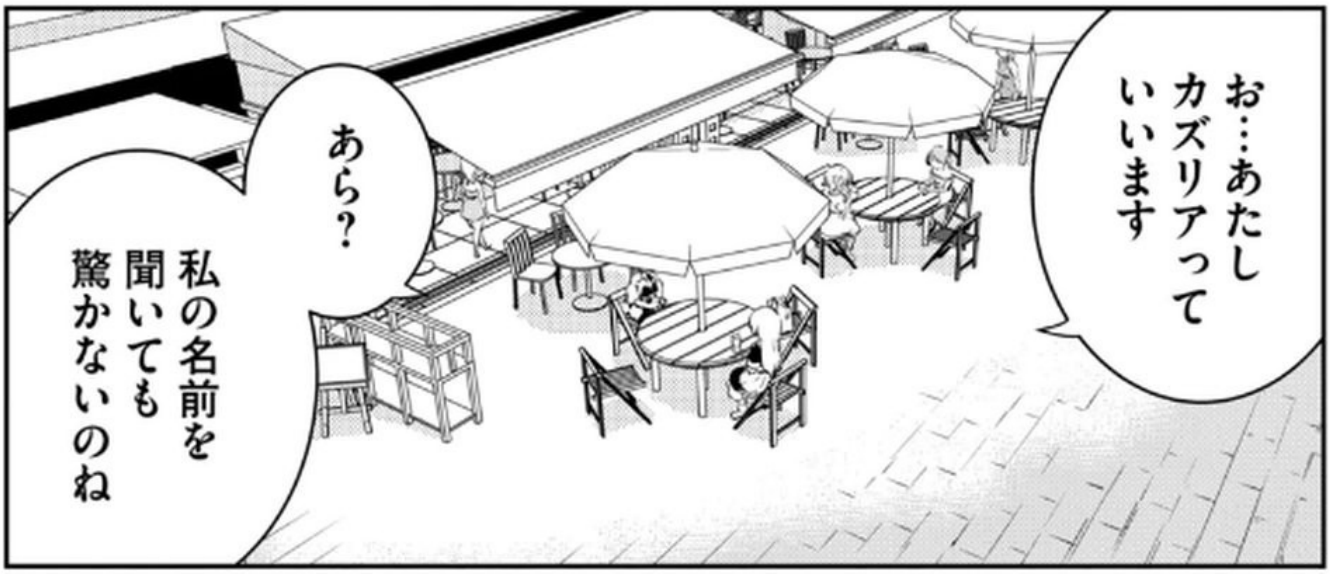

まぁ
俺の正体が
バレなくて
よかった


それに
しても…


舞踏会で
会った時とは
イメージが
違うな
あの時は
終始不機嫌
だったのに…
あっ
そういえ
ば…！


名前を
聞くのを
忘れてたわ
私はララ
ララ・
ルーズリエ


あなたは？

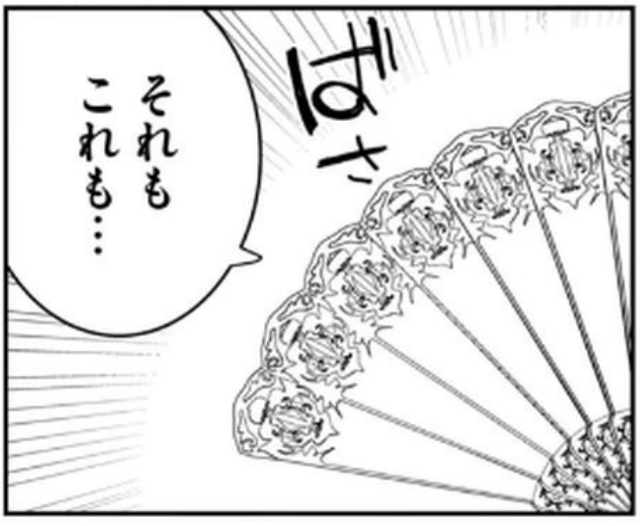

お…あたし
カズリアって
いいます
あら？
私の名前を
聞いても
驚かないのね


領主である
私の顔を
知ってた…？
という
ことは…


し…
しまった！
探り(さぐ)を
入れてた
のか――


私ったら
そんなに有名に
なったのね
ん…!?


アルジャーヌの
地にまで
私の名が轟(とどろ)いて
いるなんて…
…


ばさ
それも
これも…

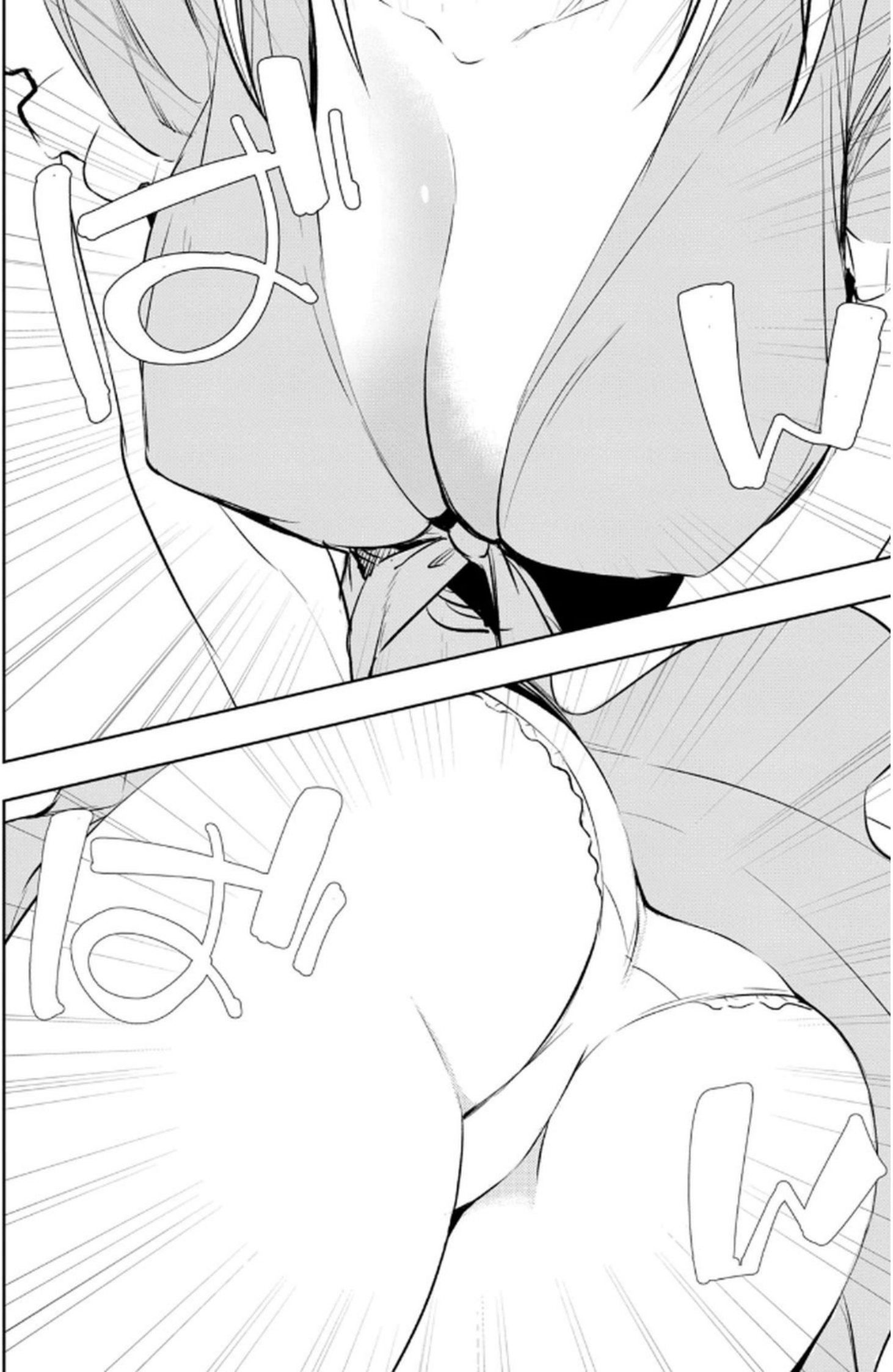



私が
美しすぎる
せいね…!!
自己肯定感が
高すぎる…!!
それから
は
やたらご機嫌な
ララが街を
案内してくれ…


このルーズリエがどんな所か教えてもらった

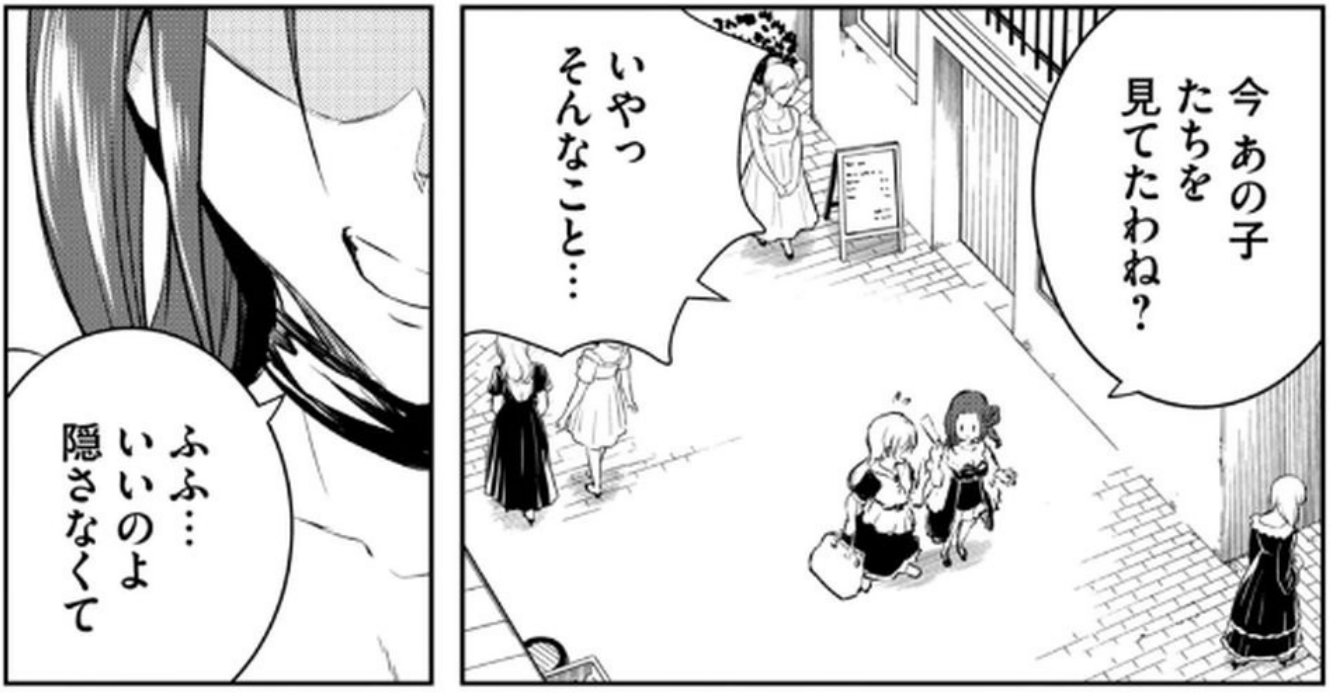

やはり男は全くいないようで
まさに女だけの街のようだ


そして特徴的なのは…


ああ
いい
はあ
いい


暖かい気候
だからなのか
やたら
露出度の高い
服装の人が
多いのである


カズリア？
はいっ!?


今 あの子
たちを
見てたわね？
いやっ
そんなこと…
ふふ…
いいのよ
隠さなくて


こっちよ
カズリア
いいこと
教えて
あげる…
え？

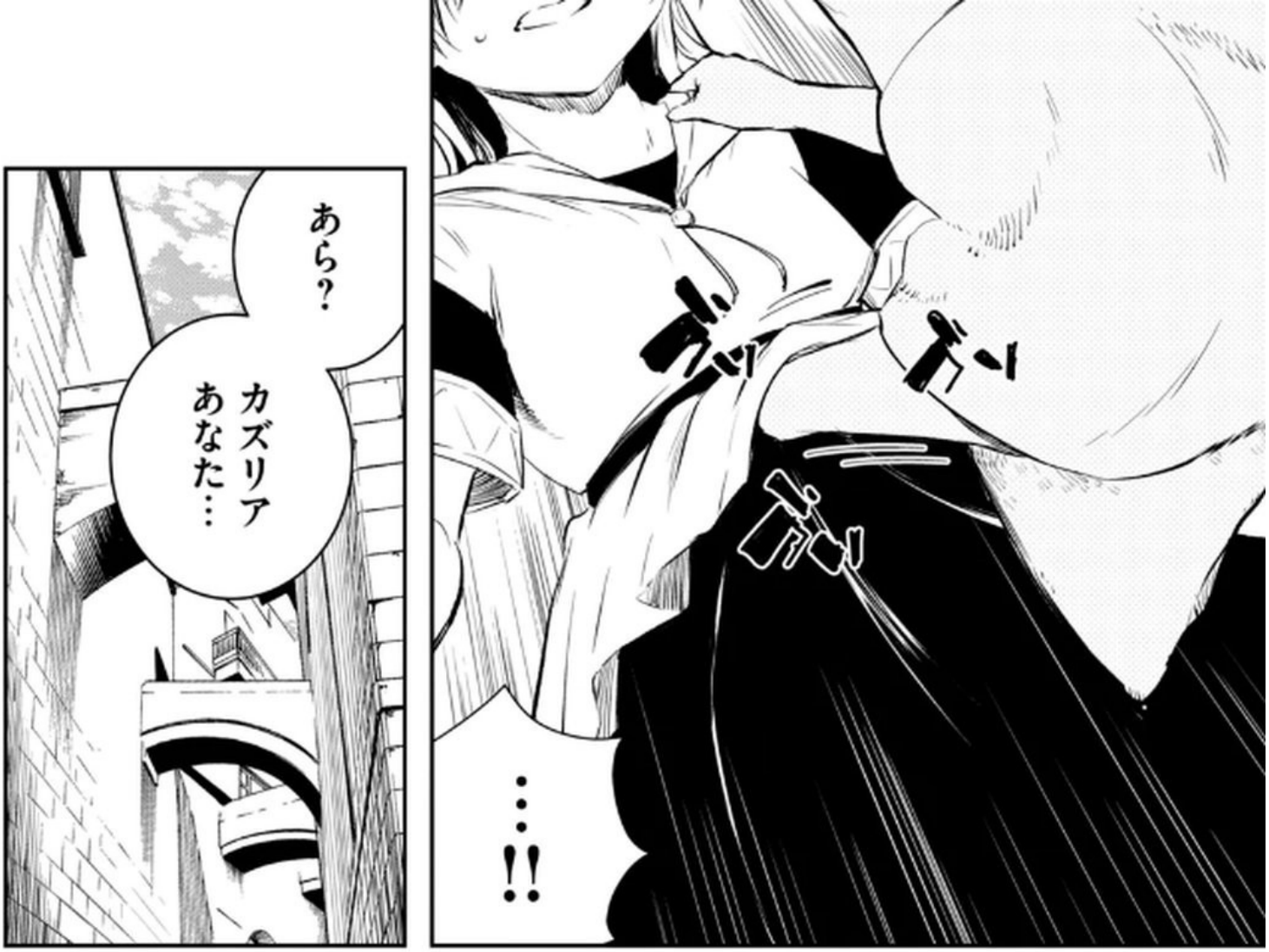

アルジャーヌ
出身だと
知らない
でしょう…？


はぁ
何を
ですか？


『愛』
よ…？


!?

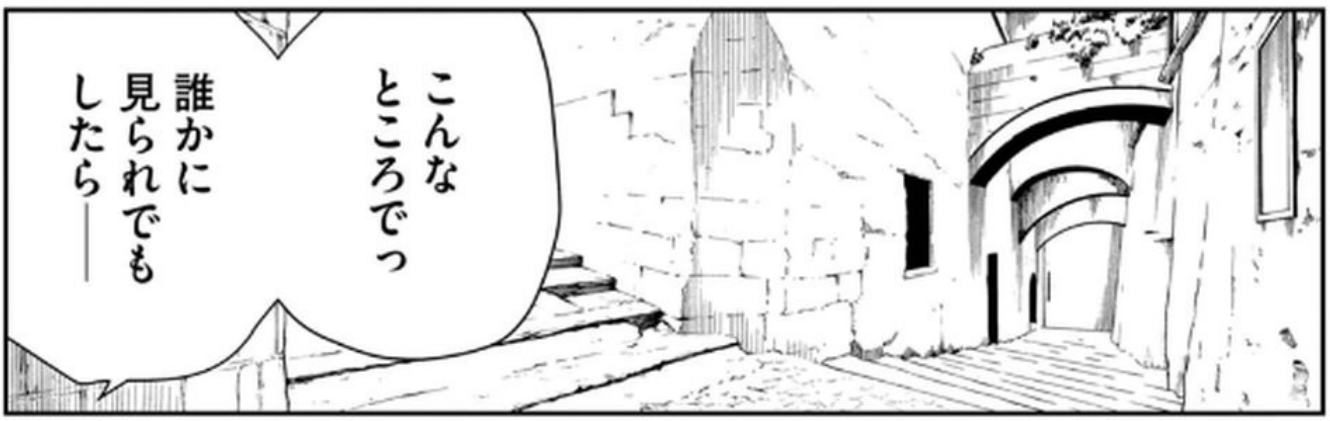

ちゅっ…
ちゅぱっ


あら？
カズリア
あなた…
…!!


とっても
いい身体
してるわね…


ル…
ルーズリエ様
おやめ
下さい…！
まずい


服を
脱がされでも
したら
俺が男だって
バレちまう…！


こんな
ところでっ
誰かに
見られでも
したら——



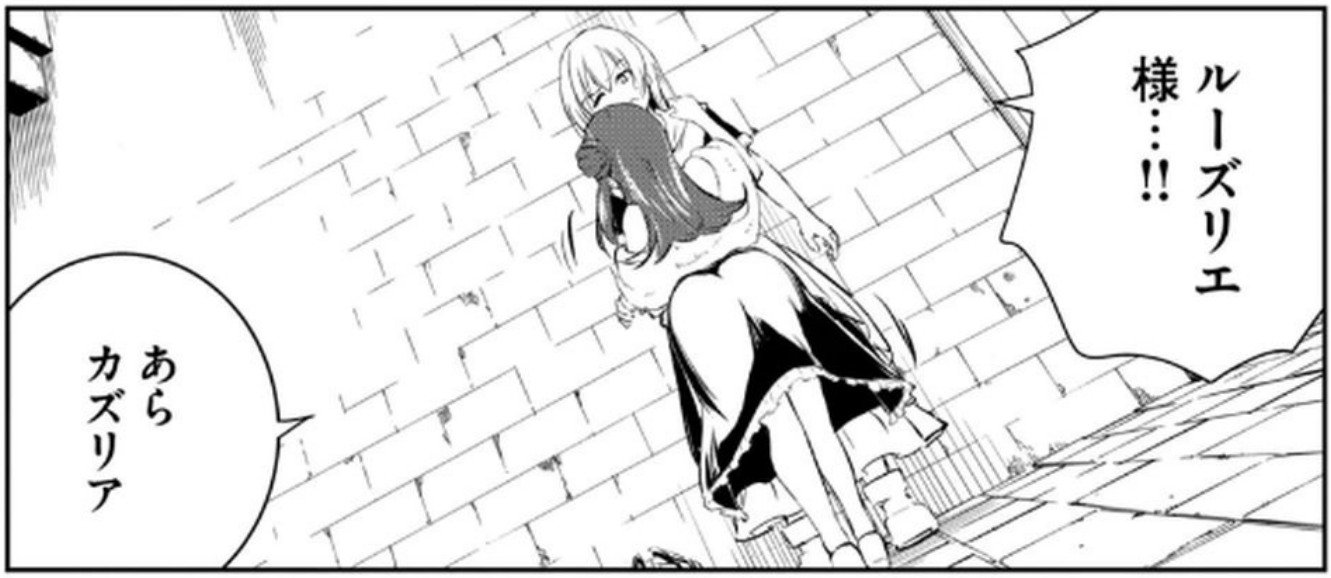
第⑱話 おわり

第⑲話 愛を教えてあげる♡








ルーズリエ様…!!
あらカズリア


私のことはララって呼んで…?

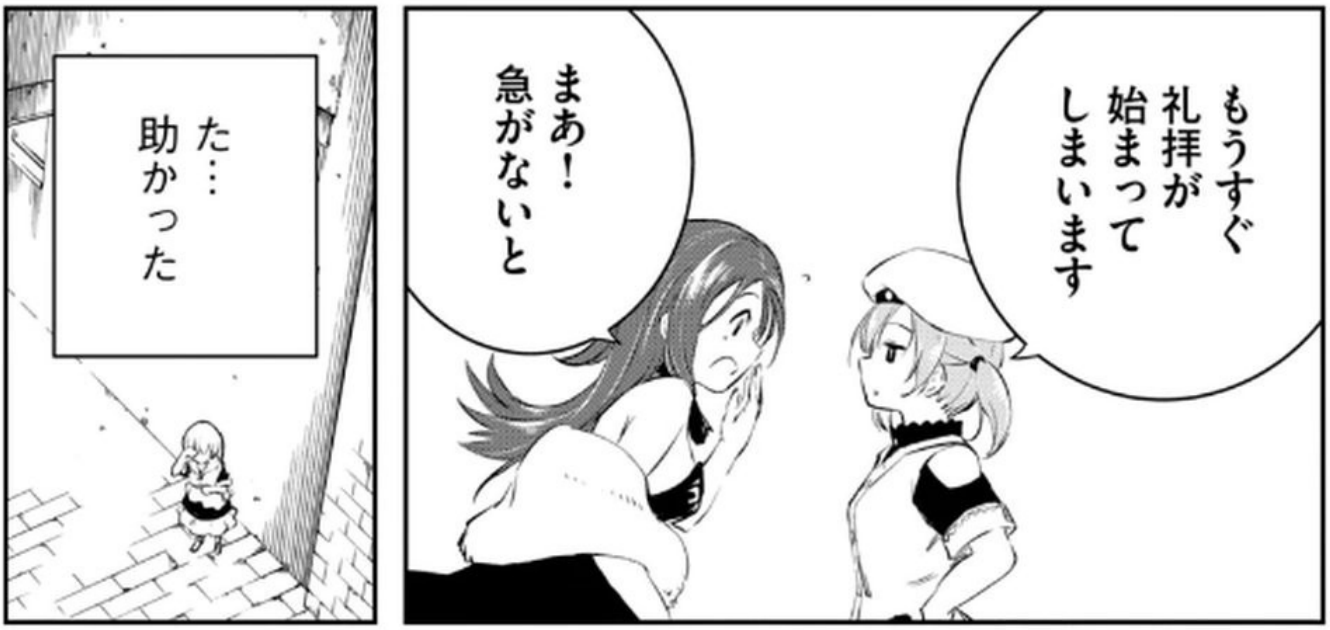

そんな——っ
んっ…♡
ごそ
ごそ


こうなったら
男だとバレる前に——


そろそろ
お時間です
ラフ
ラフ様


あら
もう？
だ…
誰です
か？


ボクは
ララ様の
従者(じゅうしゃ)だ
ルーズリエ家の従者
キャミィ・アーデン


もうすぐ
礼拝が
始まって
しまいます
まあ！
急がないと
た…
助かった



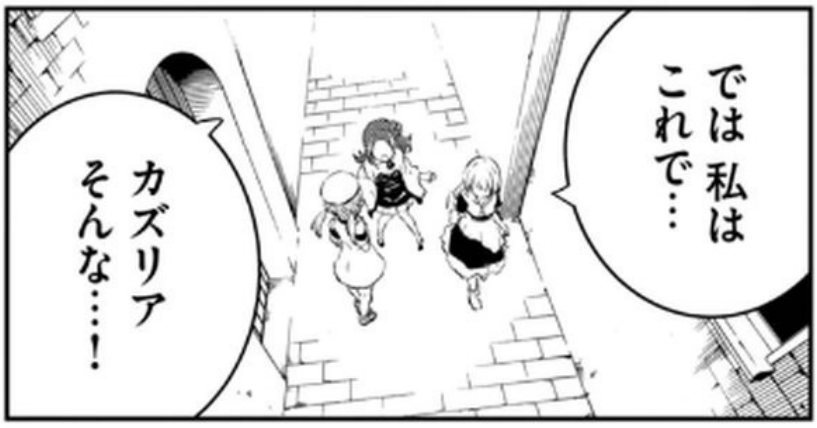

な…
…っ!?


あなた…
名前は？
カズリアと
申します…
変な名前
!?

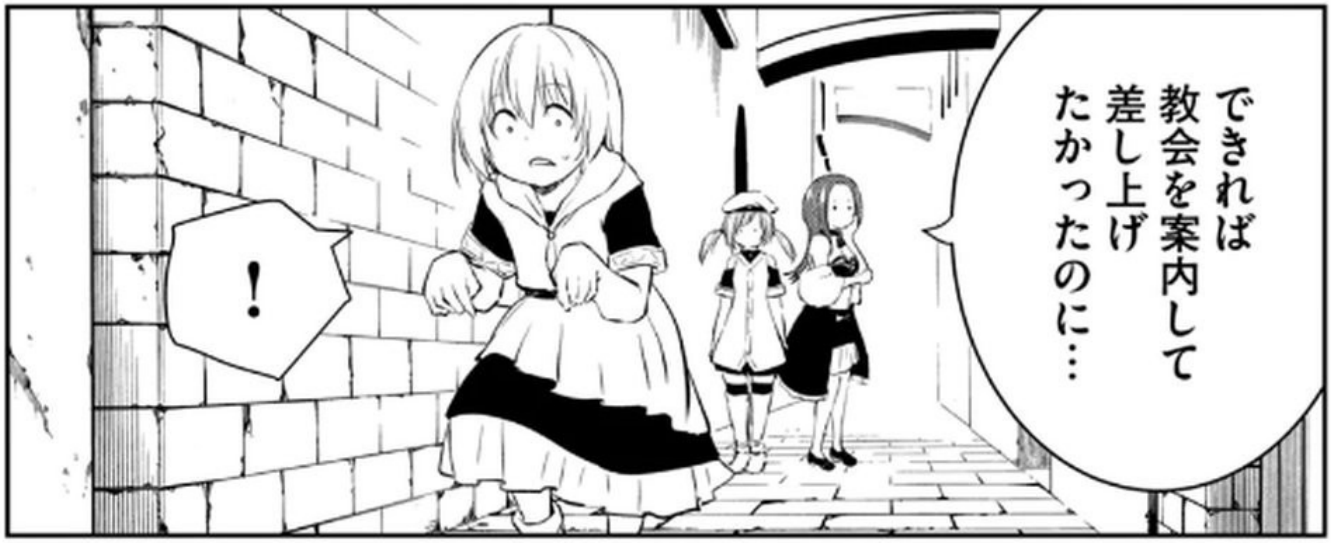

なんだ
この敵意
じり…
まさか
俺が男だと
察して——!?
言っとく
けど…


ララ様の
一番の
お気に入りは
ボクだから
ゆずらないぞ
ええ――!?
こらキャミィ
仲良くしなきゃ
ダメよ?
はわわ
もちろん
です!
コイツ……


もしかして
ララのことが
好きなのか…？
面倒に
巻き込まれる
前に 分かれて
行動しよう…


では 私は
これで…
カズリア
そんな…！


お世話に
なりました


できれば
教会を案内して
差し上げ
たかったのに…
！


ルーズリエ領の
教会が保管して
いるらしいの
教会
…!!

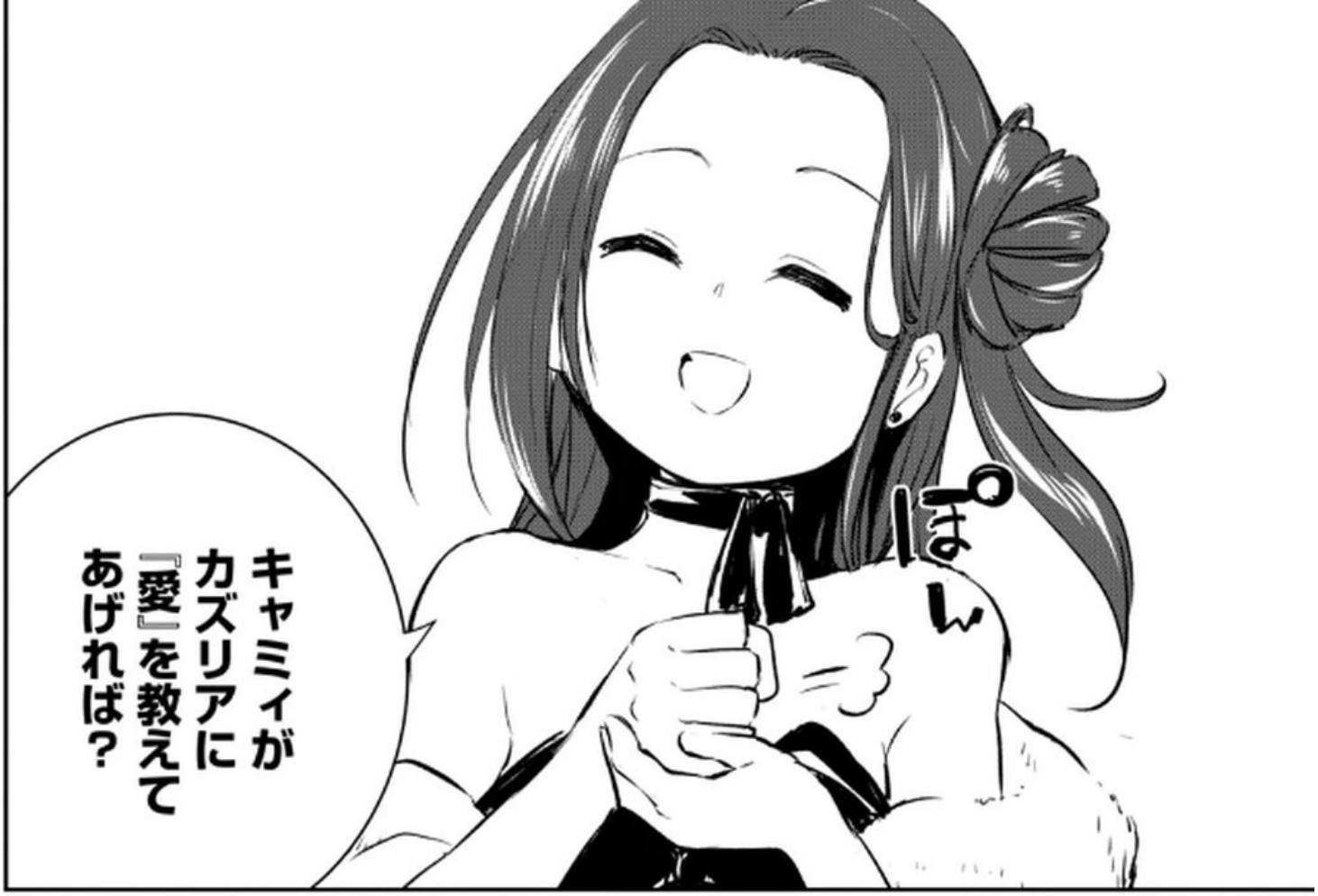

え～
教会ですか？
行ってみたい
な～なんて…


くる…

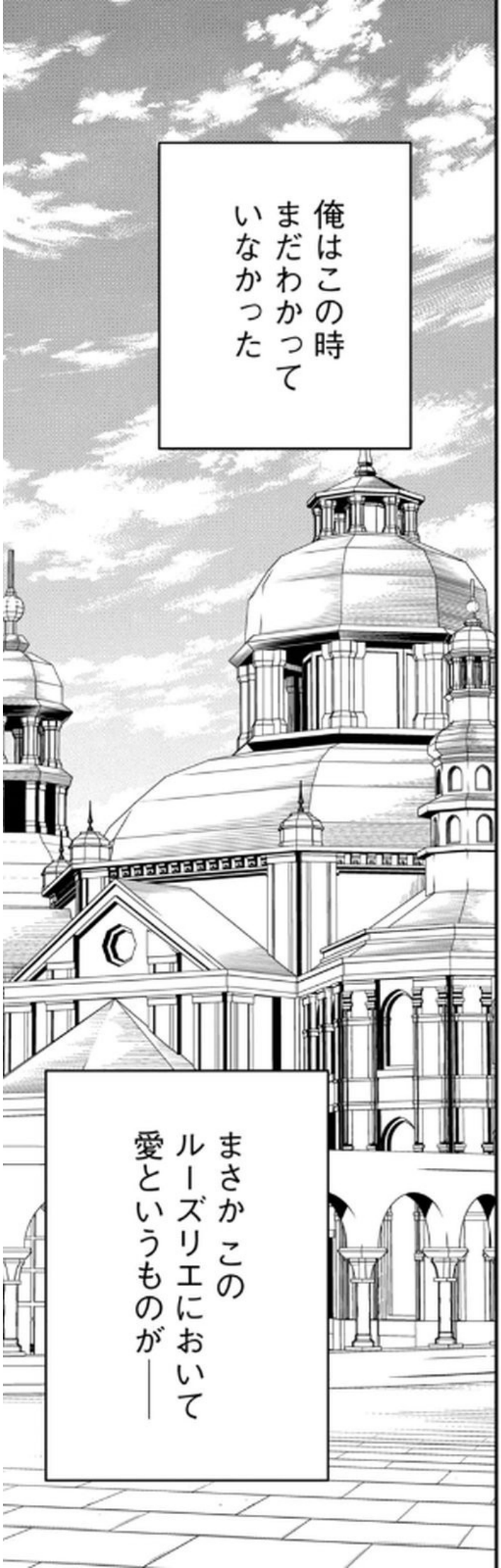

キッ
ゼクッ


何をカリカリ
しているの
キャミィ？


あっ
そうよ…


ぽい
キャミィが
カズリアに
『愛』を教えて
あげれば？

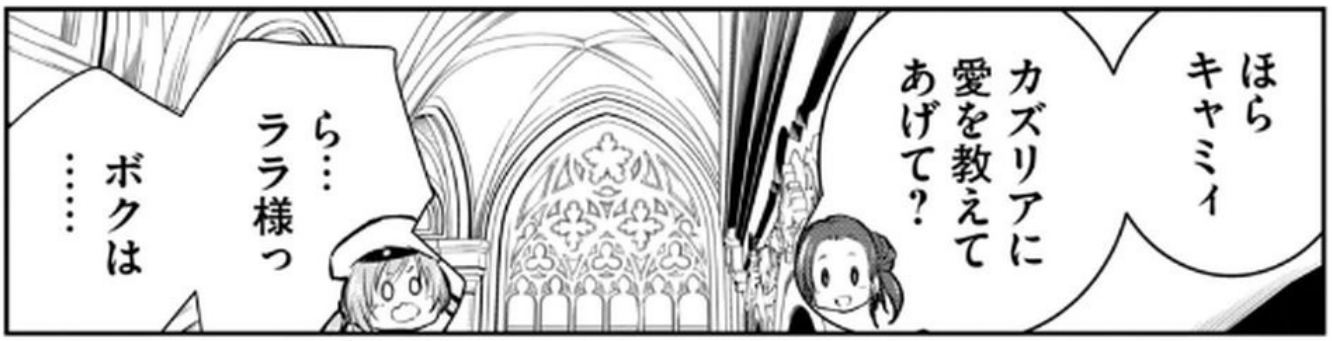

えっ!?
ボクが
コイツに
ですか!?
愛…？
そういや
さっきも
言ってたな
愛って
なんですか？
それは
ね…


とっても
気持ちのいい
ことよ…♡
俺はこの時
まだわかって
いなかった
まさか このルーズリエにおいて
愛というものが――

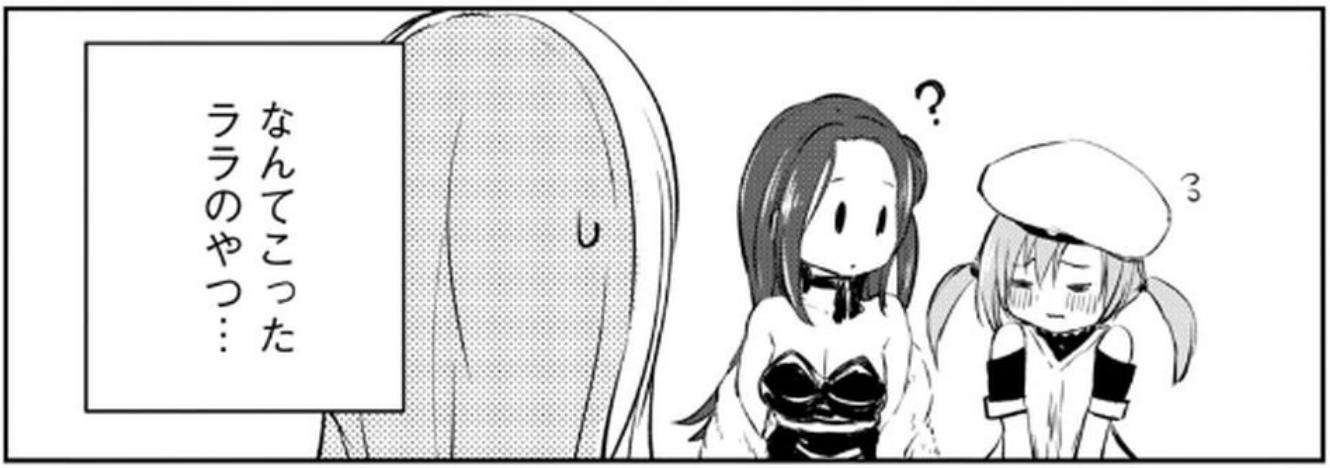

ホラ…
こっちに
いらっしゃい
ああっ
お姉さま…♡

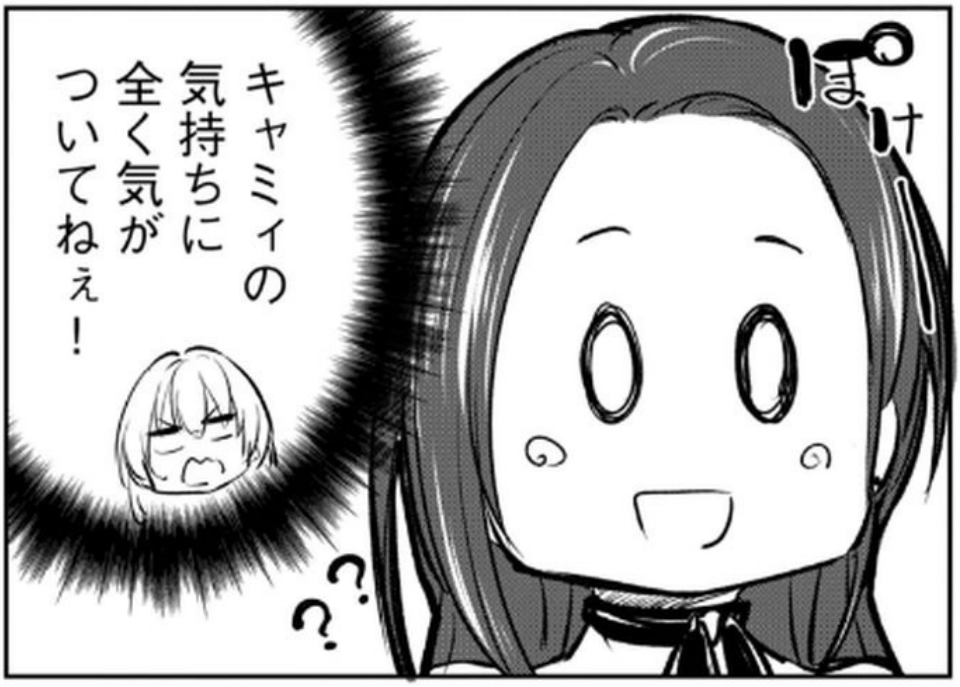

二人で
イチャつく
ことを意味して
いたとは…

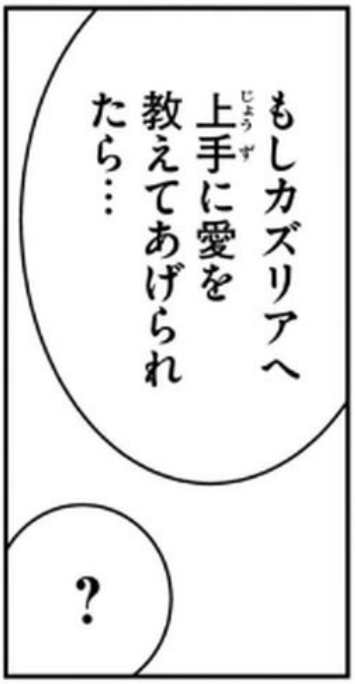

そりや
不機嫌にも
なるわな


ほら
キャミィ
カズリアに
愛を教えて
あげて？
ら…
ララ様っ
ボクは
……


はじめては
ララ様が
いいのに…
ごにょごにょ


なんてこった
ララのやつ…
?
3


ぽけー
キャミィの
気持ちに
全く気が
ついてねぇ！
?
?

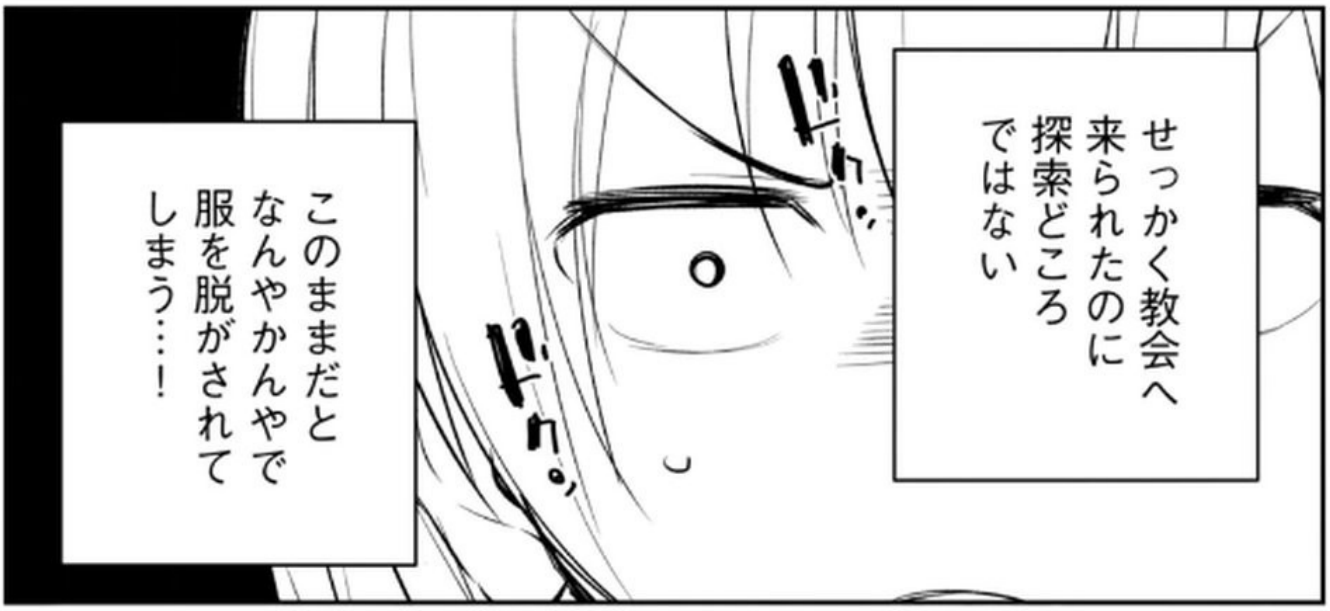

もしカズリアへ
上手に愛を
教えてあげられ
たら…
?

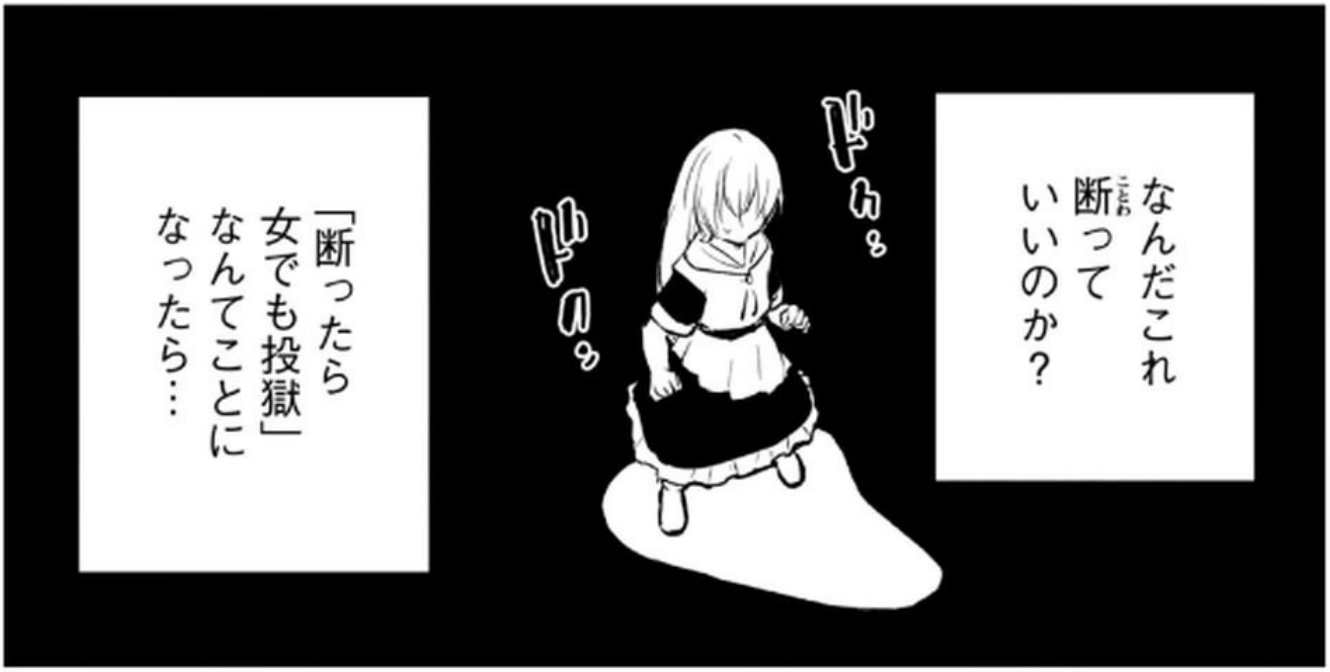
なんでもキャミィの
言うことを聞いて
差し上げますわ

なっ

なん
でも!?

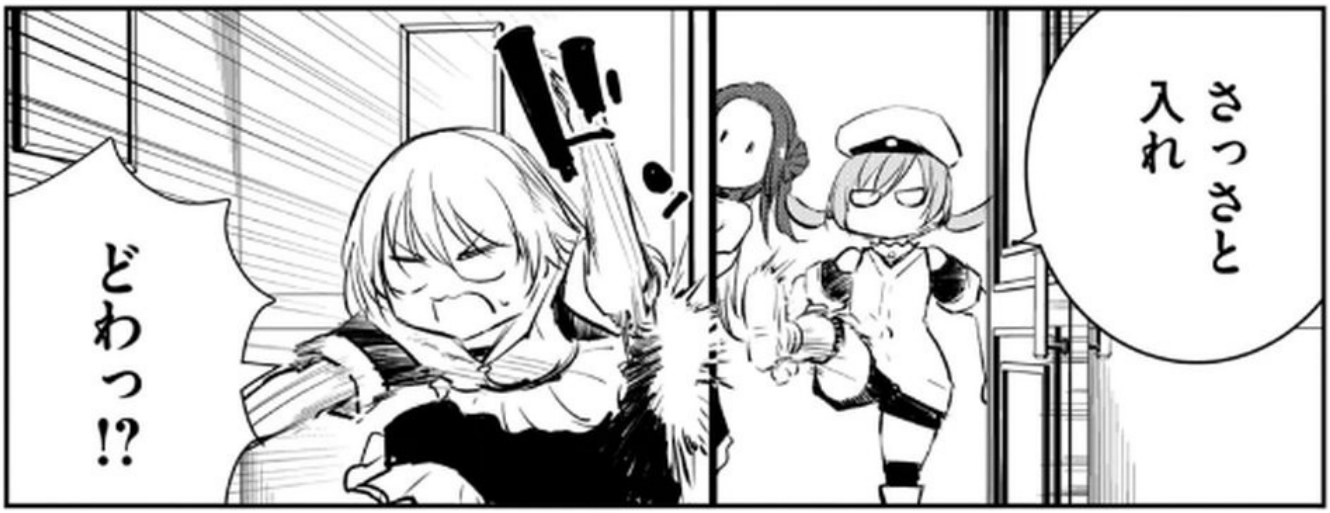
マズイ…
キャミィのヤツ
やる気だ…!!


せっかく教会へ
来られたのに
探索どころ
ではない
このままだと
なんやかんやで
服を脱がされて
しまう…！


なんだこれ
断って
いいのか？
「断ったら
女でも投獄」
なんてことに
なったら…


この部屋を
使いなさい
え？


カズリア
はいっ


さっさと
入れ
どわっ!?


終わったらきっと
ダンシャリー教に
入信したく
なってるわ…♡
フフフ…♥


ララに悪意は
なさそう
なんだよな…
天然なだけで…


カズリア
……




悪いけど
抵抗するだけ
無駄だ
キミに愛を
教え込んで…



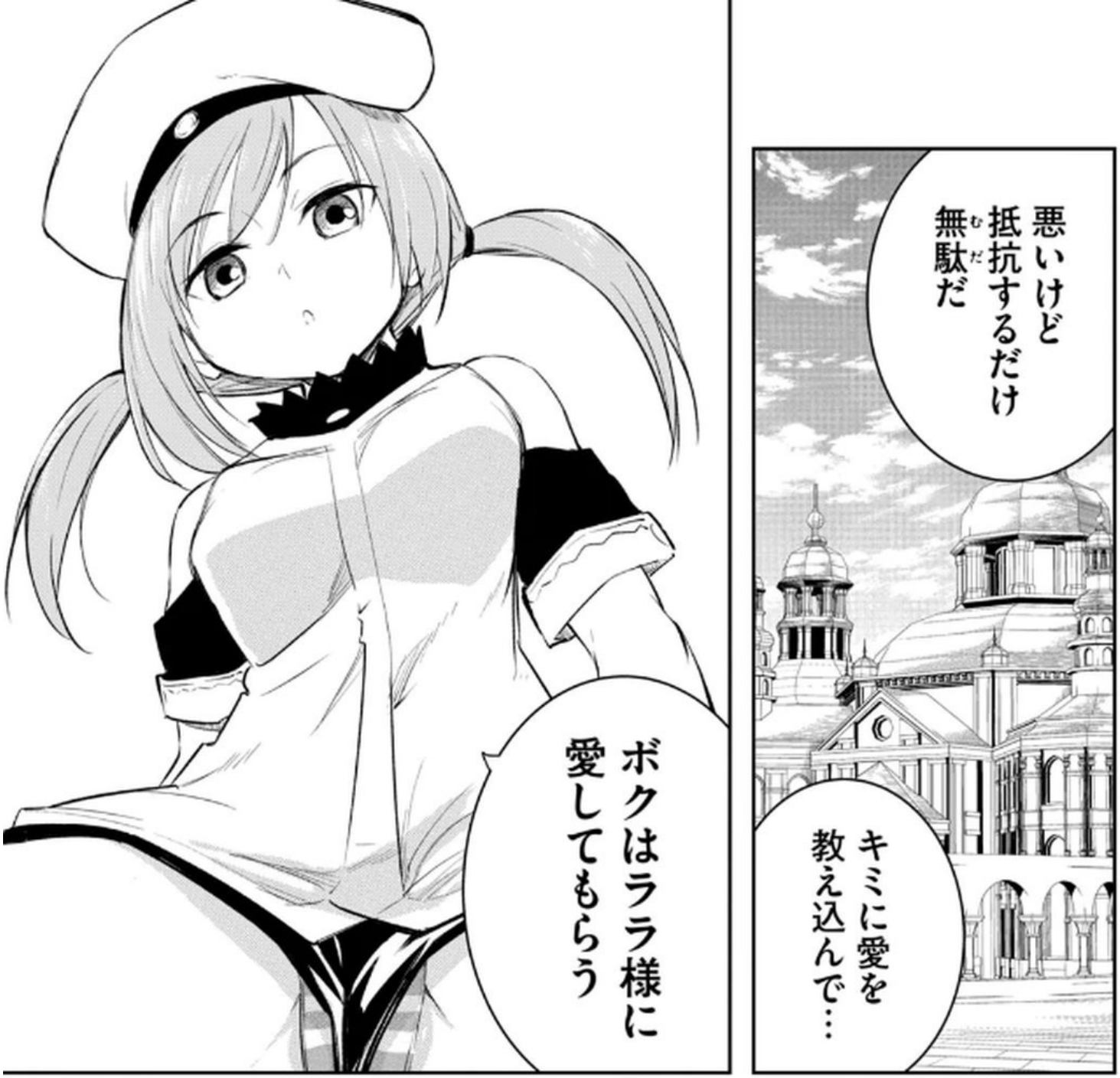
第⑲話　おわり

俺の指先で濡れる世界

A world wet with my fingertips

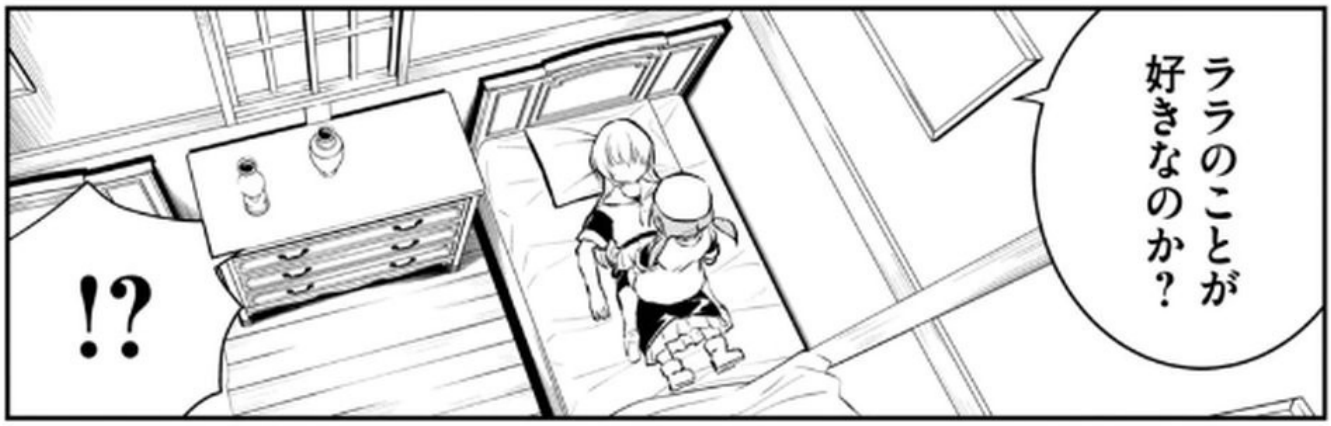
俺の指先で濡れる世界

A world wet with my fingertips

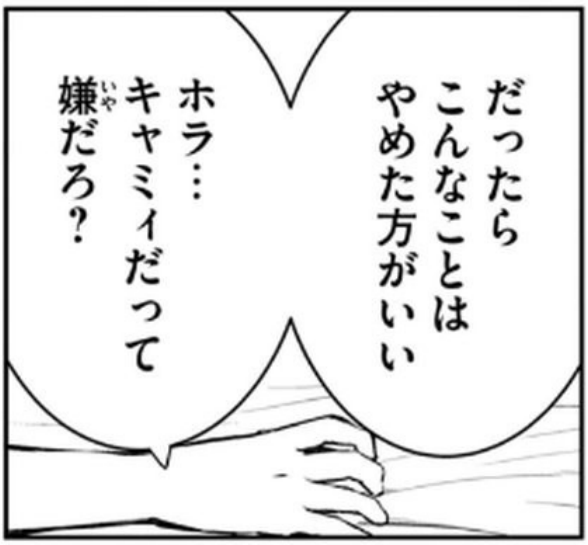




第20話 キャミィの秘密


ララのことが
好きなのか？
!?


ばばば
バカを言うな
恐れ多い！
ボクは
ただの従者で
あって——
ゴゴゴ
あぁ
ここ
あぁ
なんて
わかりやすい
反応なんだ

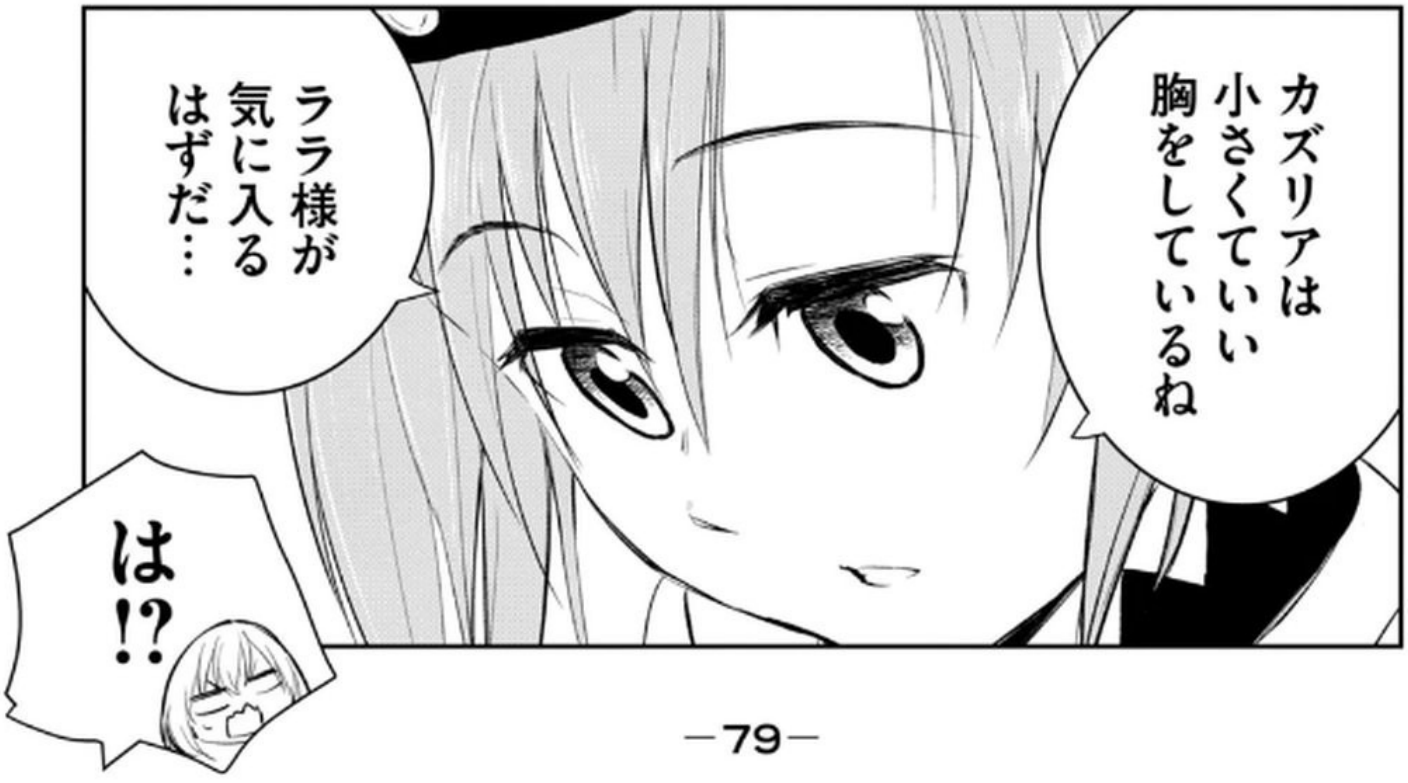

だったら
こんなことは
やめた方がいい
ホラ…
キャミィだって
嫌だろ？


説得して
どうにか
この状況から
逃れる…！


いいやこれは
ララ様の命令
なんだ
忠誠心(ちゅうせいしん)が
高すぎる…！


君に
愛を教え…
我(われ)らが
ダンシャリー教の
素晴らしさを
伝える…


それが
ボクの
役目だ…
さわっ
!?

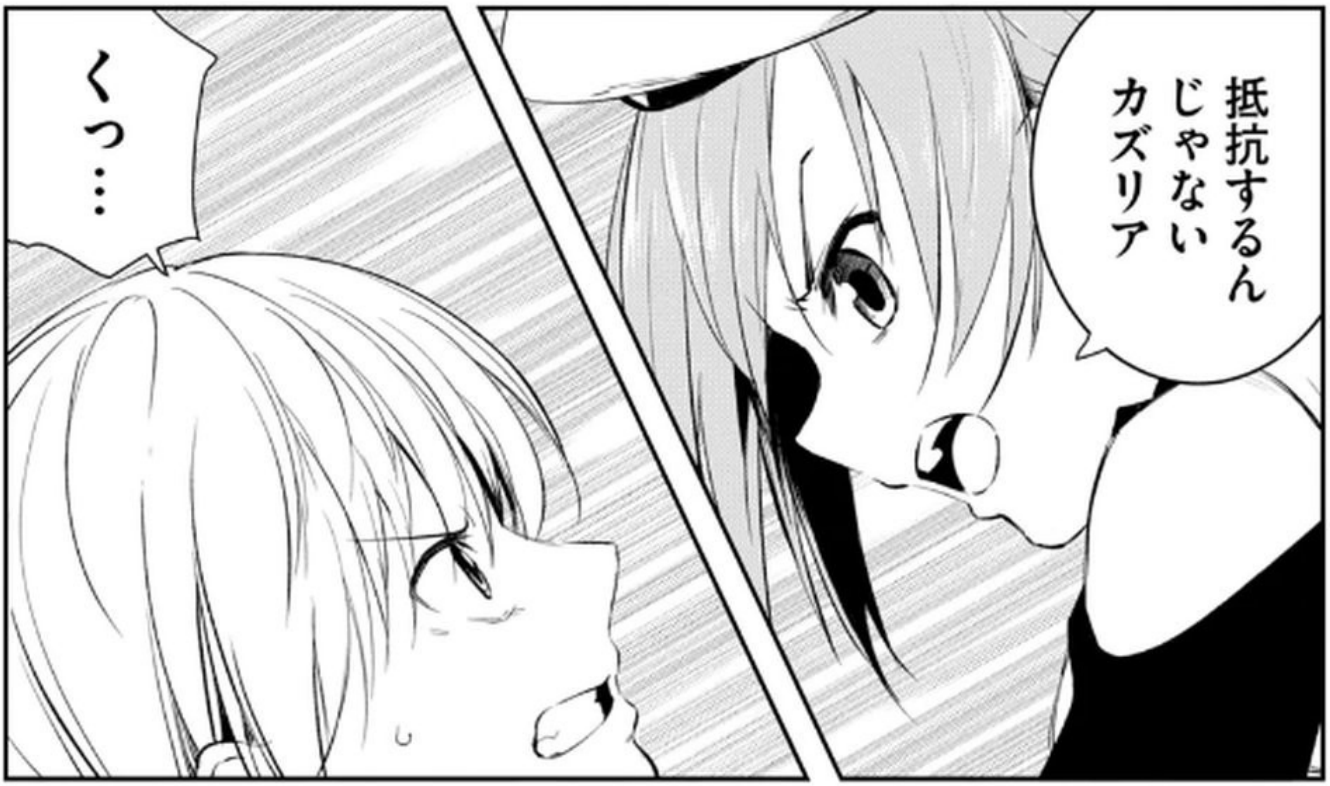

カズリアは
小さくていい
胸をしているね
ララ様が
気に入る
はずだ…
は!?


アイツ
そういう趣味
なのかよ…
そ…それを
言うなら
キャミィ
だって――


ス…
…


なぜ
怒る!?

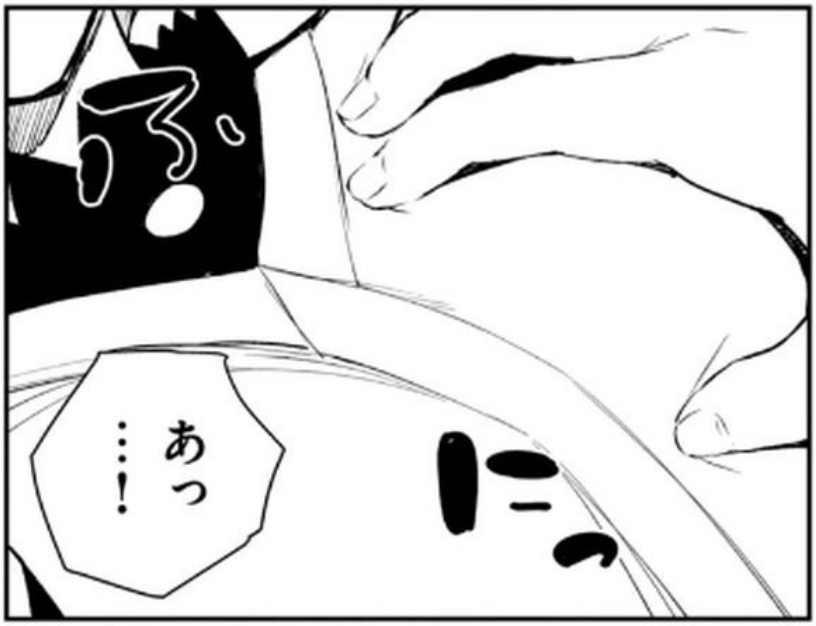

価値観がわからん！
この、この
もみもみ
ヤメテ…
小さい方がいいんじゃないのかよ!?


抵抗するんじゃないカズリア
くっ…


マズイ…！
これ以上は誤魔化しきれない…!!
多少強引だが…
ぐいっ


はぁ
え？


力を使って
なんとかする
しかない――！


ふ
あっ
……！
に


や…
やぁっ
…ん？
なんだこの
違和感（いわかん）…？


ふっ…
服を脱がすな…！
なっ
先に脱がそうとしたのはキャミィじゃないか！
うるさい!!
ぐっ
この！
ふぁさっ
あっ…!!




え？
これは
サラシ…？
なんで
こんな…


はりっ
見るなぁ…っ!!


胸を小さく見せているのか…？
サラシを巻いて…


まさかコイツ…


ララに気に入られるために…？

誰にも
言わないで…

ボクは
ララ様に
嫌われたく
ない…

…

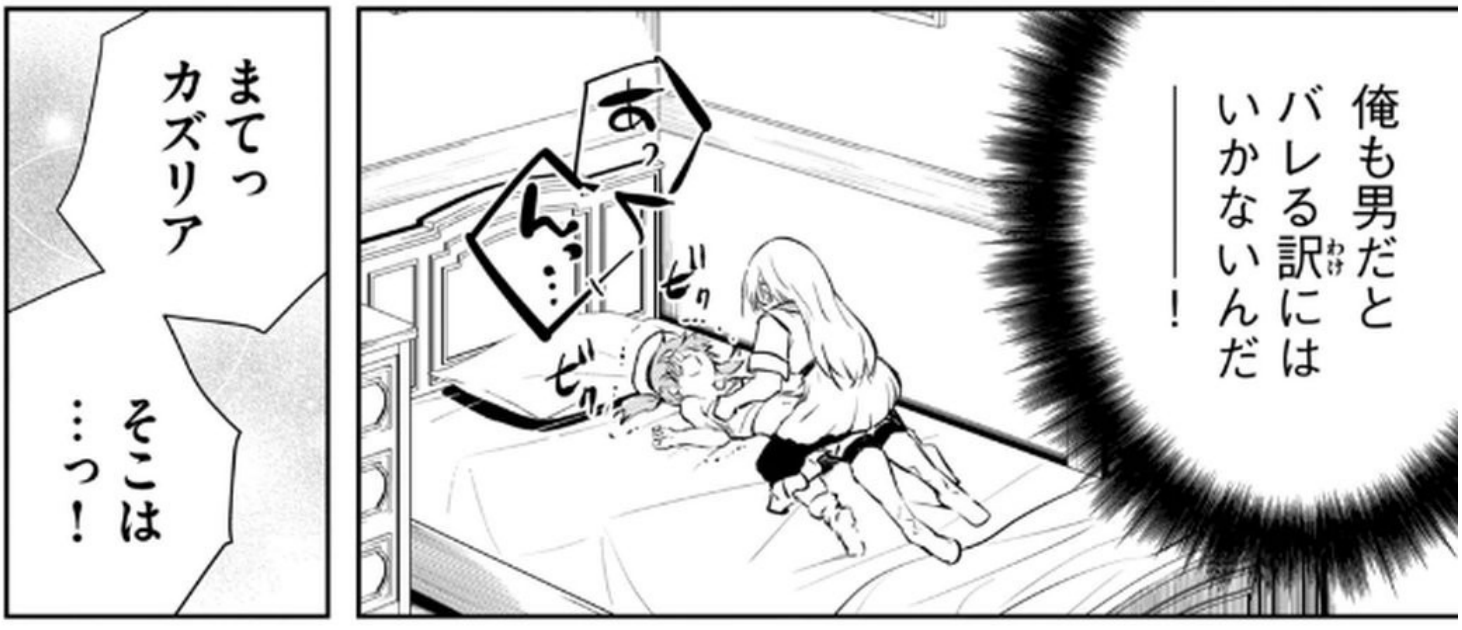
もちろん
言わないさ

え？

なんて健気(けなげ)で
いい子なんだ

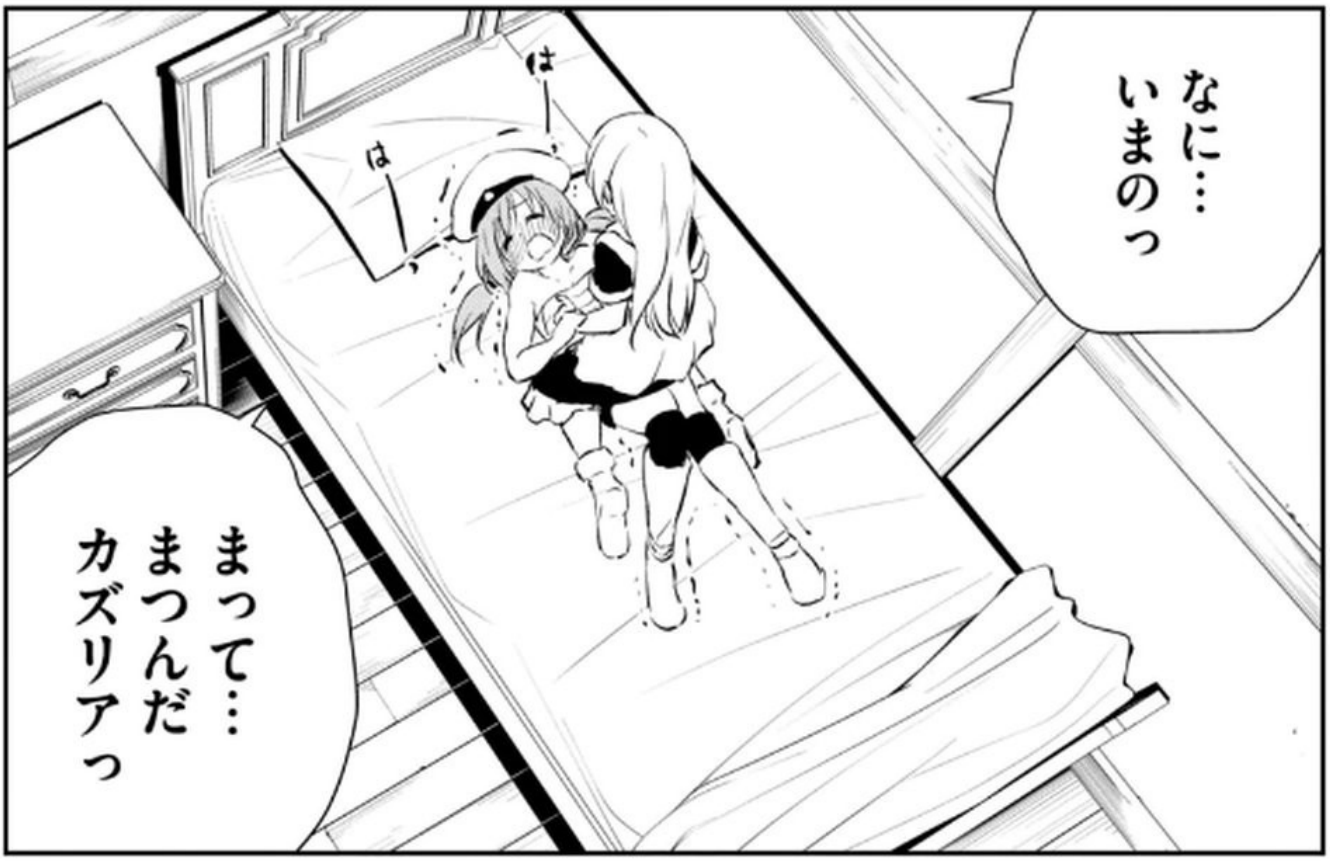
だけど
悪いな…


スス…
ビクッ
っ!?


俺も男だとバレる訳にはいかないんだ――――!
あっ
んっ…
ビクッ
ビクッ
まてっカズリア
そこは…っ!


こんな感覚
はじめてだ…
もじ
は…
はずかしい…
もじ
もじ
お…
おかしい
っく!?


んあぁ♡
あぁ♡
Hカラ
ビクン
ビクンッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
…え？
なんで
ボク…


なに…
いまのっ
は―
は―
まって…
まつんだ
カズリアっ

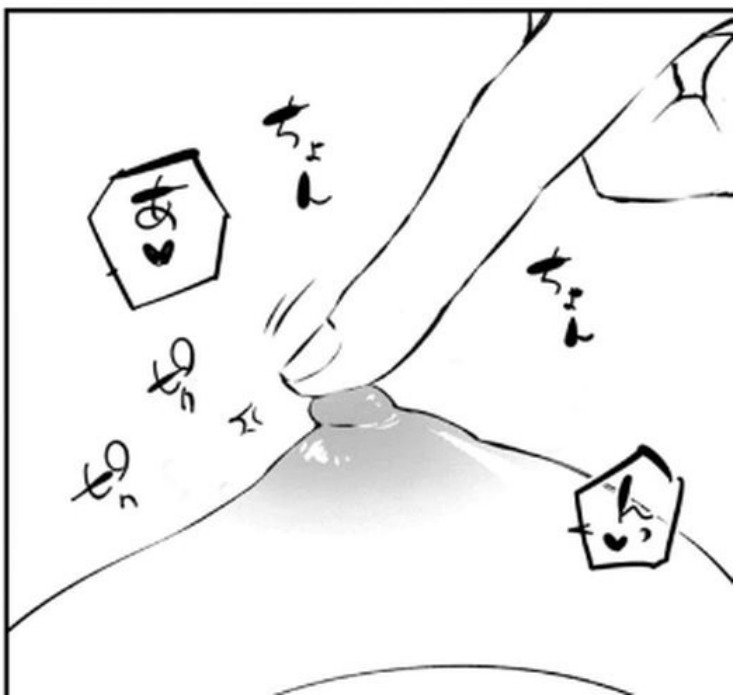

い…
今のは
なんだ？
肌が
粟立(あわだ)つ
ような…


しゅるるっ


あっ！
ちょっと
それを
外(はず)すのは
――っ
するっ
する




まってくれっ
声…
声がっ…！


ちょん
ちょん


こんな声を
聞かれて
しまったら
はーっ♥
はーっ♥
んっ
んくっ
はぁ…
ボクはもう
ララ様に
合わせる顔が
ない…っ
むにっ
きゅっ
きゅっ
んっ
はぁ
あぁ…っ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あ
んっ…♥
んんっ♥







第20話 おわり



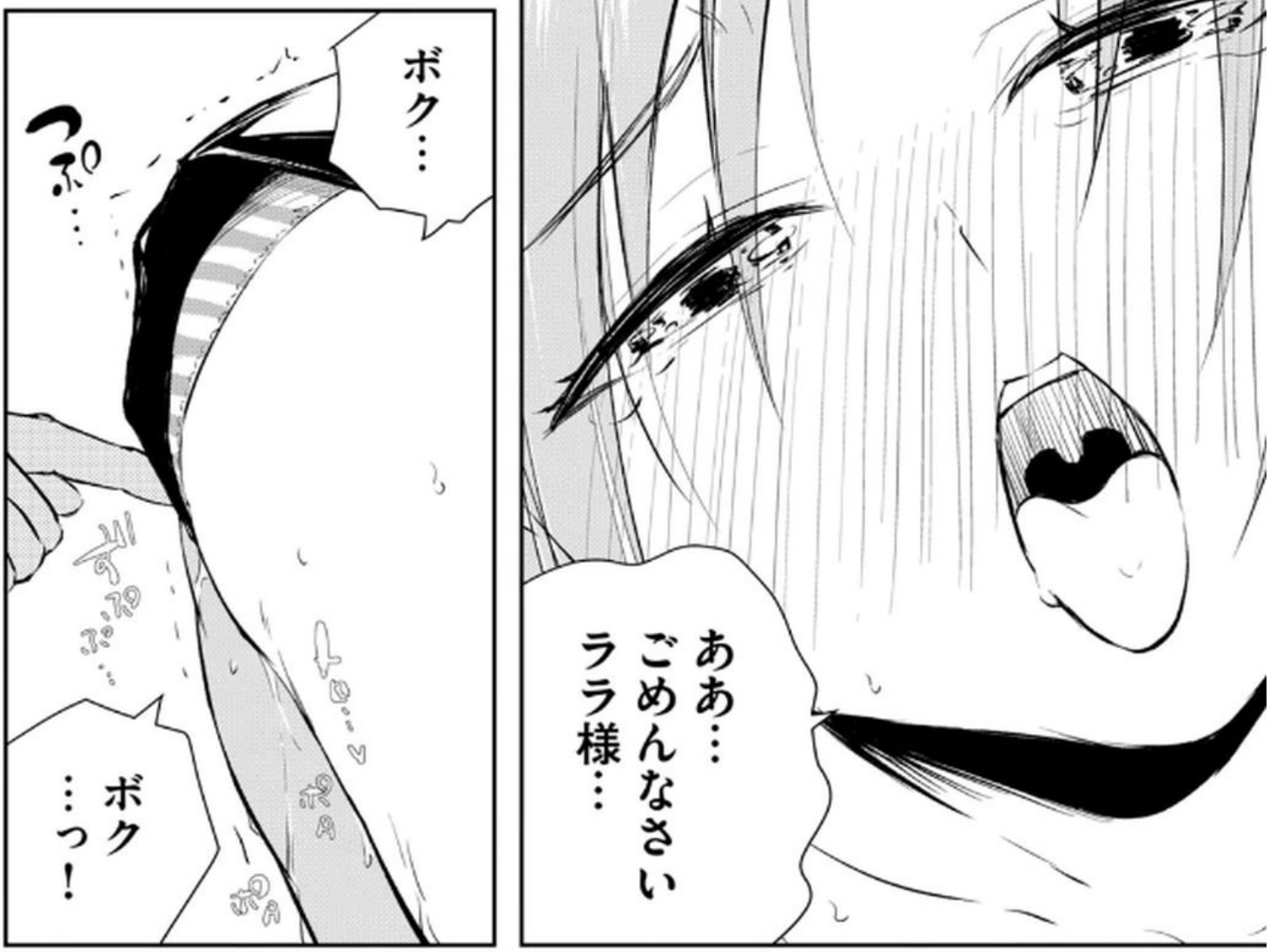
第㉑話 聖なる存在






きゅっ
触ってるのは
ララ様じゃ
ないのに…
はぁ
はぁ
はぁ
体が熱く
なってる…
するっ
あ…！


はうっ!?
あっ
まって
そこ…
そんなに
イジっちゃ…


ボク…
つぷ…
ボク
…っ！
ああ…
ごめんなさい
ララ様…


あぁ
あぁぁぁ
んあぁぁ
ヒリ
ヒリ
ヒリ


あ
あ…
ぜぇ…
ぜぇ…
あ…
あ…
あ♥
あ♥
ぱ…
ぱ…
ぱ…


あっ…っ
はぁ…♡
ぷる
ぷるん
ぷるっ
ぷるん
ぷるっ
ぷるん
ぷるっ
ぷるん
ぷるっ
ぷるん
ぷるっ
ぷるん
ぷるっ
ぷるん

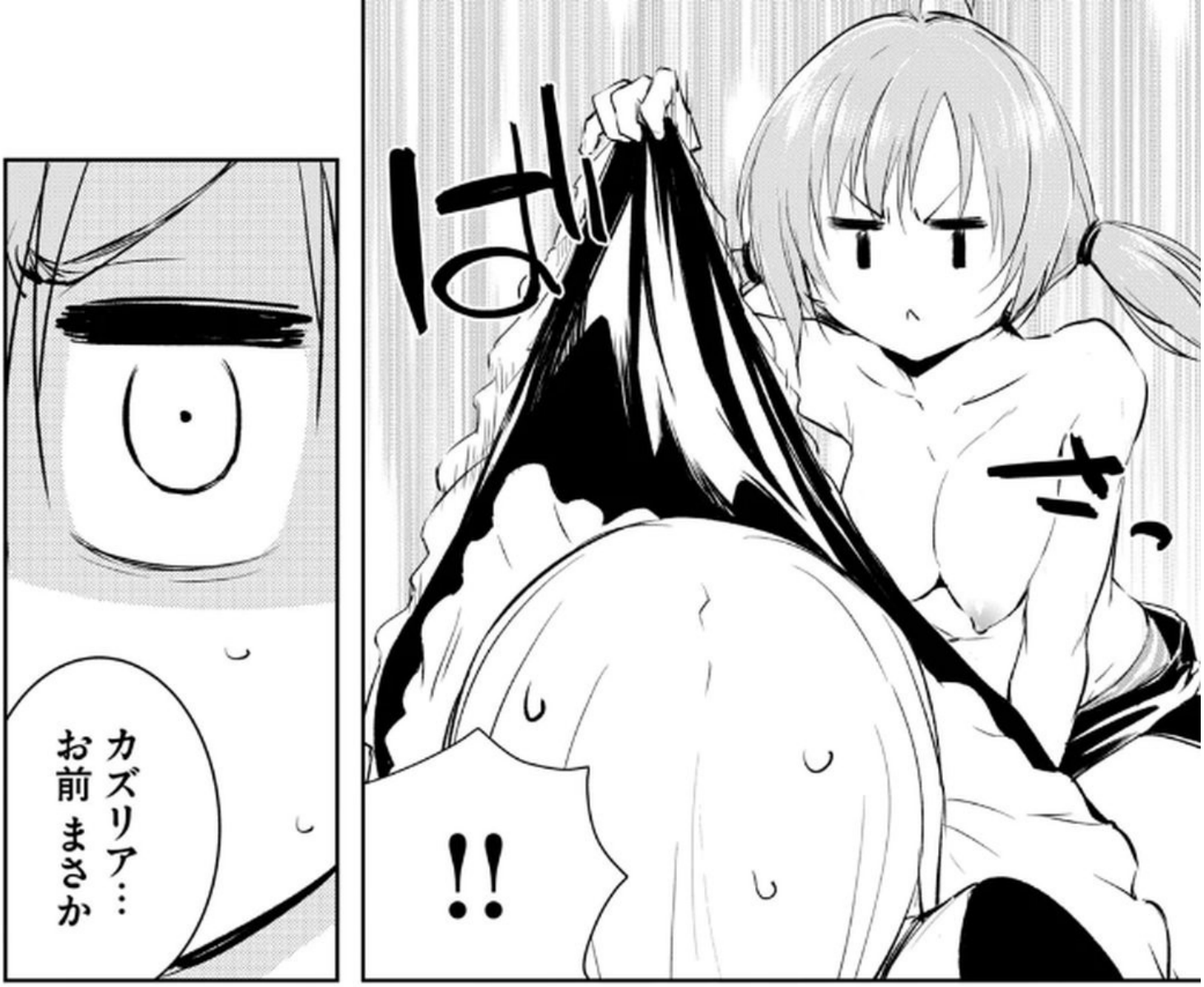

ぬっ
ぬっ
ぬっ


はーっ
ヒクッ
ヒクッ
ビクン
ビクン
ビクン
プルン
プルン
プルン
プルン
プルン
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ


しまっ
カズリア
!?

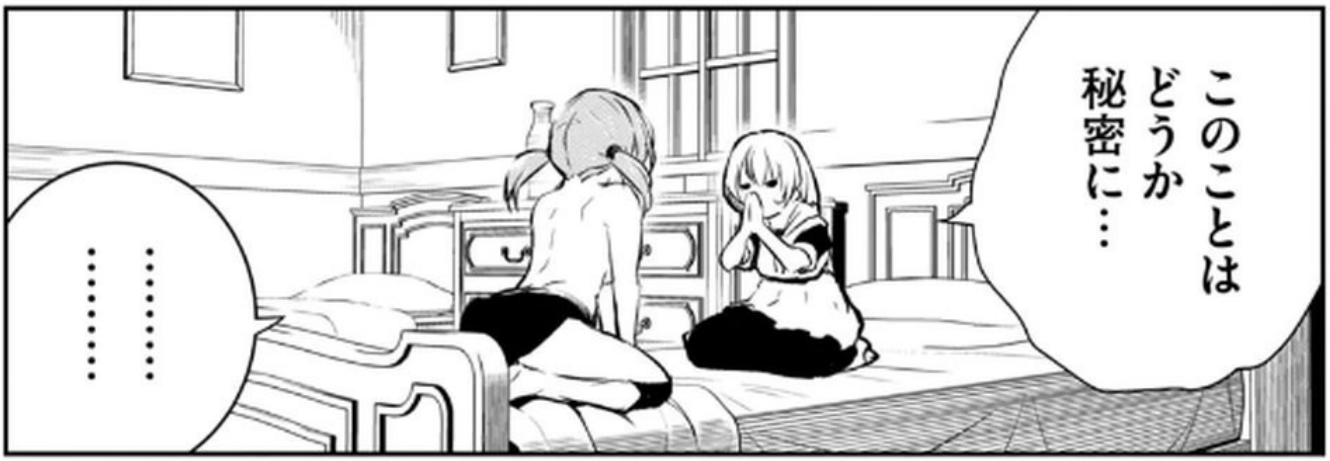

次は
お前を——

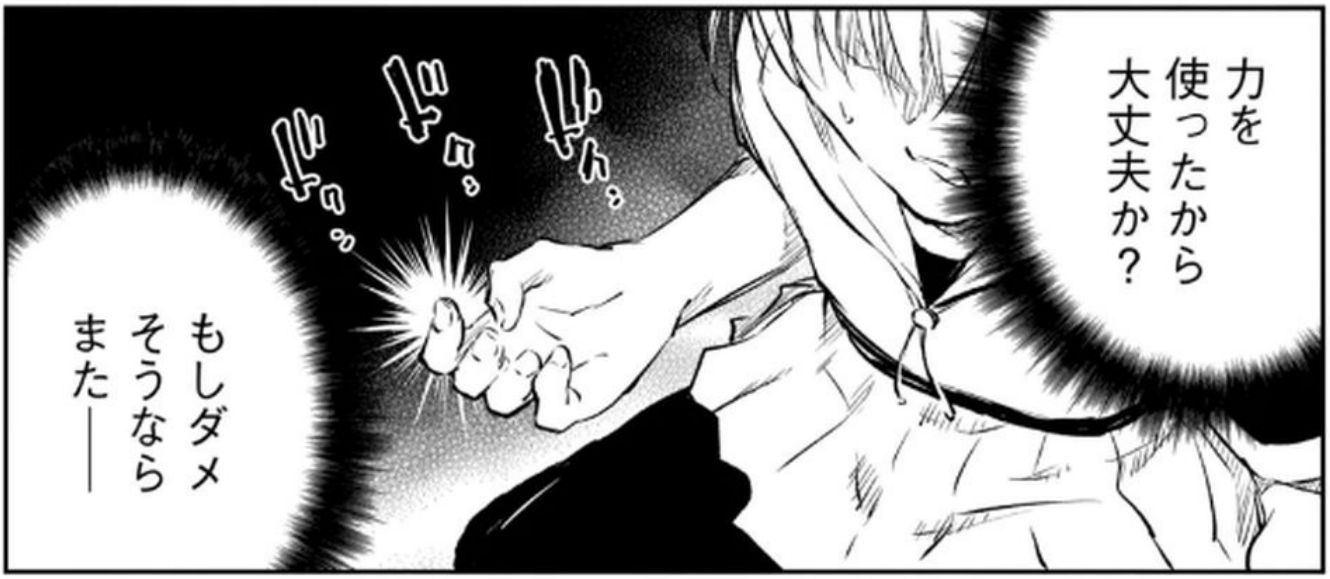

…ん？
え？


ばっ
さっ
!!
カズリア…
お前 まさか


おと…
キャミィ!


しまった
ドクン
ドクン
終わりだと
思って
油断した…!


このことは
どうか
秘密に…
……
……


力を
使ったから
大丈夫か？
ぴん。
ぴん。
ぴん。
もしダメ
そうなら
また――


秘密…？
それどころ
じゃない
ガタ
ガタ
ガタ


え？


この体が
男に触れ
けがれて
しまったと
知られたら


ボクだって
何をされるか
わからない…

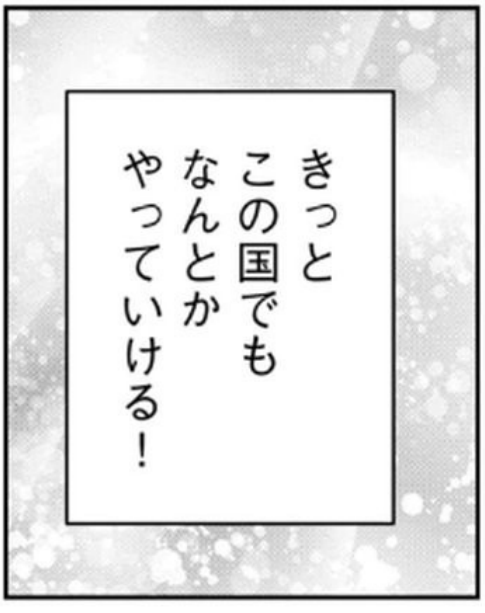

しかも
事情聴取なんて
されよう
ものなら
やだ
やだ、
気持ちよく
なってしまった
ことがララ様にも
バレてしまうっ


それが
本音なの
では…


カズリア…
このことは
黙っててやる
だから
ボクのことも
ララ様には
秘密だぞ…？


なんとか
丸く
収まった
あ…
ああ
…いや
これも
指の力の
おかげか


マリーさんと
同じように
キャミィにも
力が発動して
いるのだろう


きっと
この国でも
なんとか
やっていける！


聖天主様
街に男が迷い込んだようです
そうですか…


処刑
しなさい
ダンシャリー教　聖天主
セレス・ティアーク


この世界に
男は不要…
我が教団は
全ての男を
滅(ほろ)ぼし


世界を
真の幸福(愛)で
満たすのです
第21話 おわり

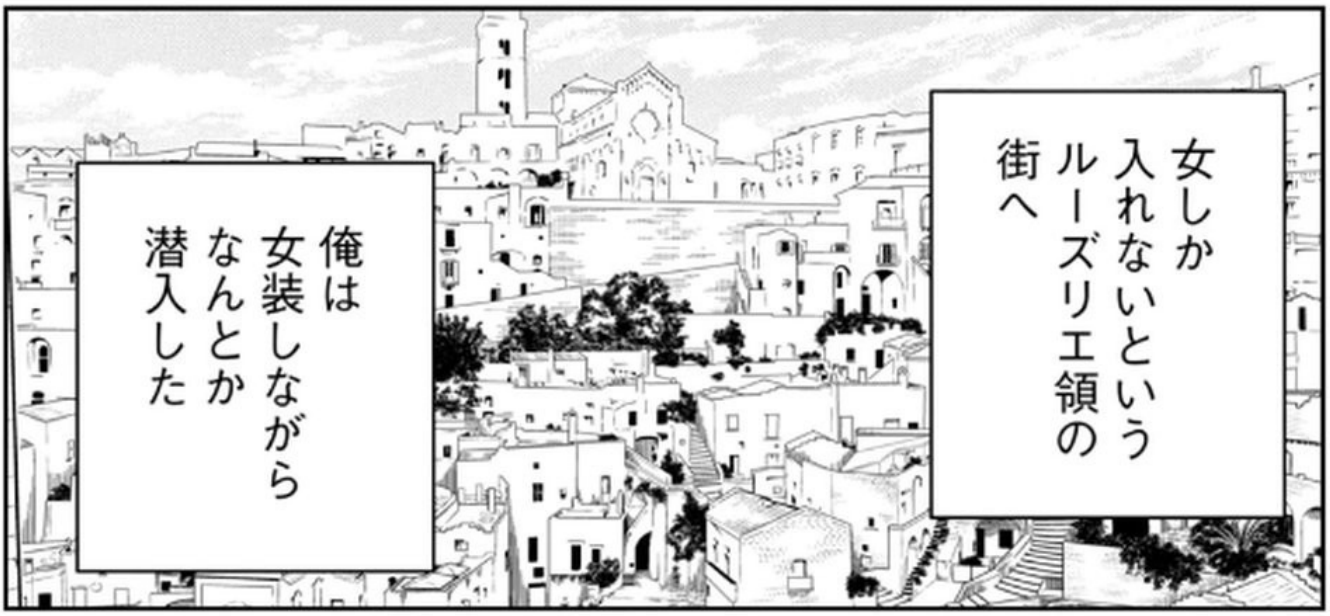
俺の指先で濡れる世界

A world wet with my fingertips

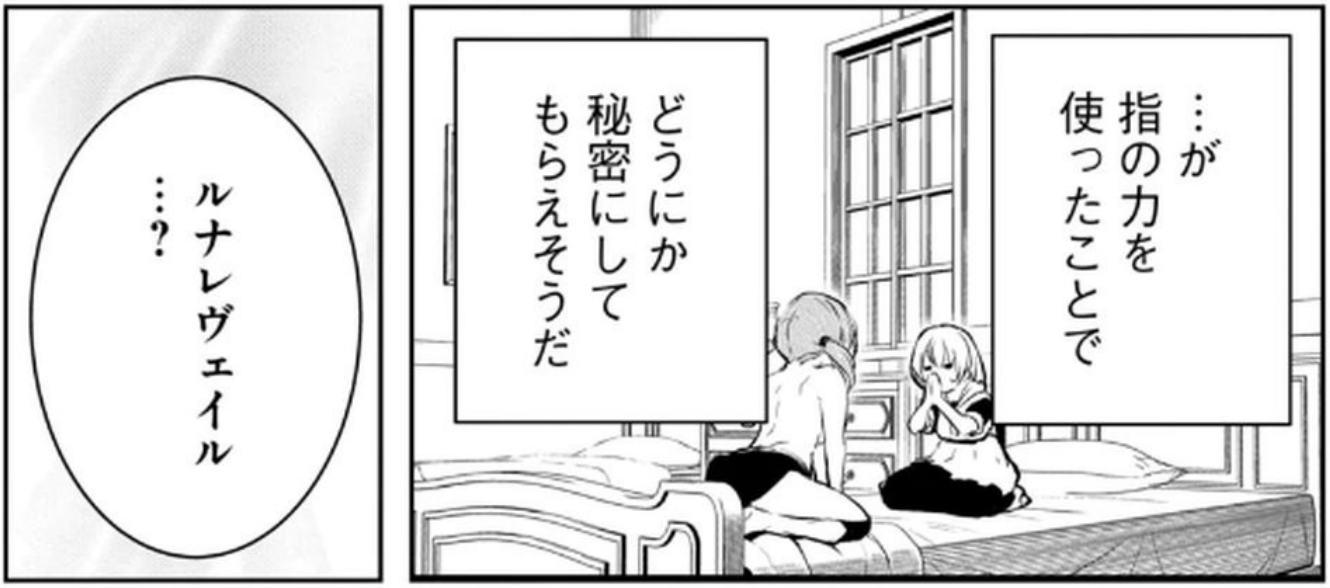
俺の指先で濡れる世界

A world wet with my fingertips

第㉒話 出会ってしまった♡

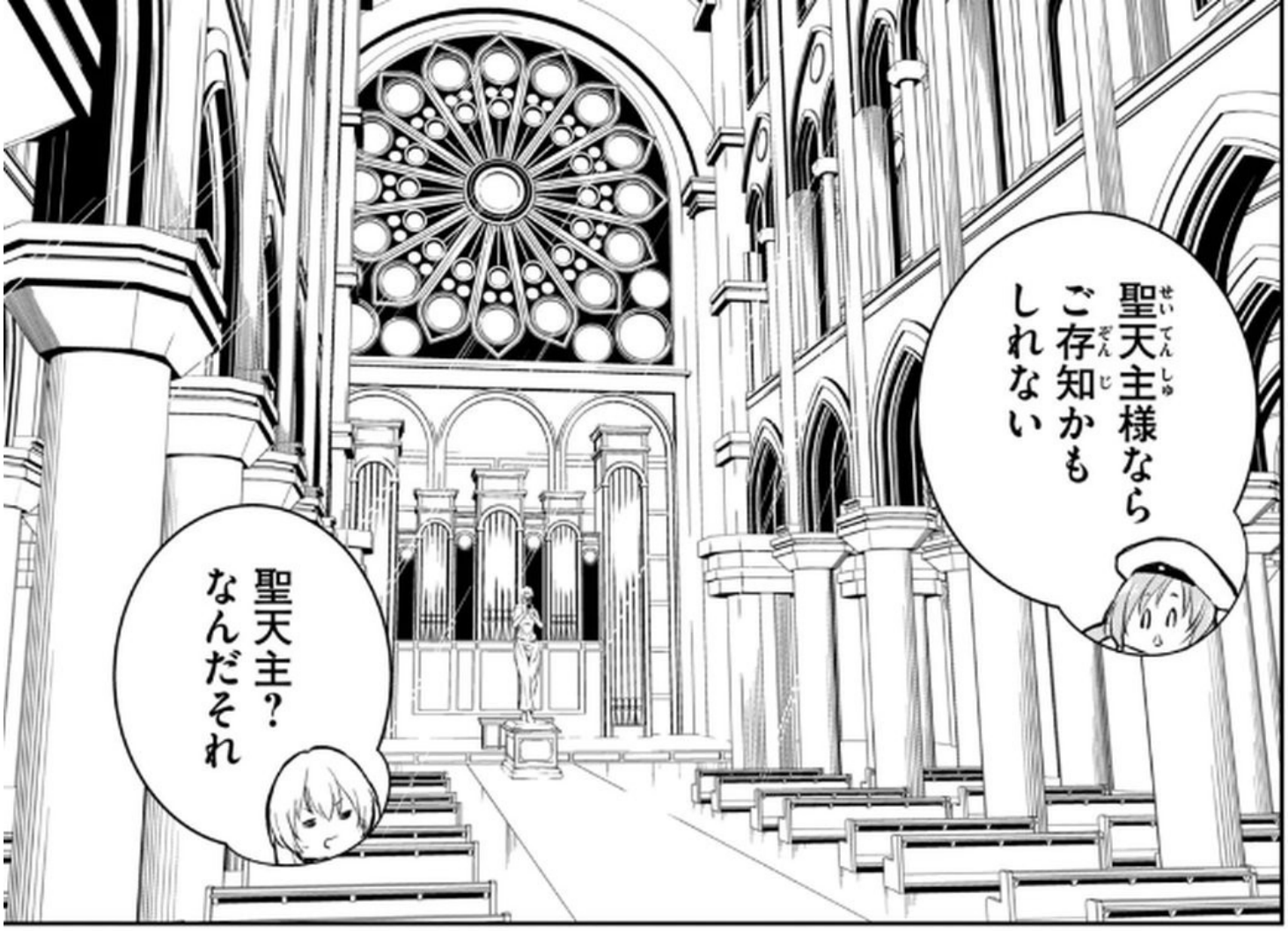







ああ
俺…
あたしは
それを探しに
この街へ
来たんだ
何か知ってる
ことはないか？
うーん…
聞いたこと
ないな…


教会に
あるって
聞いたんだ
けど…
ララは
知ってたり
しないか？
たぶん
知らないと
思うけど…
うむむ…
あっ
そうだ！
ぽん


聖天主様ならご存知かもしれない
聖天主？なんだそれ


知らないのか!?
ダンシャリー教で一番偉い女神のようなお方だ…!!


じゃあその人に聞けば——
ダメだダメだ！
もし男が近寄ろうものなら…



…という
ウワサが
ある

なんだ
ウワサか
……

しかし
それほどまでに
男を受け付けない
ということだ

近づかない
方が良い

うん
……


だが 他に
手がかりが
ないしな…
なあキャミィ
その
聖天主様…？
ってのは
どんなヤツ
なんだ？
そうか…
カズリアは
男だから
知らないんだね
ああ
というより
この世界の
人間じゃない
からだけど…
じゃあ
ちょっと
こっちに来て
え？
我々の
聖天主様は
この通り…
おお…？



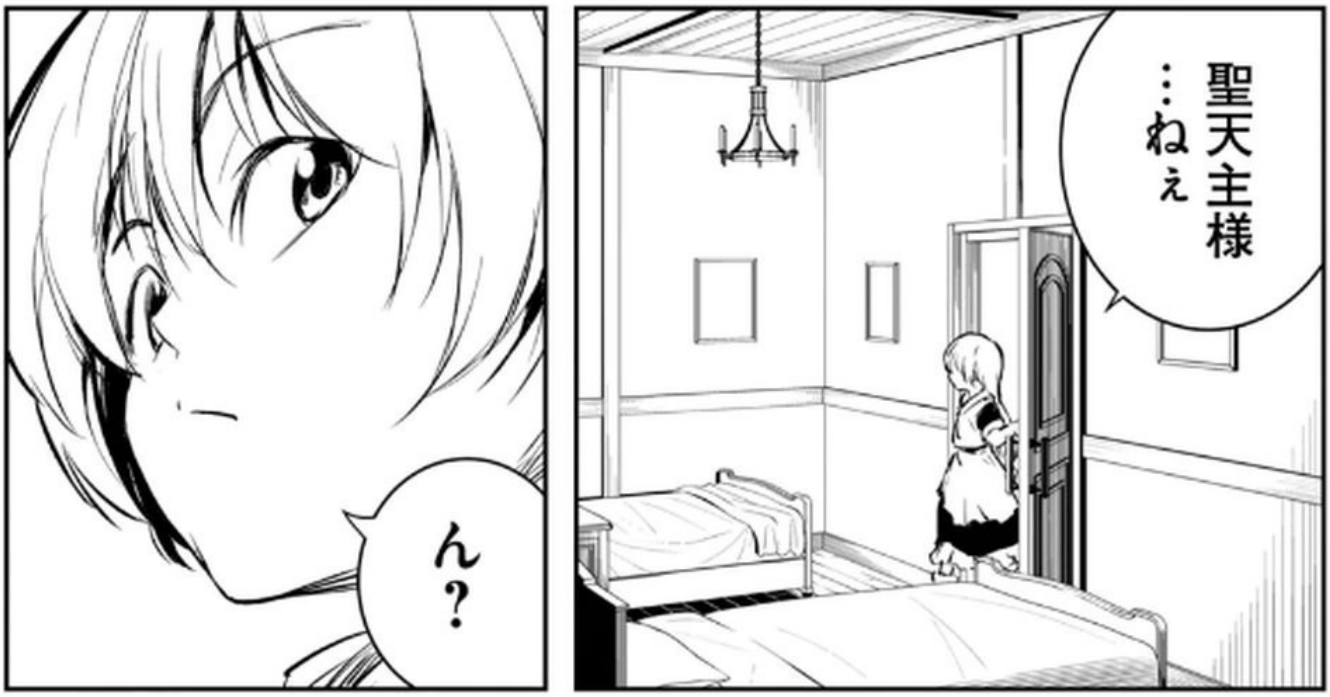

凛々しくて
カッコよくて
清廉で美しい
まさに女神の
生まれ変わりと
言われるべくして
存在するお方…!!
なんだ
この絵…


近づいた男が
炎上するという
聖天主様の
肖像画だ
ホント
だ!!


こんな
言い伝えが
あるくらいだ
カズリアに
何があるか
わからない
だから 絶対に
聖天主様に
近づいては
いけないよ？

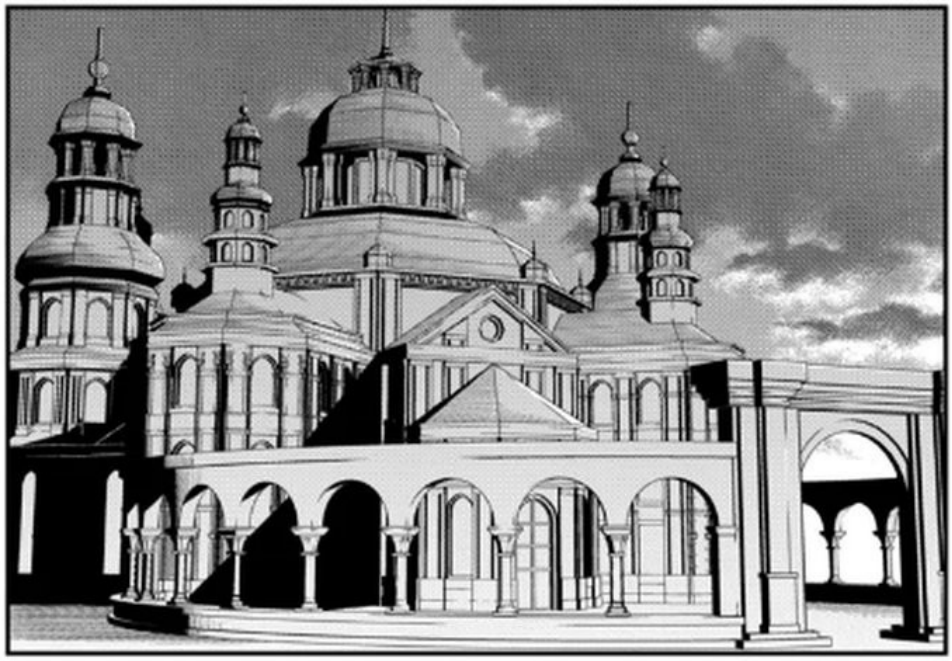

……
わかった
よ……

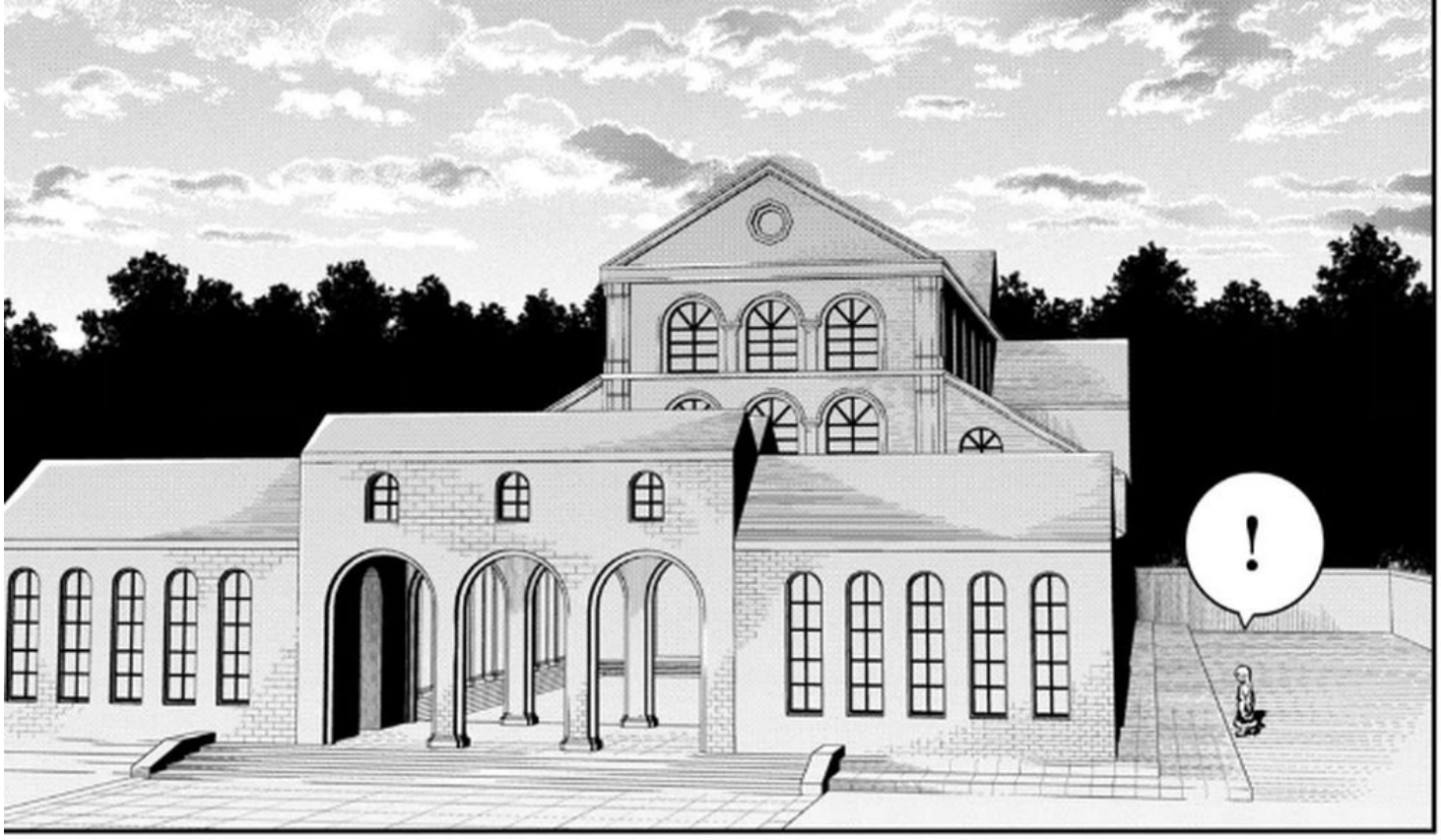

んじゃボクは
ララ様に報告
してくるから
カズリアは
部屋で
待っててね
ああ…


聖天主様
…ねぇ
ん？


この音
は…


キョロ
キョロ
…




！


やっぱり
これ…
ピアノの
音だ
しかも…


滅茶苦茶
下手…!!


なんなん
ですかその
運指は!?


うぅ…
しく
しく
ずびばぜん
……


これなら
犬の方が
まだ器用に
弾(ひ)けますよ


うっ…嫌な
言い方だ…


怒られてるのは…女の子…？
なんか見覚(みおぼ)えが…
聖天主…!?
来週までにしっかり覚えておくように！
はいぃ…
…なのかこれ…？
めそ
めそ
ふぇ？


どちらさま…？
え？


…見たわね…？


え!?


まずい…！
もしや聖天主様の逆鱗に触れたか…!?


こっちに来なさい…
はい…

当然と言えば
当然だが…



どうやら
近づいても
炎上はしない
ようだ

どうでしたか
私のピアノは？

と…とても
お上手
でした…！

本当は？

正直 微妙
でした…

ずーん

ビクビク

…



あなた…


正直者なのね…


他の人は私を持ち上げてばかりなのに
そ…そうなんですか…


ホントどうしても指が上手く動かなくてね…
一体どうすればいいのでしょう…


わかりますその気持ち…
へ？


あたしも
少しピアノを
するのですが
不器用なせいか
なかなか上手く
弾けなくて…


あら
あなたも？
偶然ね！
ええ


そうだ！
よかったら
少し弾いて
みない？
ピアノを
ですか？


…ここで
この聖天主
らしき人と
仲良くなれば
ルナ
レヴェイルの
ことを教えて
くれる…か？


コト
それに
もしも…

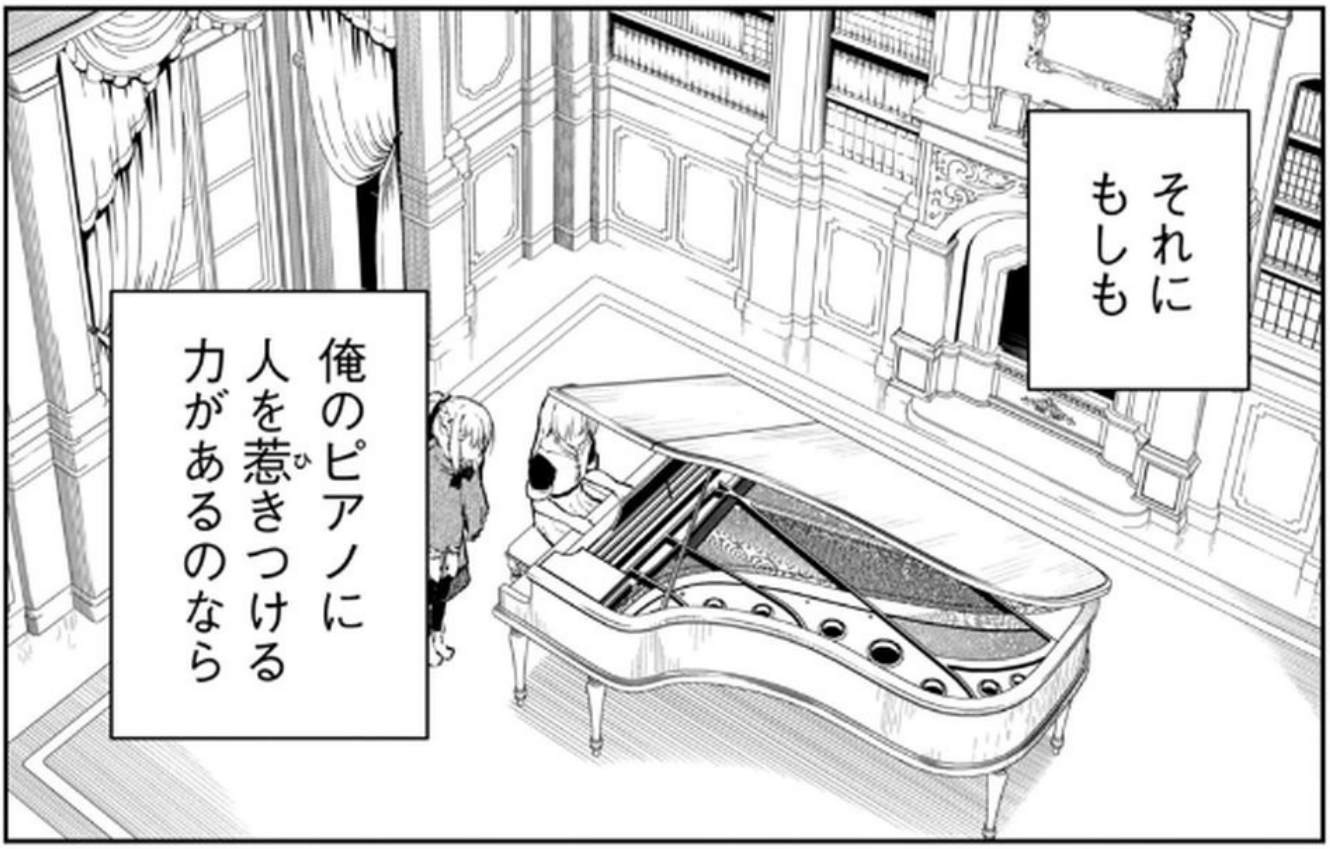

カズヤさんの
ピアノを
聞いたからです
ピアノを…？
俺のピアノに
人を惹きつける
力があるのなら
ここで聖天主に
聴かせておくのは
アリだ――!!


っと…
では
失礼して…
確かに
難しい曲
ですね
スル
!!



第㉒話　おわり

第㉓話 聖天主のホンネ









効果があるなら
きっとシェリルと
同じようになるはず








ポロ…ン
っと…
こんな感じですかね
確かに難しいとこですけど
ゆっくり弾いて指に覚えさせて
それを反復練習すればきっとできるように——
…


へぇ…
お上手なんですね…


あれ…？
なんか怒ってる!?


そんなにお上手ならぜひまた来てご教授頂きたいものです
ルー！
これは効いていない…か？


やっぱり
俺の弾くピアノに
力なんて無い…？
ギギ
ギギ
マリーさんの
勘違いだった
のか…？


セレス
様!!
ば
ん
ぱっ
何事？
ご報告
です…
？

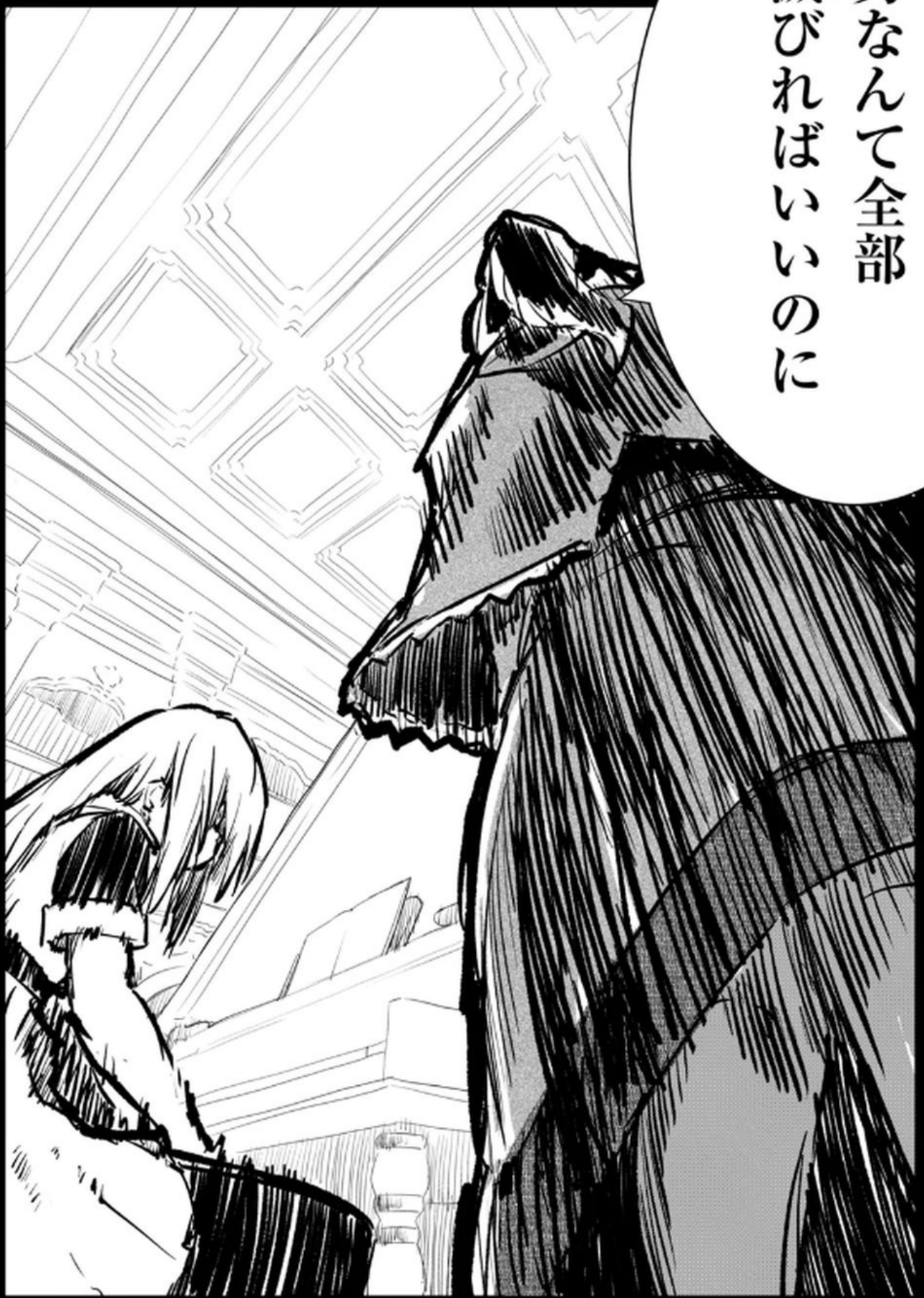

以前 領内に
侵入し
食糧を盗んだと
思われる男を
発見し
捕縛しました


よく
やりました
どこの
領地の男
かしら？


野良かと
思われます
ってオイ…


ではいつも
通りに
はい？
いつも通り
って…？

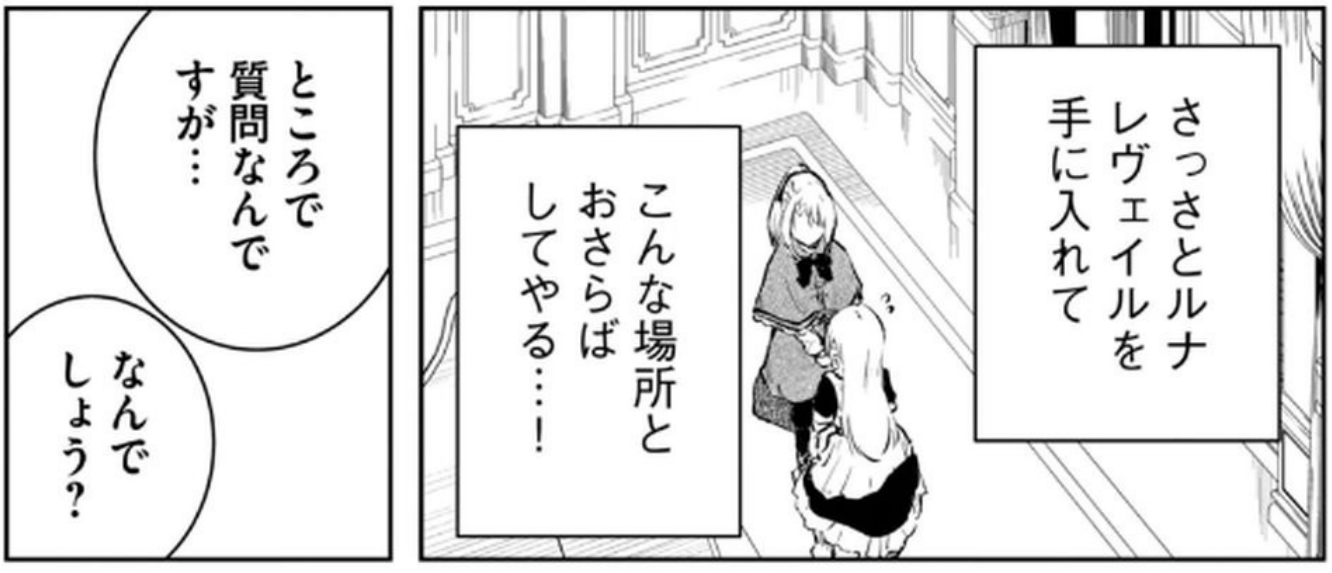

そりゃあ
焼却処分
ですよ
変な病気が
流行ったら
大変ですから
へぇ…
あーあ…


男なんて全部
滅(ほろ)びればいいのに


男は全ての問題の元凶…
男さえ世界からいなくなれば
国は豊かで治安も良くなり
民は平穏に暮らせる——
あなたもそう思わない？
ね？
それは…


もちろん
そうですよ！
ハーハハ
男ってホント
しょーもない
生き物ですよね!!


男としての
プライド？
知るか
そんなもん


さっさとルナ
レヴェイルを
手に入れて
こんな場所と
おさらば
してやる…！
ところで
質問なんで
すが…
なんで
しょう？


ルナレヴェイル
ってご存知
ですか？
夢写しの鏡…
らしいん
ですが――
ルナ…
ああ！
あれのこと
でしょうか
知ってるん
ですか!?
もし
よかったら
貸して…
いや
見せて頂け
たらなーと…
……
なる
ほど…


じゃあ
そのかわりに
私にピアノを
教えて
頂けません？


ぇ


なんです？
その反応…
むぅ…
ああ
いや…


もちろん
喜んで！
よろしい
…！


あなた…
名前は？
あっ
カズリアと
申します


私の名は
セレス
これから
よろしくね
わかり
ました…！


…
とぼ
とぼ


怖(こわ)——!!


無事にピアノ
教えられるのか
俺——!?


はぁ
やっと
一人に
なれた…
はぁ
ぽてん
はぁ
はぁ
歩くのが…
やっと…
はぁ

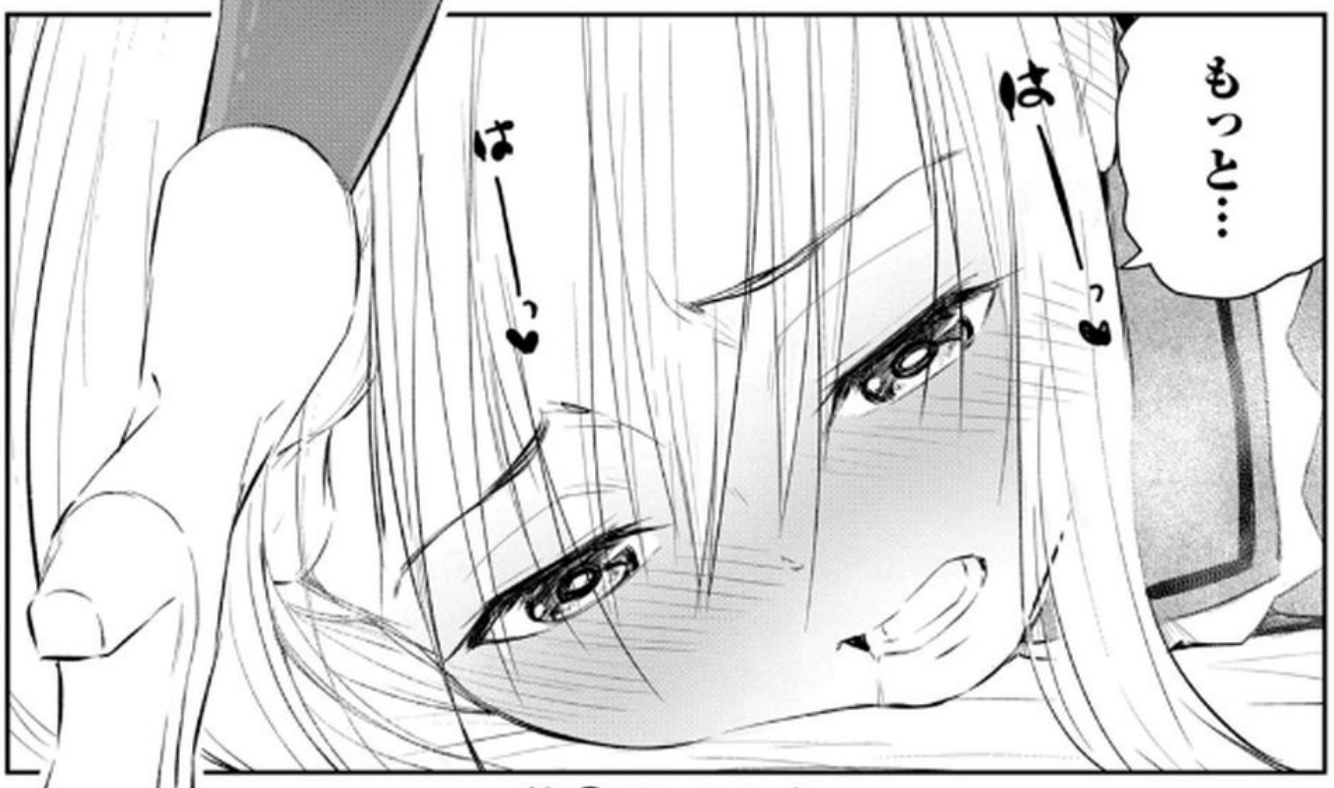

ああ…
じゅん…
(はぁ)
(はぁ)
こんな気持ち
初めて…
はぁ
はぁ
はぁ
カズ
リア…
サイ


あんっ
くちゅ
くちゅ
そこに
触って…


そこっ
きもち
いい…
はーっ
はーっ
カズリア
…っ♡

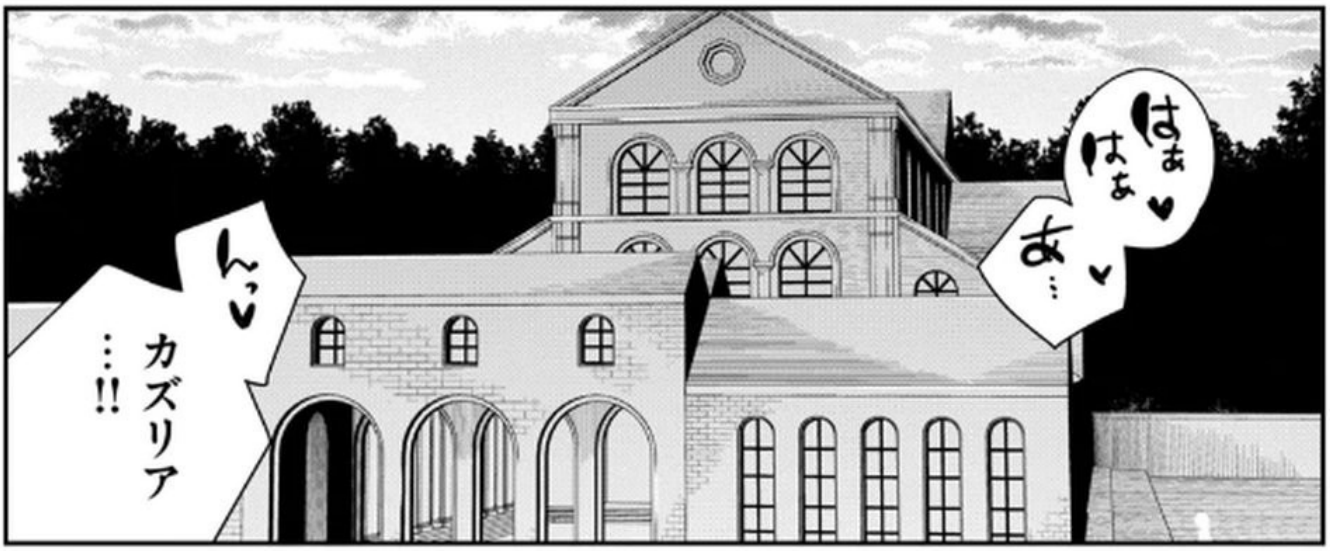

もっと…
もっと
ほしい…
くちゅ
くちゅ
じゅ…





第㉓話　おわり

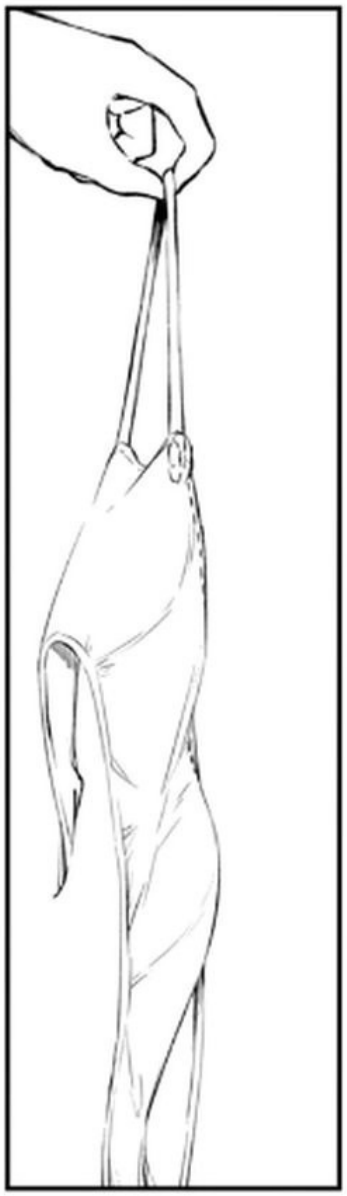
第㉔話 教団の祭り














んっ…
ちょん
ちょん
くり
くり


あっ
あぁあ
あぁ…♡
これ…
きもち
いいっ…！


んくっ…♥
はぁ
はぁ
ビクッ
ビクッ
なんで…
こんなっ…♡
あっ
あっ
あっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
んくっ♥
あ…
あぁ
んぁ
ビクッ
きゃっ
あ
あん
あぁ
んくっ♥
あぁ
あぁ♥
あぁ


はにゃあ
あぁあぁあぁ♥
ビリ
ビリ
ビリ
ビリ
ビリ
ビリ


ダンシャリー教
教会
どこに行って
いたんだ
カズリア！
えーっと
実は……


セレス様に
ピアノを
教えることに
なった!?
カズリア お前
ピアノが
弾(ひ)けるのか!?


うん
まぁ…
一体
どういう経緯で
そんなことに
なったんだ？
それは
その…


そうすれば
ルナレヴェイルを
見せてくれる
って…
私に
ピアノを
教えて頂けませんか？
…ボクは
忠告した
はずだぞ


それにしても
セレス様が
ピアノか…


きっと
祭りの前
だからだな
祭り？


ああ
女神様を祀り
感謝し豊作を
祈願する
くるっ
我が
ダンシャリー教が
主導して行う
祭り…


祈響祭だ

そこで今年は聖天主…

セレス様がその大役を仰せつかったと聞いている

その祭りはいつあるんだ？

1カ月後だ…！

1カ月でセレスのピアノを上手く…

俺にできるのか…？

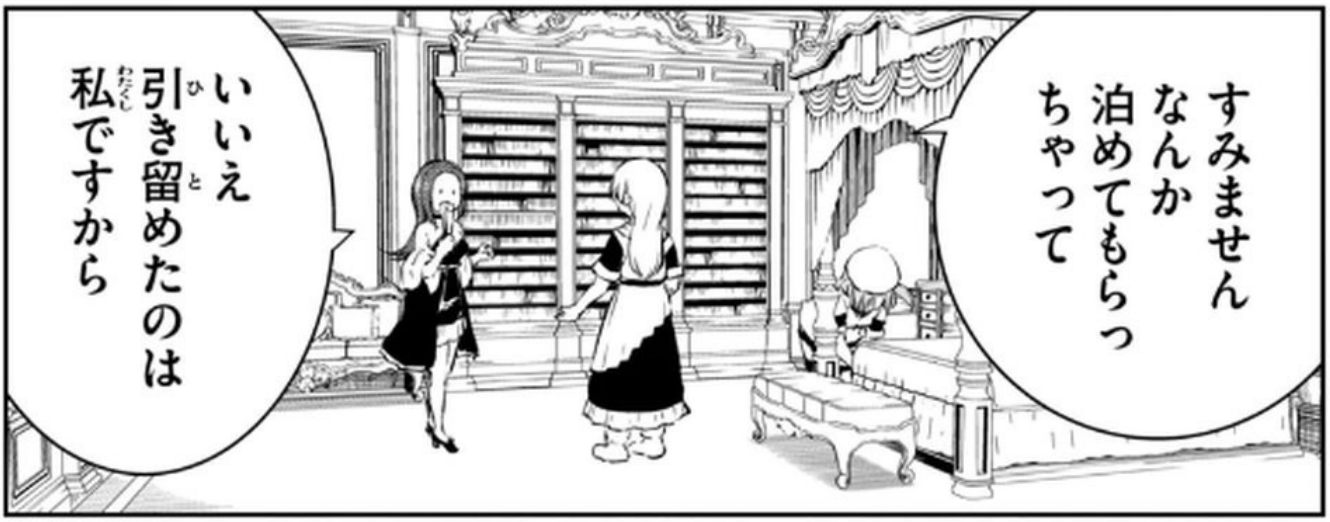
いや…

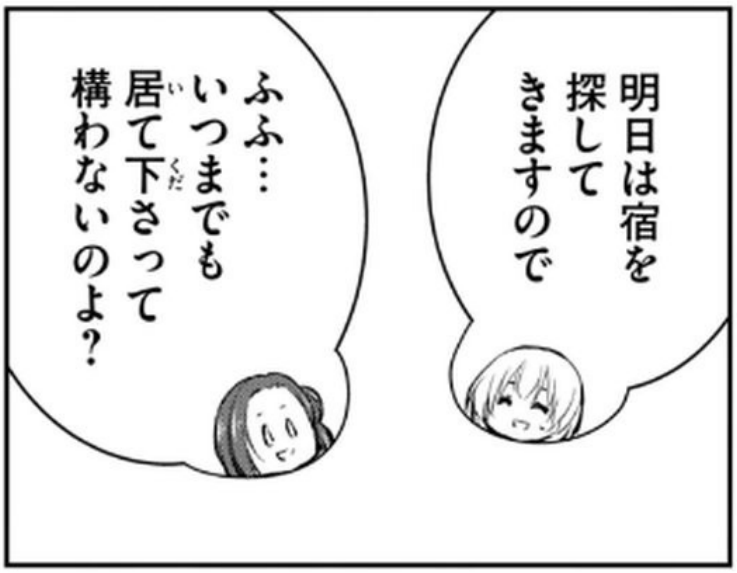
元の世界に
戻るためだ…！

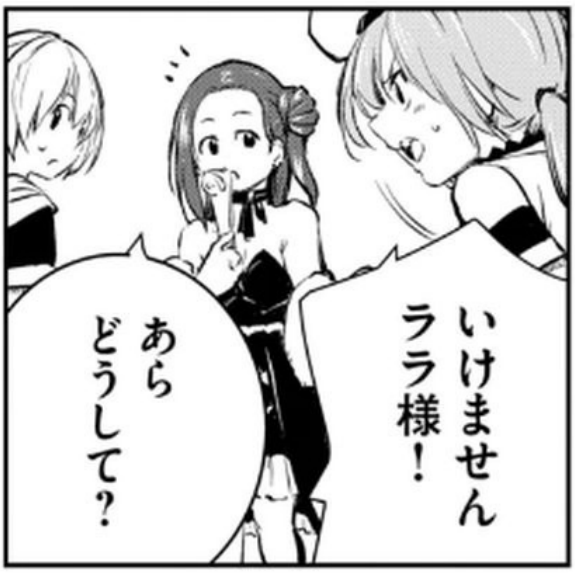
ぐっ






すみません
なんか
泊めてもらっ
ちゃって
いいえ
引き留めたのは
私ですから


明日は宿を
探して
きますので
ふふ…
いつまでも
居て下さって
構わないのよ？


いけません
ララ様！
あら
どうして？


もにょ
もにょ
そ…
それは
だって…


あ
わかった
わ…！


キャミィったら
私にカズリアを取られたくないのね
ちち違います！


きっとキャミィは男である俺が
ララに近づくのが嫌なんだろう…
はがれるとかなしてたし


風呂…


ああそれとウチには自由に使えるお風呂があるの
だから後でカズリアも入っていらっしゃい


マズい…！
こんなところで裸になってみろ
誰かに見られた時一発でバレる
そんなのリスクがでかすぎる
だけど…


風呂
入りてぇ～!!


シェリルの
とこじゃ
水浴びだけ
だったし
ジャー


なんたって
こちとら
長旅の間
ずっと…

ヅラを
かぶり続けて
るんだ…！

できるなら
早くこれを
取って

汗を流して
さっぱり
したい…!!

そのため
には――

あの…

スッ

キャミィと
一緒でも
いいですか？

へ？


ばーん
にこにこ
ここの風呂はこうなってるのか～
カズリア
ん？


な…なぜ
ボクを
一緒に…？


そりゃ
あ…
誰か来ないか
見張ってもらう
ために――




え？







『俺の指先で濡れる世界』③ おわり
4巻につづく!!

次巻予告



その指先は理不尽極まる世界を覆せるか!?



発覚!!





和也とのふれあいを通じて、
変わってゆくキャミィとセレス。
今まで疑いもしなかった
「女尊男卑」の世界は
間違っていたのか……。
確かめる猶予もなく、その時が迫る!!





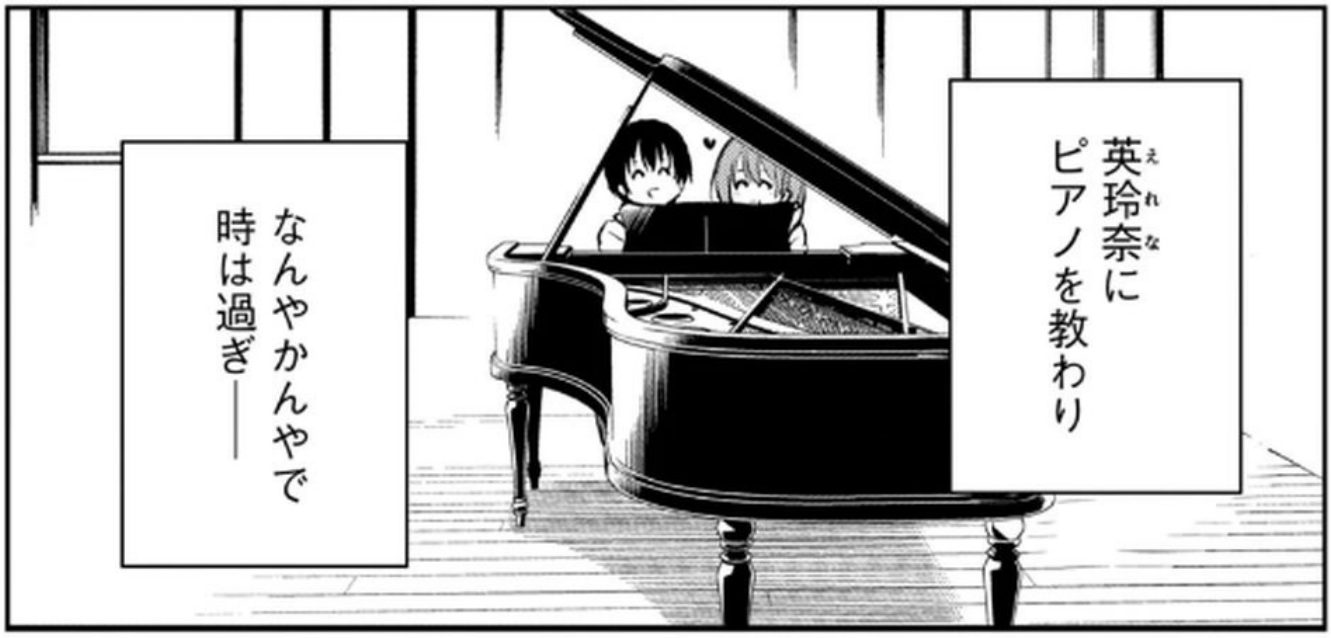
俺の指先で濡れる世界 4

A world wet with my fingertips

'26年3月発売予定!!

おまけ

異世界には行かず タイムリープしてしまった件 （指の力もあるよ！）

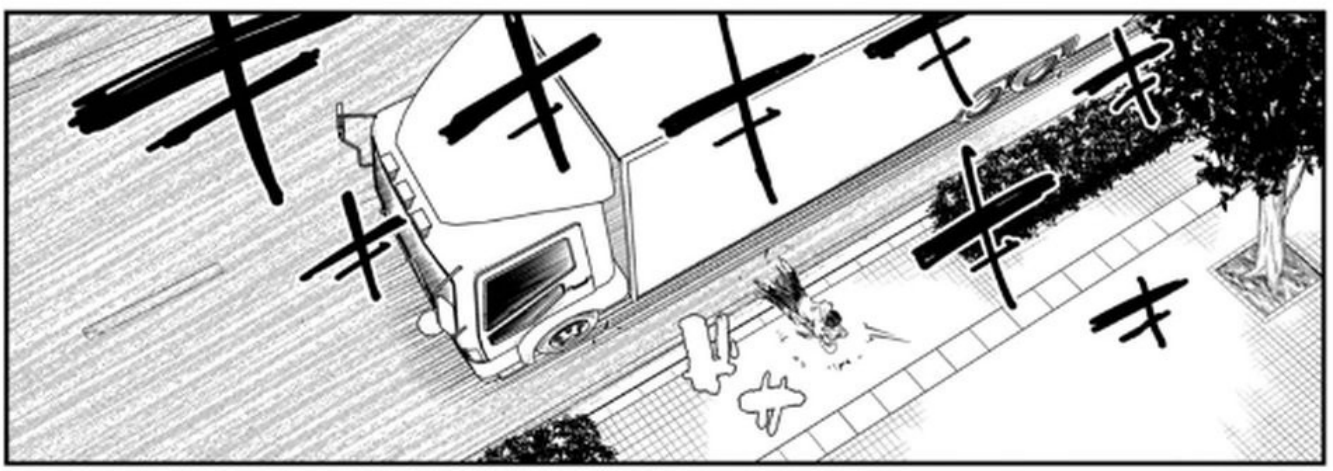







今回は
別の誰かが
ひかれそうに
なっていた
あぶない！
ばっ



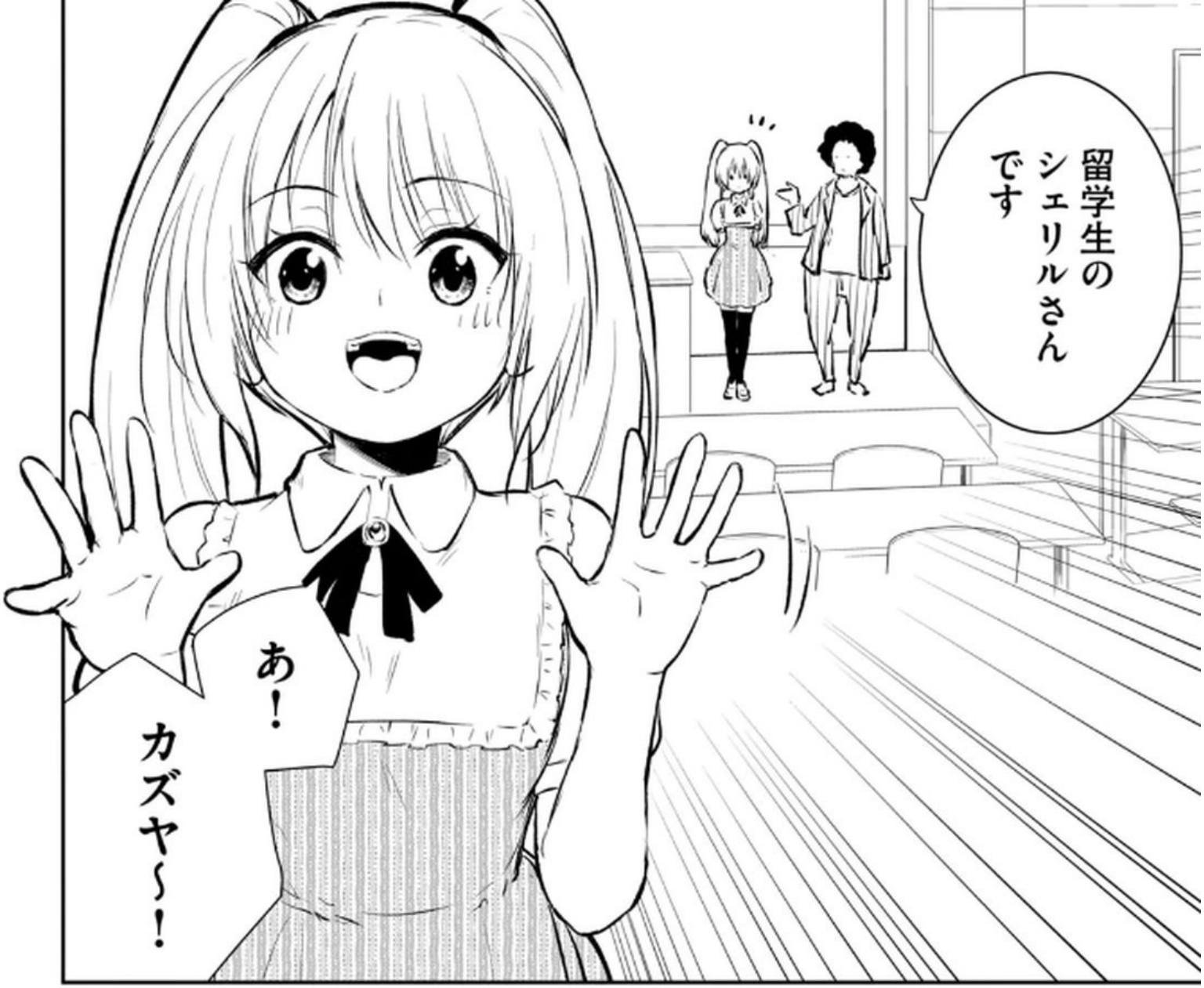



しゅき…♡

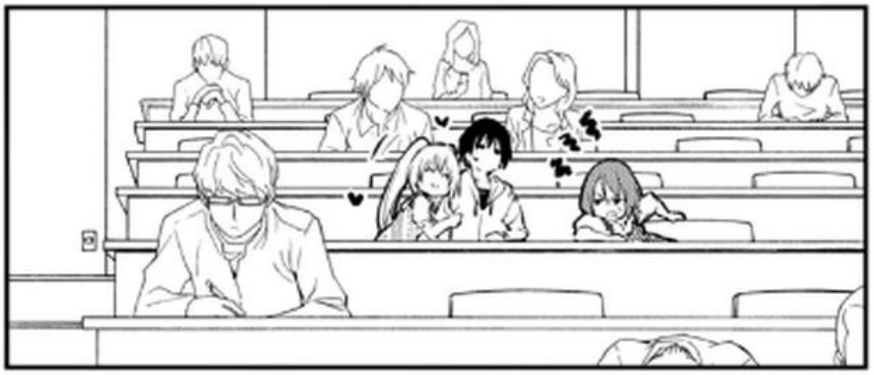

だ…
大丈夫か？
……


今回 俺は
事故には
あわず
このまま
平穏に時が
流れる…


――と
思いきや







新たな問題が起こってしまった…


シェリル！
だめだこんな
ところで…っ
ちゅっ
へーき
へーき
どうせ誰も
来ないって
ぺろ
ちゅるるる

禁断・背徳・大興奮！エロス全開コミック！

「ゾンビ世界（ワールド）でハーレムをつくろう！」
今井ユウ



世界は滅びかけているけど
今、俺、超絶ハッピー!!
Hで女性を救うゾンビコメディ♡

「それでも明日も彼氏がいい」
御池慧



「交換ちゃむちゃむ」してみませんか？
エッチはおあずけな彼女からの衝撃提案が、
新しいインモラルの扉を開く！



ヤンマガKC NOW ON SALE!!



「浮気しよ？・う・わ・き」本能刺激するラブストーリー!!

「彼女の友達」

じゅら



僕はヤリマンに恋をした――。エロくてウブいセックス青春グラフィティ！

「だれでも抱ける キミが好き」

武田スーパー

ISBN978-4-06-541836-9

こんな声を聞かれてしまったら
ボクはもう…

男性が女性に虐(しいた)げられる異世界に迷いこんでしまった、
芸大生の新見和也(にいみかずや)。だが、和也はその世界で
「触れるだけで女性が“反応”してしまう魔法の指先」を獲得する。
出会う女性を一人ずつ、確実に虜(とりこ)にしていく和也。
そんな和也の次なる目的地は、女尊男卑どころか「女性しかいない国」。
男とバレるだけで処刑される悪夢の国で、“指先”の真価が問われる…!!

俺の指先で濡れる世界

A world wet with my fingertips



龍大和

presented by Ryu Yamato

young magazine KC

A world wet with my fingertips

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

俺の指先で濡れる世界（３）

2025年12月1日発行（01）

著　　龍大和
© 龍大和 / 講談社
発行者　　宍倉立哉

発行所　　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21

KODANSHA